

お う じ ば る

王 子 原 遺 跡

国営都城盆地農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）

2001

宮崎県埋蔵文化財センター

お う じ ば る

王子原遺跡

国営都城盆地農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）

2 0 0 1

宮崎県埋蔵文化財センター

序

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

宮崎県教育委員会では、国営都城盆地農業水利事業に伴い、王子原遺跡の発掘調査を行いました。本書はその報告書です。

王子原遺跡では、縄文時代および古代の遺構・遺物が検出されました。特に、発掘調査例の少ない当地域において、縄文時代後期から晩期にかけての遺物が豊富に出土したことは注目されます。

こうした先人の歩みを振り返り、郷土の歴史を解明する貴重な資料が得られたことは、大きな成果と言えるでしょう。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成13年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 矢野剛

例　　言

1. 本書は、九州農政局の国営都城盆地農業水利事業に伴い実施された、宮崎県都城市所在の王子原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書の執筆は、第Ⅰ章第1節は宮崎県埋蔵文化財センター調査第四係長 水友良典が、第Ⅰ章第2節・第Ⅱ章・第Ⅲ章・第Ⅳ章は宮崎県文化課主任主事 高橋 誠が行なった。
本書の編集は、高橋が行なった。
3. 遺構の実測等は主に高橋、下田代清海（現 都城市教育委員会）が行なった。また、遺物の整理は宮崎県埋蔵文化財センターにて、整理作業員の補助のもと、高橋が行なった。
4. 土層断面および土器の色調については「新版標準土色帖」に掲る。
5. 本書に使用した方位は、主に座標北である。座標は国土座標第Ⅱ系に掲る。レベルは海拔絶対高である。
6. 本書に使用した写真は高橋が撮影し、空中写真については業者に委託して行った。
7. 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図をもとに作成した。
8. 本書で使用した遺構略号は次のとおりである。
　縦穴住居跡…S A　掘立柱建物跡…S B　土坑…S C　溝状遺構…S E　集石遺構…S I
　縦穴状遺構…S Z
9. 記録類や出土遺物は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 遺跡の位置と環境	2
第2節 層序	4
第3節 調査の経過	4

第Ⅲ章 調査の記録

第1節 縄文時代の遺構と遺物	
縫穴住居跡	9
縫穴状遺構	10
集石遺構	15
溝状遺構	15
土坑	15
包含層出土土器	29
第2節 古代の遺物	55
第3節 時期不明の遺構	
縫穴住居跡	56
縫穴状遺構	56
掘立柱建物跡	56
第4節 石器	61
第Ⅳ章まとめ	83

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第12図 SC 1・2・3・4実測図	21
第2図 基本土層図	5	第13図 SC 5・6・7・8実測図	22
第3図 周辺地形図	6	第14図 SC 9・10・11・12・13・15実測図	23
第4図 遺構分布図及びグリッド配置図	7	第15図 SC 14・16・17・18・19実測図	24
第5図 SA 1・2・3実測図	11	第16図 SC 7・8出土土器実測図	26
第6図 SA 4実測図	13	第17図 SC 8・9・13・14出土土器実測図	27
第7図 SA 1・2・4出土土器実測図	14	第18図 SC 15・16・17出土土器実測図	28
第8図 SZ 1実測図	16	第19図 縄文土器実測図(1)	30
第9図 SZ 1出土土器実測図	17	第20図 縄文土器実測図(2)	32
第10図 SI 1実測図及び出土土器実測図	18	第21図 縄文土器実測図(3)	33
第11図 SE 1実測図及び出土土器実測図	19	第22図 縄文土器実測図(4)	34

第23図 繩文土器実測図 (5)	36	第38図 繩文土器実測図 (20)	52
第24図 繩文土器実測図 (6)	37	第39図 繩文土器実測図 (21)	53
第25図 繩文土器実測図 (7)	38	第40図 繩文土器実測図 (22) 及び 土器片加工品実測図	54
第26図 繩文土器実測図 (8)	39		
第27図 繩文土器実測図 (9)	40	第41図 古代の土器実測図	55
第28図 繩文土器実測図 (10)	41	第42図 S A 5 実測図	57
第29図 繩文土器実測図 (11)	43	第43図 S Z 2 実測図	58
第30図 繩文土器実測図 (12)	44	第44図 S Z 3・4 実測図	59
第31図 繩文土器実測図 (13)	45	第45図 S B 1 実測図	60
第32図 繩文土器実測図 (14)	46	第46図 石器実測図 (1)	63
第33図 繩文土器実測図 (15)	47	第47図 石器実測図 (2)	64
第34図 繩文土器実測図 (16)	48	第48図 石器実測図 (3)	65
第35図 繩文土器実測図 (17)	49	第49図 石器実測図 (4)	66
第36図 繩文土器実測図 (18)	50	第50図 石器実測図 (5)	67
第37図 繩文土器実測図 (19)	51	第51図 石器実測図 (6)	68

表 目 次

第1表 S C計測表	20	第9表 土器観察表 (8)	76
第2表 土器観察表 (1)	69	第10表 土器観察表 (9)	77
第3表 土器観察表 (2)	70	第11表 土器観察表 (10)	78
第4表 土器観察表 (3)	71	第12表 土器観察表 (11)	79
第5表 土器観察表 (4)	72	第13表 土器観察表 (12)	80
第6表 土器観察表 (5)	73	第14表 土器観察表 (13)	81
第7表 土器観察表 (6)	74	第15表 石器計測表 (1)	82
第8表 土器観察表 (7)	75		

図版目次

図版1 滝跡遠景・全景・上層	図版8 VII-A-B-C-D、VII-A-B-C類土器
図版2 SA1-2-3-4-5 SB1 SC2-7-8-13-15-18	図版9 VII-C-D-E-F-G-H-I、IXA-B類土器
図版3 SC19 SE1 SI1 SZ1-2-3-4	図版10 IXB-C-D-E、XA-B-C類土器
図版4 SA1-2-4、SZ1出土土器	図版11 XC-D-E、XI A-B類土器
図版5 SZ1、SI1、SE1、SC7-8出土土器	図版12 XII、XII-A-B-C-D-E-F類土器、土器片加工品、古代の土器
図版6 SC9-13-14-15-16-17出土土器、I・II類土器	図版13 石器、軽石製品、貨錢
図版7 III、IV-A-B、V、VI類土器	

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

農林水産省九州農政局が事業主体となる国営都城盆地農業水利事業は、昭和50年代の地区調査、実施設計を経て昭和62年度から工事が始まった。県文化課が九州農政局都城農業水利事業所と本格的に都城盆地農業水利事業関連の埋蔵文化財協議を開始したのは平成元年度に入ってからであった。事業は水源となる木之内川ダムに近い山田町や高崎町から開始され、平成5年度に山田町中霧島の虎崩遺跡、榎木・田遺跡、平成7年度に高崎町大牟田の黒勢戸遺跡、上示野原遺跡でそれぞれ幹線用水路のパイプライン敷設工事に伴う発掘調査が実施された。

その後、都城地区の工事も開始され、平成8年度の事業照会に対する九州農政局都城盆地農業水利事業所の回答により、都城市安久町でファームボンドの建設が実施されることが判明し、その工事用道路（ファームボンド完成後は取り付け道路として使用）が王子原遺跡地内を通る計画であったため、県文化課では用地取得の完了を待って平成9年9月30日から10月1日までの2日間確認調査を実施した。確認調査は工事用道路予定区の西側の平坦面約150mの区間にについておこなったところ、御池ボラ層の上層で多数の縄文土器や礫等が検出されたのをはじめ、ボラ層下位層からも数点の礫が検出されたため、遺跡の取り扱いについて協議した。事業の変更等が困難であったため、平成10年4月3日付けの工事通知を受けて発掘調査の指示をおこない、「埋蔵文化財発掘調査負担契約書」を締結した。発掘調査は平成10年5月18日から9月29日まで県埋蔵文化財センターが実施した。

第2節 調査の組織

王子原遺跡 調査（平成10年度）

調査主体 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	田中 守
副所長	江口 京子
庶務係長	児玉 和昭
調査第二係長	青山 尚友
同 主査	谷口 武範（調整担当）
同 主事	高橋 誠（調査担当）
同 調査員（嘱託）	下田代清海
試掘・事業調整担当	永友 良典（県教育委員会文化課）

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 遺跡の位置と環境（第1図）

王子原遺跡の所在する都城市は東側を鶴塚山系、西側を瓶台山や白鹿岳などの山地や霧島山系に囲まれた盆地の中央部に位置する。王子原遺跡は市域南西部の安久町に所在し、都城盆地南部を西流する萩原川左岸の金御岳（標高472m）北側山裾部、標高203m～210mの丘陵に位置する。

周辺の遺跡を時代を追って概観してみると、旧石器時代では本遺跡北西部を北流する梅北川左岸に細石刃石器群を出土した大岩田上村遺跡が位置する。縄文時代では大淀川と梅北川に挟まれた台地上の宮尾・立野遺跡や萩原川左岸の天ヶ測遺跡で早期の土器が出土し、梅北川上流の緩毛原第2遺跡では前期～中期の土器、大岩田上村遺跡や隣接する大岩田村ノ前遺跡、梅北川を挟んだ台地上の横尾原遺跡、黒土遺跡、緩毛原第2遺跡の北東部に隣接する嫁坂遺跡、梅北佐土原遺跡などで後期、晚期を中心とした遺物が出土している。弥生時代～古墳時代の遺跡としては、黒土遺跡、大岩田村ノ前遺跡、市街地南東部の上ノ園第2遺跡、鹿児島県に隣接した大淀川右岸の鶴尾第2遺跡、梅北川上流の段丘上に位置する大浦遺跡など豎穴住居跡を検出した遺跡があげられる。中世～近世では、溝状遺構や道路状遺構を検出した大岩田村ノ前遺跡、大岩田上村遺跡、黒土遺跡、水田跡や畠跡を検出した天ヶ測遺跡、鶴尾遺跡、嫁坂遺跡、天ヶ測遺跡の後背丘陵地に位置する中世城郭の六ヶ城、池平城、中世の砦跡といわれる天ヶ峯陣跡、金御岳遺跡、寺院跡の西生寺跡（古代、近世）、千手院跡、勝軍院跡、近世の道標である今町一里塚などがある。

〔参考・引用文献〕

『宮崎県史』資料編 考古 I 宮崎県史刊行会 1989

「都城市遺跡詳細分布調査報告書（市内南部）」「都城市文化財調査報告書」第6集

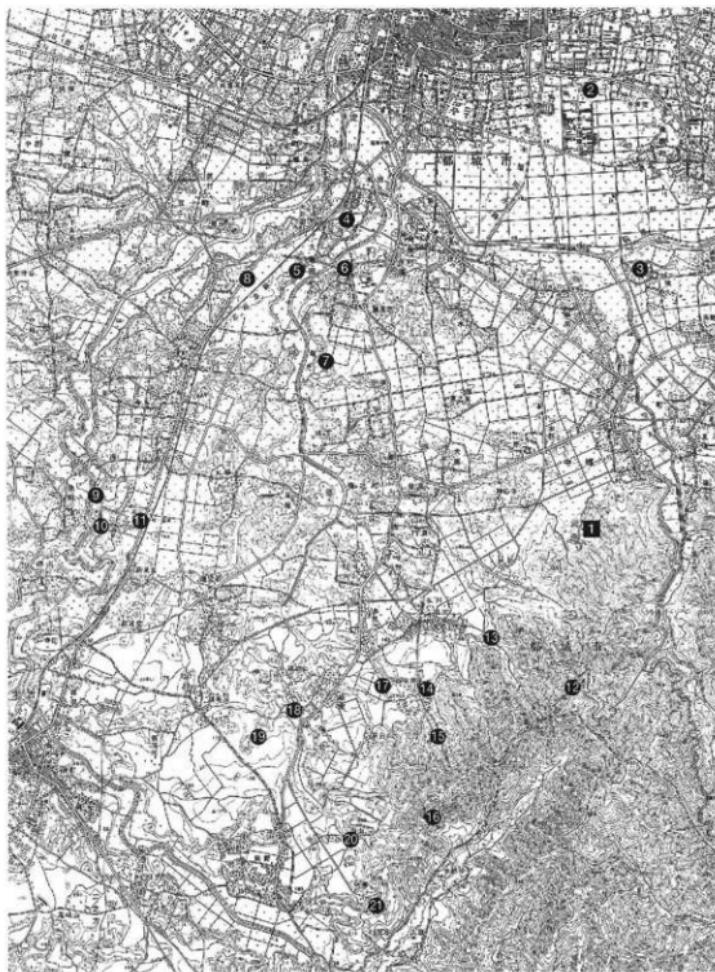
都城市教育委員会 1987

「大岩田村ノ前遺跡発掘調査報告書」「都城市文化財調査報告書」第14集 都城市教育委員会 1991

「黒土遺跡」「都城市文化財調査報告書」第28集 都城市教育委員会 1994

「天ヶ測遺跡」「都城市文化財調査報告書」第33集 都城市教育委員会 1995

「大浦遺跡」「都城市文化財調査報告書」第37集 都城市教育委員会 1997



- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. 王子原遺跡 | 8. 宮尾・立野遺跡 | 15. 西生寺跡（平安） |
| 2. 上ノ園第2遺跡 | 9. 鎌尾第2遺跡 | 16. 天ヶ峯陣跡 |
| 3. 天ヶ測遺跡 | 10. 鎌尾遺跡 | 17. 梅北佐土原遺跡 |
| 4. 大岩田村ノ前遺跡 | 11. 今町一里塚 | 18. 嫁坂遺跡 |
| 5. 大岩田上村遺跡 | 12. 金御岳遺跡 | 19. 線毛原第2遺跡 |
| 6. 黒土遺跡 | 13. 勝軍院跡 | 20. 大浦遺跡 |
| 7. 横尾原遺跡 | 14. 西生寺跡（近世） | 21. 千手院跡 |

第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

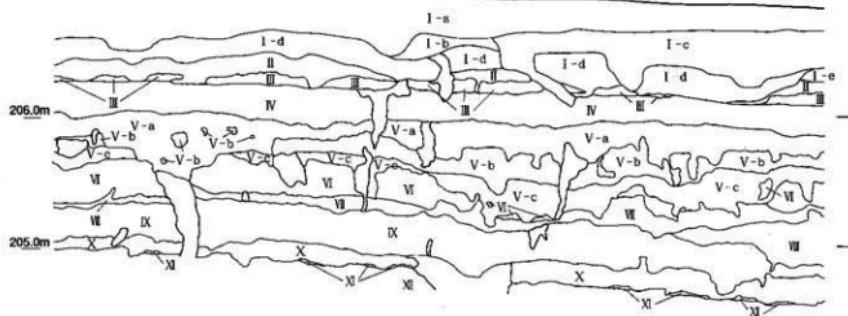
第2節 層序（第2図）

遺跡の地形は、調査区の中央付近から南東方向にかけては山頂に向かって急傾斜を形成し、反対方向は山裾に向かって緩斜面を成す。このため土層の堆積も一様ではなく、各層とも全体的には調査区北西側の山裾に向かって堆積が厚くなる。層ごとに堆積状況をみてみると、調査区中央部の緩斜面には表土から50cm～70cm下で文明降下軽石（白ボラ）の二次堆積層（Ⅲ層）が10cm程堆積し、黒褐色粘質土を挟んで表土から約1m下から遺物包含層（V層）が50cm～70cm堆積している。V層は御池降下軽石粒の混入割合によって性質が異なっており、3層に細分できる。上層から1mm～3mm程度の軽石粒がわずかに混入し粘性の全くない褐色土をV-a層とし、1mm～5mm程度の軽石粒が多く混入し粘性のある硬質の黄褐色土層をV-b層、2mm以下の軽石粒が密に混入し粘性の無い黄褐色土層をV-c層とした。V-c層の下位には御池降下軽石層（VI層）が20cm～30cm堆積し、1層挟んだ下からは土石流と思われる多くの小礫や角礫を含んだ強い粘質土層（VII層）が厚い部分では1m程堆積していた。IX層は遺物をわずかに含むにぶい黄褐色のシルト質土層で、20cm～30cm程堆積している。X層はアカホヤの堆積層で、調査区中央部では20cm、北西部では50cm堆積している。

V層については縄文時代中期後葉～晩期の遺物が豊富に出土しており、細分した層の堆積状況を詳細に記述する。V-a層は調査区北東部では10cm程の堆積であるが、中央部の緩傾斜付近になると20cmとなり中央から北西部にかけては30cmと更に厚みを増す。V-a層からは縄文時代後期～晩期の遺物が多く出土している。V-b層は調査区北東部で15cm～20cm堆積しているが、急傾斜の中位で一旦10cmと厚みを減らした後中央部付近で30cm程に安定する。北西部にかけては一部分で層の乱れがみられるが、北西隅付近で再び20cm程に安定して堆積する。V-c層は南東部の傾斜地では10cm程の堆積しかみられないが、中央部付近の緩斜面で30cm～40cmと厚く堆積し、北西部にかけてはV-b層と同様に層の乱れる箇所を経て北西隅付近で15cm～20cm程に落ち着く。V-c層出土遺物は縄文時代中期末～後期が中心である。

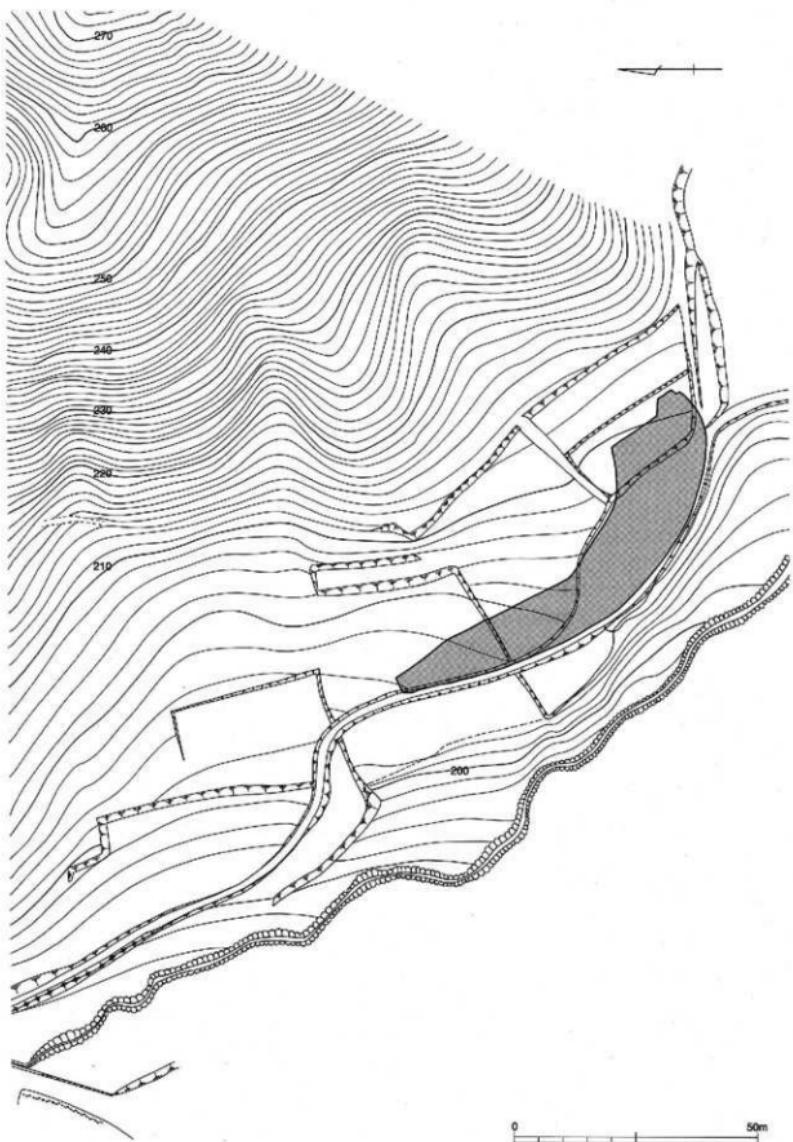
第3節 調査の経過

平成10年5月18日からファームボンド管理道路部分の調査を開始した。調査ではまず試掘により調査区全体の遺物包含層の確認を行った後、廃土置き場の確保のため調査区を2分し、南側から本調査を開始した。調査方法はまず土層観察用ベルトを中心で残しながら遺物包含層（V-a層）までを重機により慎重に除去した後、包含層を人力により1層ずつ掘り下げV-c層で遺構を検出した。検出遺構は堅穴住居跡4軒、堅穴状遺構1基、集石遺構1基、溝状遺構1条、土坑12基、ビット群である。遺構の集中した箇所については記録を終えた後7m四方のグリッドを設定し更に掘り下げを行ったが、IX層からわずかに遺物が出土したのみであった。8月上旬から調査区を北側に移し、南側と同様の手順で調査を進めた。VI層では堅穴住居跡1軒、堅穴状遺構3基、土坑5基、ビット群を検出した。X層からは掘立柱建物跡1棟、堅穴状遺構1基、土坑2基、ビット6基を確認した。調査区が狭小であったためそれ以上の深掘は避け、平成10年9月29日に調査を終了した。

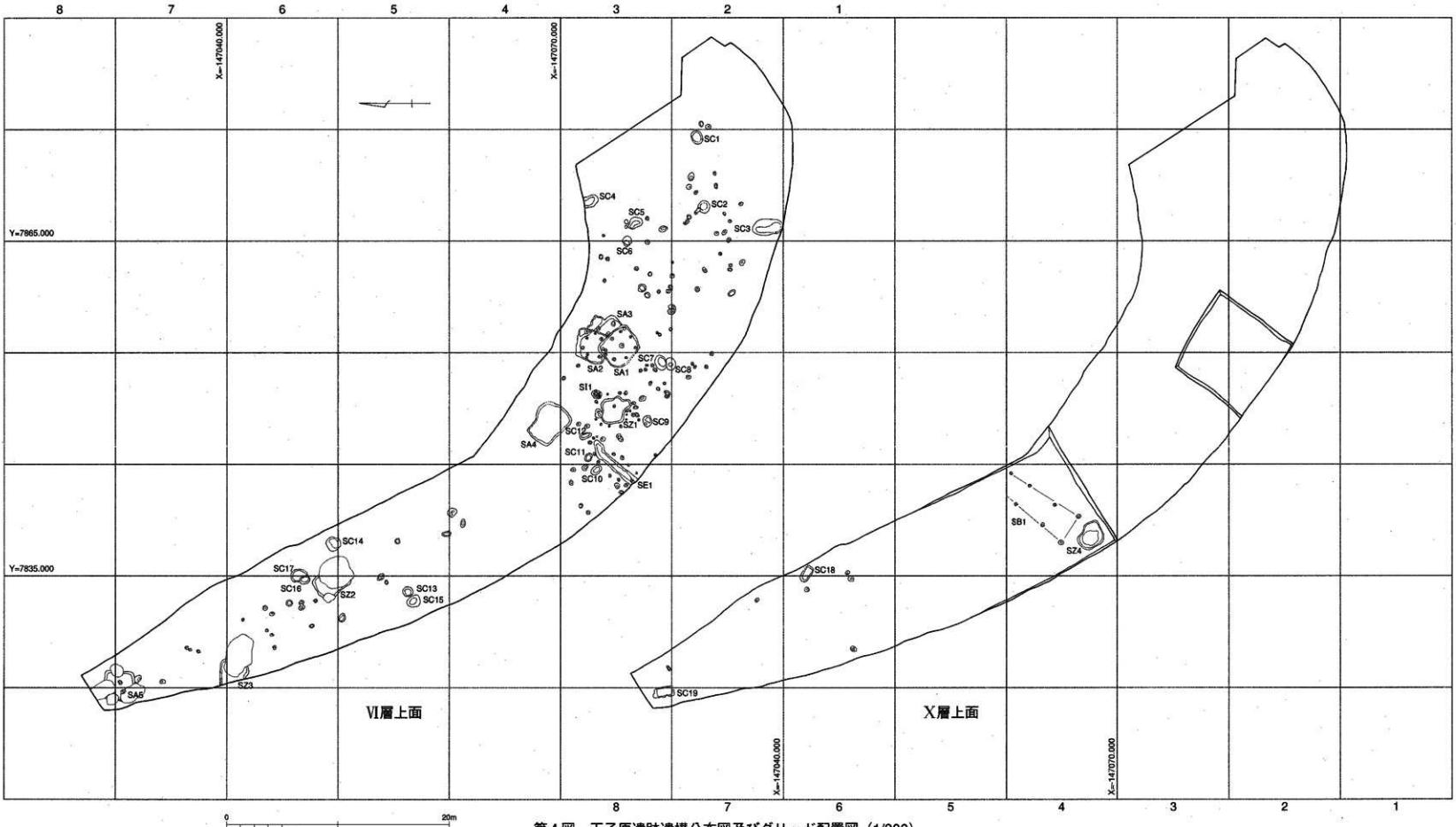


- I-a 黒褐色 (10YR3/2) 非粘質土~1~3mm白色バミス、1cm砂質角礫少量含む。
- I-b 黒褐色 (10YR3/2) 非粘質土~非常に硬くしまる。1~3mm白色バミス密に混入。
- I-c 黒褐色 (10YR3/2) 非粘質土~しまりなし。1mm以下白色バミス多く含む。
- I-d 黒褐色 (10YR3/1) 非粘質土~しまり強い。3~5mm白色バミス多く含む。
- I-e 褐色 (10YR4/4) 非粘質土~しまり弱い。上位にアカホヤ混じる。白色バミスまばらに含む。
- II 黒色 (10YR2/1) 非粘質土~しまり若干あり。3~5mm白色バミス多く含む。
- III 文明降下軽石層~下位ほど粒が小さく、下層付近では砂粒状となる。
- IV 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土~しまり若干あり。1mm明黄褐色バミスまばらに含む。
- V-a 褐色 (10YR3/2) 非粘質土~しまりなし。1~3mm明黄褐色バミス微量に含む。
- V-b 黄褐色 (10YR5/6) 粘質土~硬くしまる。1~5mm明黄褐色バミス多く含む。2mm炭化物微量に混入。
- V-c 黄褐色 (10YR5/6) 非粘質土~しまりあり。2mm以下明黄褐色バミス密に含む。
- VI 御池降下軽石層~下位ほど粒が大きくなる。
- VII 黄褐色 (10YR5/4) シルト質土~しまりあり。2~4mm明黄褐色バミス多く含む。
- VIII にぶい赤褐色 (5YR5/4) 強粘質土~しまり弱い。2~4cm砂質礫多く含む。6~13cm角礫少量含む。
5mm以下橙色バミス及び3mm赤褐色バミス微量に含む。
- IX にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト質土~しまり若干あり。1mm炭化物わずかに混入。
- X アカホヤ層
- XI 掘灰色 (10YR4/1) 砂~8mm以下の火山豆石密に混入。
- XII にぶい赤褐色 (5YR5/4) 強粘質土~しまり弱い。2mm以下橙色バミス及び赤褐色バミスまばらに含む。

第2図 基本土層図



第3図 王子原遺跡周辺地形図 (1/1000)



第4図 王子原遺跡遺構分布図及びグリッド配置図(1/300)

第三章 調査の記録

遺構を検出したVI層は標高202m～209mの西向き斜面で、調査区の中央から東側は山頂に向かって急斜面を形成するが、北寄りにかけては緩斜面となる。確認した遺構は竪穴住居跡（S A）5軒、竪穴状遺構（S Z）3基、集石遺構（S I）1基、溝状遺構（S E）1条、土坑（S C）17基で、土坑6基以外は全て傾斜の比較的安定した斜面で検出した。VI層から1m掘り下げたX層では、竪穴状遺構1基（S Z 4）、土坑2基（S C 18・19）、掘立柱建物跡（S B 1）1棟をいずれも緩斜面で検出した。なお、竪穴状遺構は全て抜根等で擾乱を受けており形状が明確でないが、平面プランや床面の形状等からから竪穴住居跡の可能性がある。遺物は縄文時代前期から晩期、および古代のものが出土した。その中でも縄文時代後期から晩期にかけての遺物が多数を占める。

第1節 縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡については4軒から縄文時代の遺物が出土している。また、竪穴状遺構1基、土坑8基、集石遺構および溝状遺構からも縄文時代の遺物が出土している。遺構出土の遺物を概観すると、竪穴住居及び竪穴状遺構出土のものは中期後葉から後期前葉にかけてのものが多く、土坑は後期後葉から晩期にかけての土器を中心に出土している。なお、検出面が傾斜地であり遺物の流れ込みも十分想定されるため、同一遺構内から時期の異なる遺物が出土しているものについては、出土状況について詳細に記すこととする。また、石器については第4節で一括して記述する。

S A 1 （第5図・第7図 1、2）

調査区中央よりやや東側の傾斜地で検出した。土層観察の結果、遺構の北側で2軒の住居跡を切っていることを確認した。主軸方位はN43° Wを指す。平面プランは、規模が長軸3.2m、短軸2.8mで南西側壁面が膨らむ隅丸方形を呈する。検出面からの深さは約0.3mで、床面は長軸方向が碗状にわずかに窪み、短軸方向は南西側に若干傾斜する。床面に硬化面や焼土等は確認できなかった。主柱穴は中央に段堀り穴1基と同心円状に7基を配する。床面からの深さは0.3m～0.4mを測る。

遺物は床面上直上から台石が1点、床面から10cm程度浮いた状態で土器片数点が出土した。そのうち特徴的な2点を図化した。1、2はともに深鉢の胴部で、1は棒状工具により深い沈線、2は浅い沈線をそれぞれ施している。器面調整はともに両面貝殻条痕を施し、外面はその上をナデている。

S A 2 （第5図・第7図 3～5）

S A 1に南側が切られ、東壁がS A 3を切っている。N18° Eを主軸にとる。規模は推定長辺2.6m、短辺2.5mの方形を呈する。検出面からの深さは約0.2mで、床面は南東隅に向かって傾斜する。北西隅には床面積0.3m²程のテラスが造られ、テラス部の床面形状は中央部が若干盛り上がる間仕切り状を呈する。主柱穴は長軸を南北壁面に平行してとる楕円形配置に7基検出した。床面からの深さは約0.1mを測る。

遺物は床面直上から出土した。3は深鉢の口縁部で口唇部には横位にナデを施し凹線状を呈する。口唇部直下には凹線により渦巻文を施している。器面調整は両面ナデである。5は胴部に若干膨らみをもち口縁部が直口するもので、口縁部を肥厚させ、口唇部には山形突帯を貼り付け波頂部に棒状工具による押圧刻みを施す。胴上半部にも突帯を巡らせ押圧を連続させている。突帯間に上下および斜位にへラ状工具により沈線で区画を施し、平行沈線文や曲線文を充填している。器面調整は外面貝殻条痕後ナデ、内面ナデである。

S A 3 (第5図)

S A 1・S A 2により切られ、床面の大部分を失っている。北東側に不整形の遺構を検出したが、住居跡との切り合い関係は確認できなかった。主軸方位はS A 1と同じで、平面プランは隅丸方形を呈するものと思われる。検出面からの床面の深さは最深部で0.3mを測る。柱穴は中央部付近に1基、壁面沿いに2基確認した。深さは0.1m～0.15mを測る。

土器片が床面から10cm程度浮いた状態で出土したが、小片であるため器種については不明である。

S A 4 (第6図・第7図 6～9)

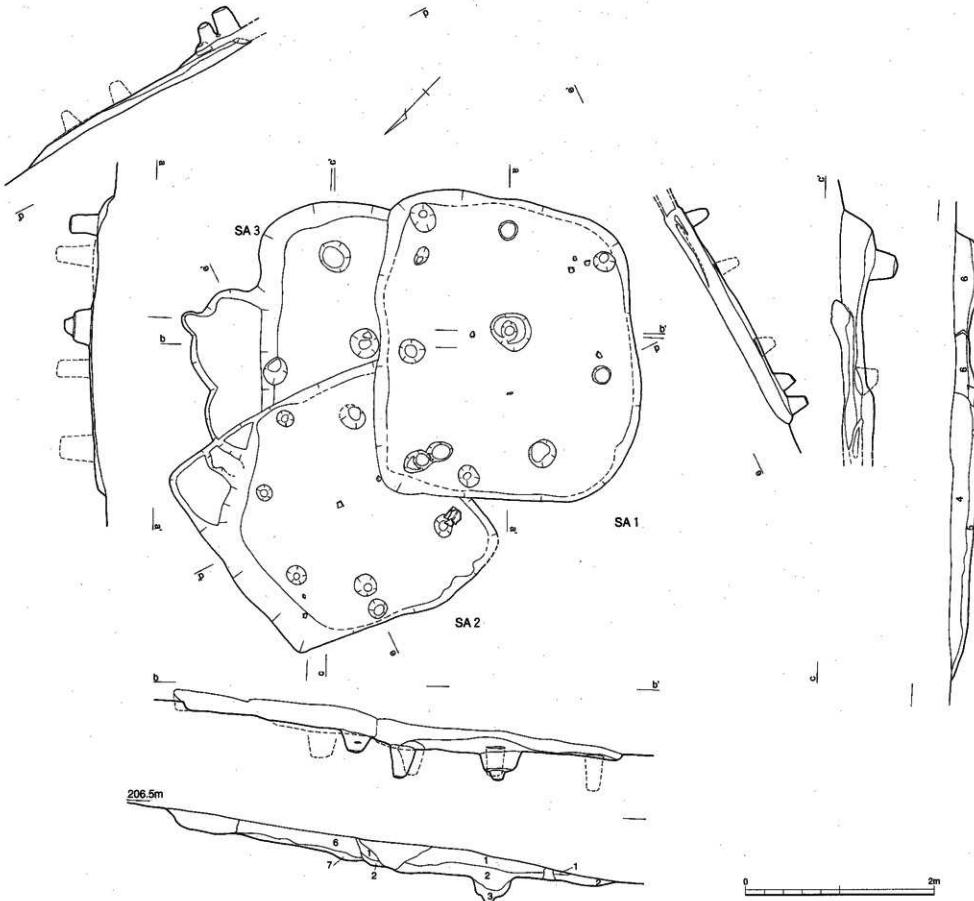
調査区中央部の緩斜面で検出した。遺構の検出状況から2軒の切り合いが想定されたが、土層断面観察の結果、N50°Wを主軸にとり北東側壁面の一部が張り出した1軒の住居跡であることが確認された。平面プランは北東側壁面が中央部から東側隅にかけて張り出す不整長方形を呈する。規模は長軸3.65m、西側短軸2.25m、東側短軸2.95mを測る。床面はほぼ平坦であるが、長軸方向が北西側に若干傾斜する。検出面からの床面の深さは最深部で約0.4mを測る。床面に主柱穴は検出できなかった。

遺物は土器片を9点、床面から浮いた状態で確認した。そのうち4個体を図示した。6は床面から20cm程浮いた状態で出土しており、埋土からも流れ込みの可能性がある。口唇部に貝殻腹縁による連続押圧刻みを施し、外面に横位に平行沈線を施している。調整は外側ナデ、内面は横位に貝殻条痕を明瞭に残す。7は床面から15cm程浮いた位置で出土した。口縁部を欠いているが、胎土、色調、調整などから56(第21図)と同一個体になる可能性がある。胴上半部に横位、斜位の沈線を施している。口縁部にかけて複線三角形文を施すものと思われる。両面ともに貝殻条痕を施す。8、9は床面から15cm程浮いて出土した。8は端部が短く張り出し胴部がやや内湾しながら大きく開く。底部にはアジロ編み圧痕がみられる。調整は外側底部付近が縦位に貝殻条痕を施し、外側胴下半部および内面は条痕後ナデを施す。9は端部が張り出し胴部が外反しながら立ち上がるもので、全面ナデを施す。

S Z 1 (第8図・第9図 10～17)

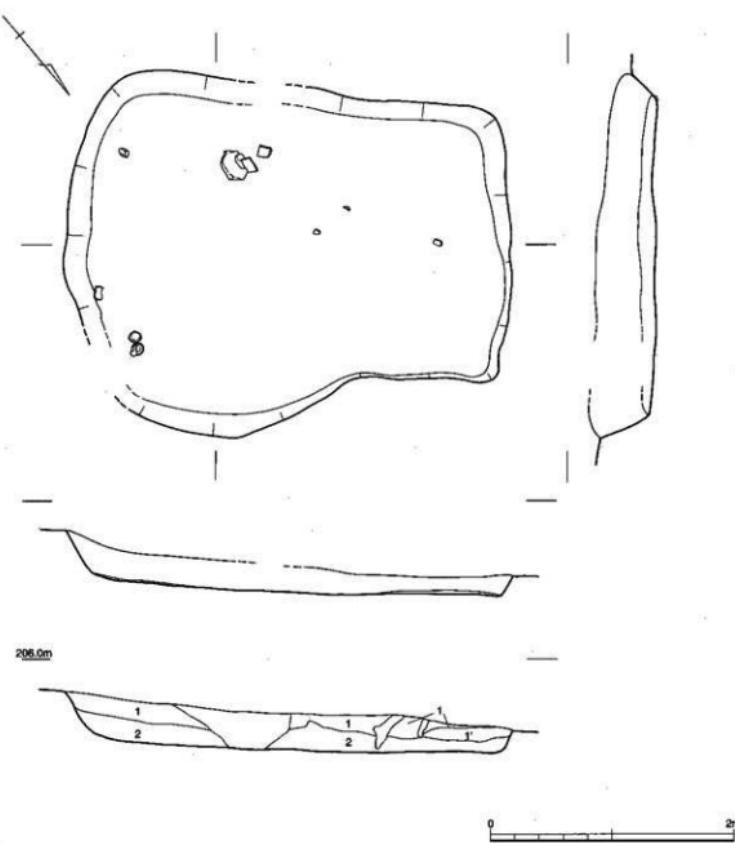
調査区中央部で検出した。南壁が凸状に突出する不整形を呈する遺構で、北壁には軸長0.8m～1m深さ0.4mの土坑が接する。規模は長軸3.9m、短軸3mを測る。床面は中央部に向かって若干窪み、検出面からの深さは最深部で0.45mを測る。床面の中央部西寄りで深さ約0.3mの柱穴を1基確認したほか、直径0.25m～0.45mほどの柱穴を10基、遺構を取り囲むように馬蹄形状に検出した。

遺物は土器片多数のほか、打製石斧1点が床面から20cm浮いた位置で出土している。10は口縁部が直口し、口唇部に山形突帯を貼り付けるもので、波頂部には棒状工具により押圧刻みを施し、突帯外面に



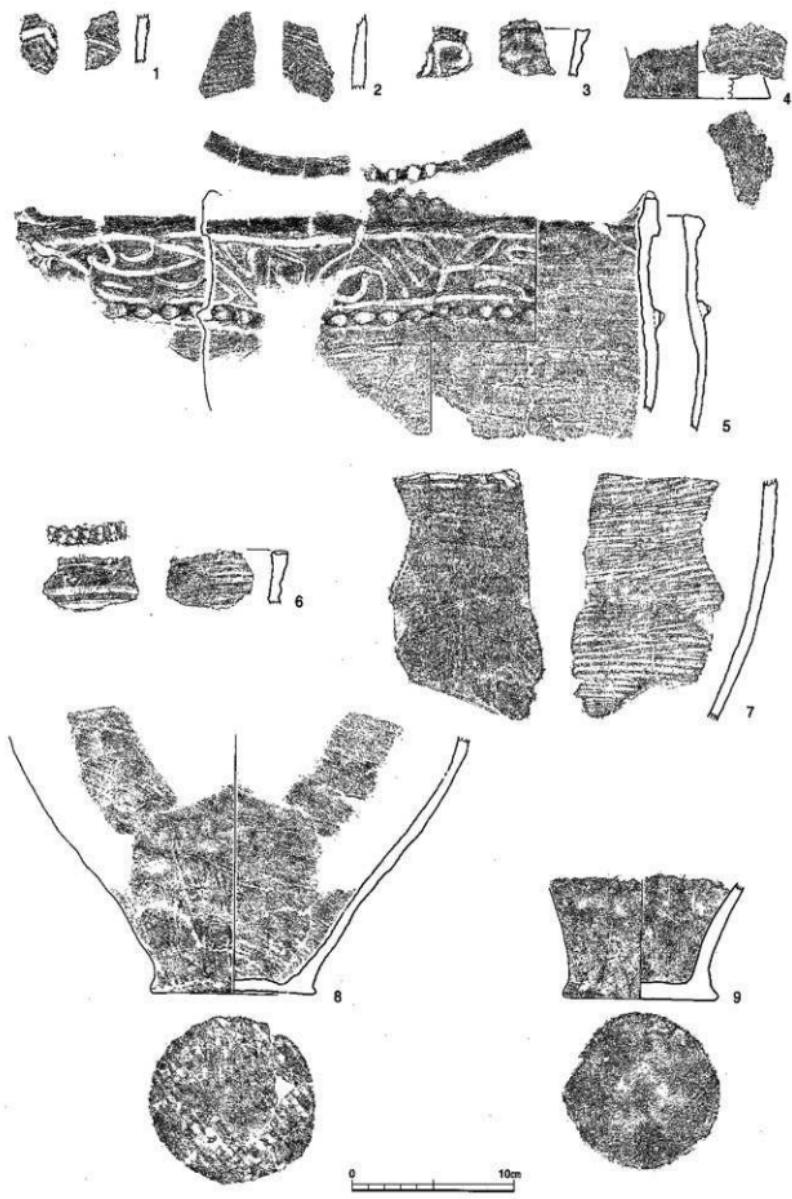
第5図 SA 1・2・3 実測図 (1/40)

- 1 暗褐色 (10YR 3/4) 非粘質土～しまりあり。2～5mm御池ボラ粒を多量に含む。
3cm程の黄褐色 (10YR 5/6) 粘質土ブロック多く混入。
2mm程の炭化物まばらに混入。
- 2 黄褐色 (10YR 5/6) 非粘質土～しまり弱い。1mm以下御池ボラ粒が密に混じる。
- 3 明黄色 (10YR 6/6) 非粘質土～しまり弱い。1～2mm御池ボラ粒が密に混じる。
- 4 にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 非粘質土～しまりあり。2mm程の御池ボラ粒まばら、
1mm以下御池ボラ粒密に混じる。
5cm程の明黄色 (10YR 6/6) 非粘質土ブロックまばらに混じる。
- 5 にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 非粘質土～しまりあり。1mm以下御池ボラ粒密に混じる。
- 6 褐色 (10YR 4/4) 非粘質土～しまり弱い。1mm以下御池ボラ粒多く含む。
- 7 褐色 (10YR 4/4) 非粘質土～しまりあり。1mm以下御池ボラ粒密に混じる。



- 1 黄褐色(10YR5/6) 非粘質土～硬くしまる。
 2 mm以下御池ボラ粒が密に混じる。
- 1' 黄褐色(10YR5/6) 非粘質土～しまり弱い。
 1 mm以下御池ボラ粒が密に混じる。
- 2 褐色(10YR4/4) 弱粘質土～しまり若干あり。
 1 mm以下御池ボラ粒を多く含む。
 1 cm程の砂礫わずかに混じる。

第6図 SA 4 実測図 (1/40)



第7図 SA 1・2・4 出土土器実測図 (1/3)

凹点を施文する。口縁部には幅の狭い凹線で蘇手文を施文しナデを施した後左右に横位の凹線文を平行させている。器面調整は外面ナデ、内面貝殻条痕を横走させた後ナデを施す。11は10と同一個体と思われる。10、11と同一個体の土器片が床面直上から出土している。12は端部がわずかに外反し、胴下半部がやや開きながら直線的に立ち上がる底部で、器面調整は両面ナデである。13は口縁部に平行する沈線が鋸歯状に施されている。器面調整は外面にナデ、内面に横位の貝殻条痕を施す。13、14は床面から30cm浮いて出土している。15は頸部が屈曲し口縁部が大きく外反する深鉢で、肩部が張るものと思われる。外面に貝殻条痕、内面にナデを施す。床面から10cm上で出土している。16は深鉢の口縁部で、外面口唇部のやや下位に三角形突帯を貼り付ける。17は口縁部がボール状に立ち上がる粗製の浅鉢で口縁部下位に貼付突帯を巡らせている。外面にナデ、内面にミガキを施す。

S I 1 (第10図 18、19)

調査区のほぼ中央部で検出した。平面形が長軸0.9m、短軸0.7mの楕円形を呈し底面をほぼ水平に保つ深さ0.3mの堀込みに、砂岩質の礫を組み入れている。礫の組み方は、土坑の底面に大きさ30cm、厚さ5cmほどの扁平な角礫をほぼ水平に置き床石とし、床石を取り囲むように10cm～20cm大の角礫を垂直あるいは斜め方向に並べて組んでいる。ほとんど全ての礫の表面は火熱を受け赤化しているが、破損した礫はみられない。なお、土坑の底面に直径0.15mのピットを検出したが、土層観察により土坑に切られた遺構であることを確認した。

遺物は中位の礫上から土器片が2点出土した。18は口唇部にヒレ状突起をもつ粗製の浅鉢で、口縁部下位に突帯を巡らせている。器面調整は外面にナデ、内面に丁寧なナデを施す。19は深鉢の胴部である。外面ナデ、内面横位の貝殻条痕を施す。

S E 1 (第11図 20)

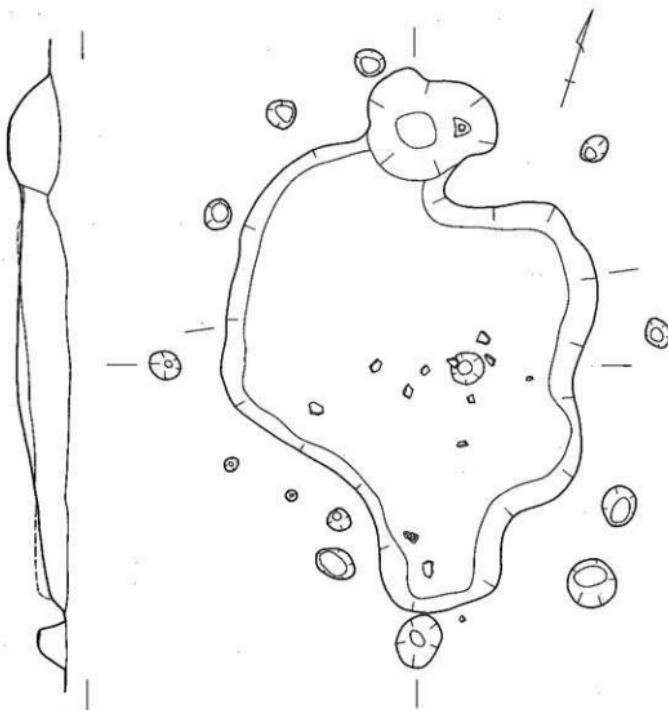
調査区中央部西側で検出した。遺構は山の斜面に沿って北東方向に約4m延び、東に45°屈折して1.2m程更に延びる。なお、低位は調査区外へ続く。溝の幅は0.8m～1mで、検出面からの深さは最深部で0.4mを測る。底面は断面U字形を呈し、上位に向かって次第に浅くなる。溝の両脇には柱穴が対をなすように並んでおり、その数は13基を数える。1mm程度の御池ボラ粒を多く含む非粘質の褐色土を埋土とする。

遺物は遺構の中央部床面付近から土器片が1点出土した。20は深鉢の胴部と思われる。器面調整は外面に貝殻条痕後ナデ、内面に横位の貝殻条痕を施す。

S C群 (第12図～第15図)

土坑群については縄文時代の遺物を伴うものは8基(S C 7～S C 9、S C 13～S C 17)であるが、便宜上そのほかの土坑についても一括して記載する。

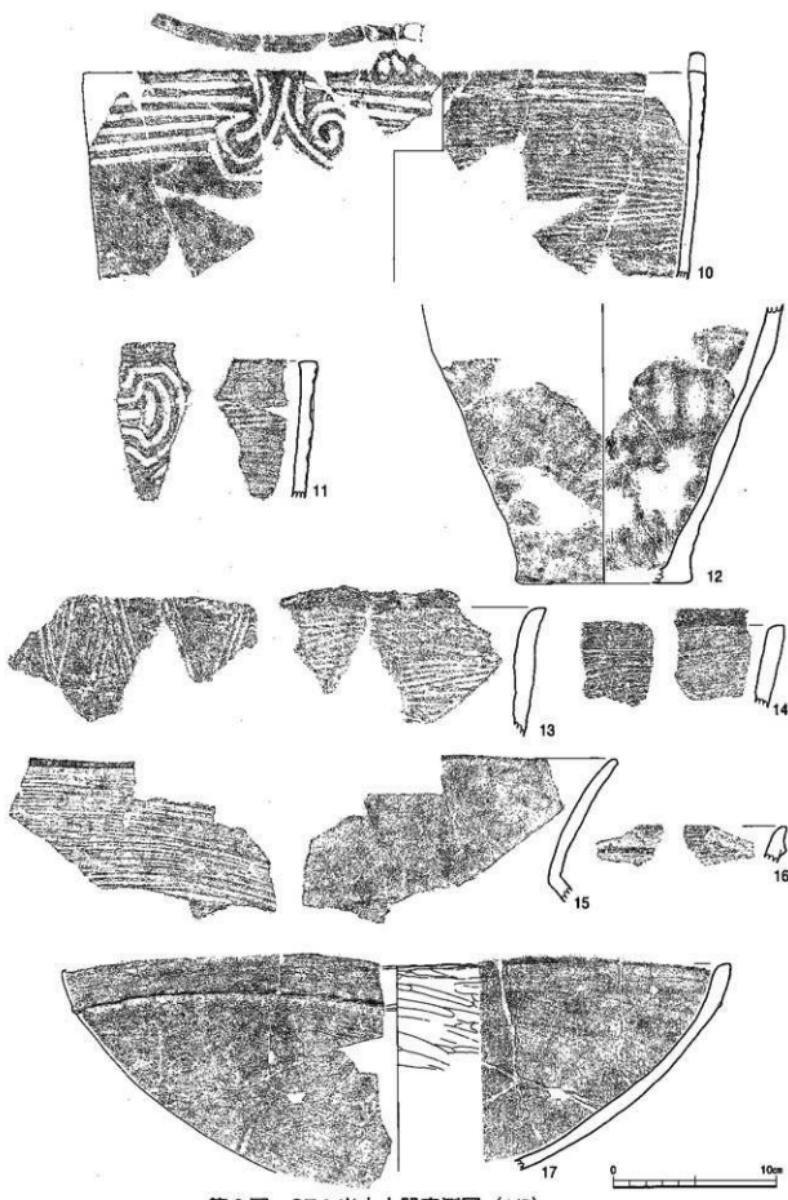
第VI層上面で調査区東側の急斜面に6基(S C 1～S C 6)、調査区中央部のS A群周辺に6基、調査区北側のS Z 2周辺に5基検出した。第X層上面ではS C 18を調査区北側東寄りで、S C 19を調査区北端で検出した。ここではS C群を平面形により5類に分類し、底面の形状により9類に細分した。



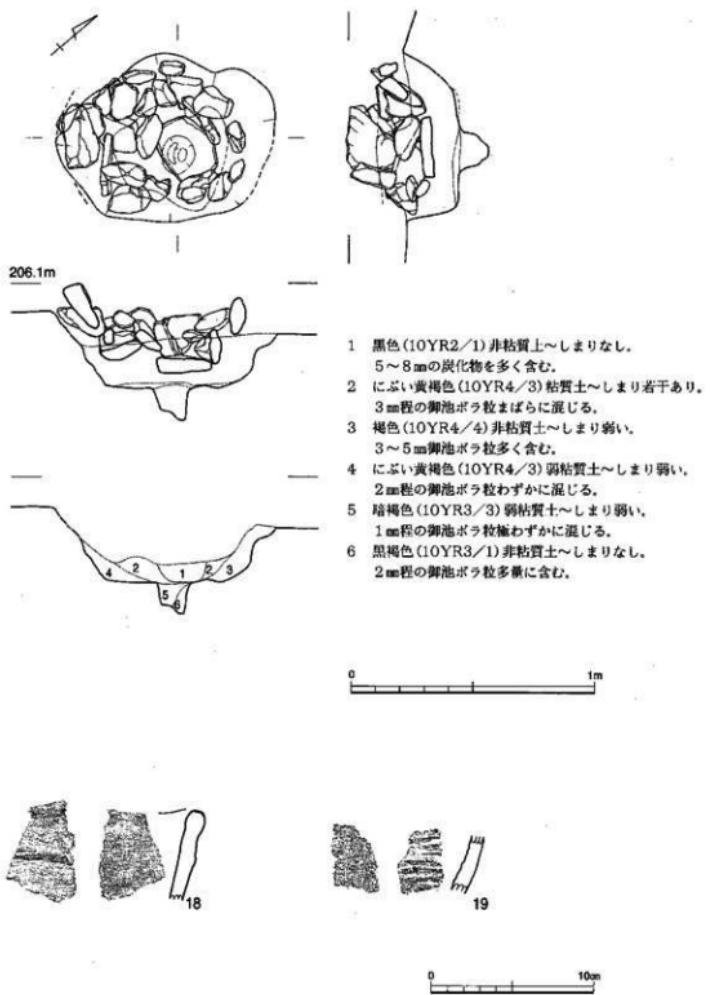
205.8m



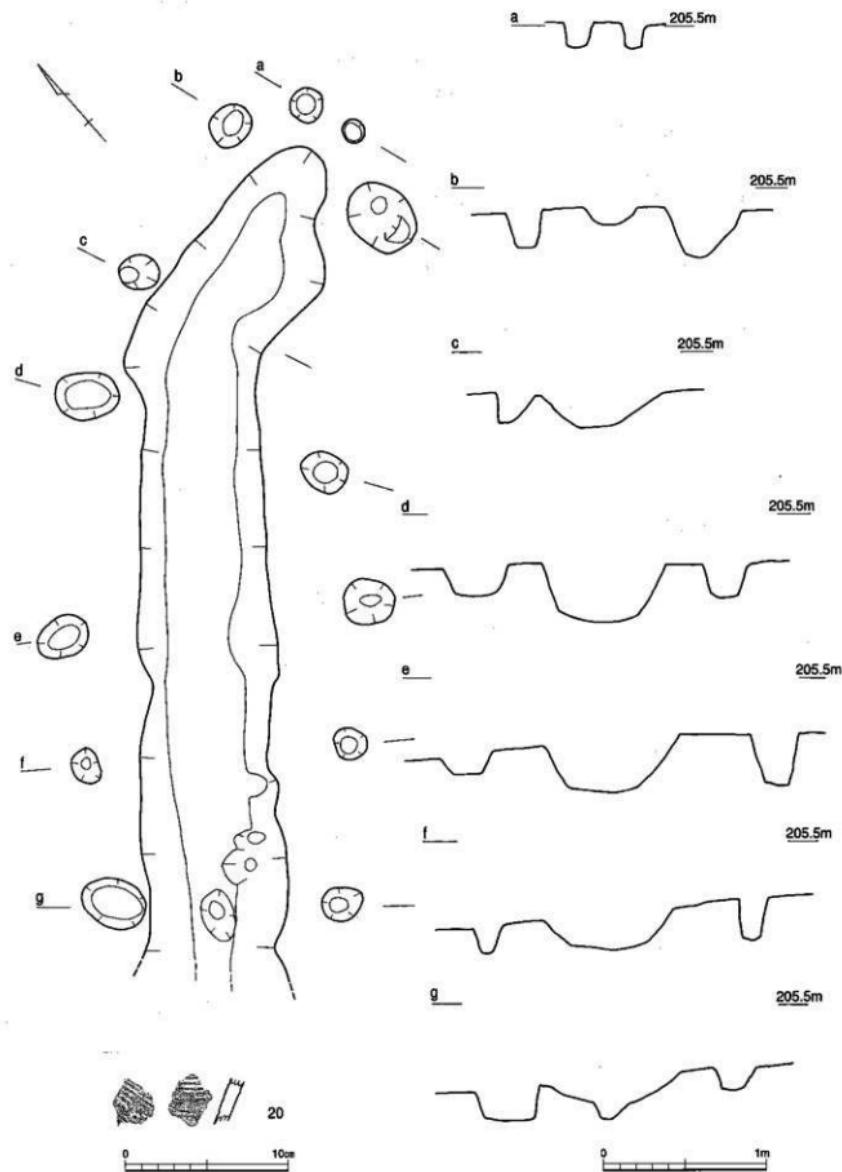
第8図 SZ 1 実測図 (1/30)



第9図 SZ 1 出土土器実測図 (1/3)



第10図 SI 1 実測図 (1/20) 及び出土土器実測図 (1/3)



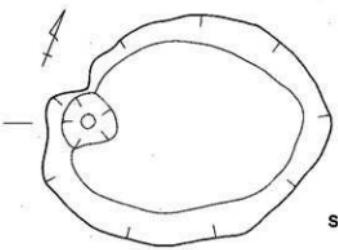
第11図 SE 1 実測図 (1/30) 及び出土土器実測図 (1/3)

- | | |
|-------------------|----------------|
| I 円形を呈するもの | A 平底のもの |
| | B すり鉢状を呈するもの |
| | C 壁中位にテラスをもつもの |
| II 長椭円形を呈するもの | A 平底のもの |
| | B すり鉢状を呈するもの |
| III 隅丸（長）方形を呈するもの | A 平底のもの |
| | B すり鉢状を呈するもの |
| IV 長方形を呈するもの | A 平底のもの |
| | B 壁中位にテラスをもつもの |
| V 不整形を呈するもの | 底面はすり鉢状を呈する |

各造構の法量等を以下に示す。

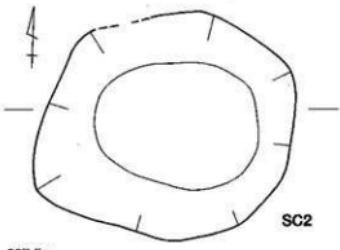
第1表 SC計測表

SC番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	類型	備考
SC 1	1.20	0.92	0.30	I-A	
SC 2	1.00	0.94	0.40	I-A	
SC 3	2.5以上	1.43	0.30	II-A	長軸方向傾斜に直交、一部調査区外
SC 4	1.3以上	0.93	0.40	II-B	長軸方向傾斜に直交、一部調査区外
SC 5	1.20	1.03	0.30	V	
SC 6	0.90	0.75	0.40	IV-B	短軸の片方にピット状の落ち込み有り
SC 7	1.30	1.00	0.30	I-C	SC 8を切る
SC 8	1.00	(0.80)	0.34	I-C	
SC 9	0.92	0.82	0.25	I-C	
SC 10	0.82	0.62	0.30	III-B	
SC 11	0.58	0.57	0.35	I-A	
SC 12	1.05	0.50	0.30	II-A	長軸方向傾斜に直交
SC 13	0.89	0.89	0.32	I-B	
SC 14	1.20	1.20	0.58	I-B	
SC 15	1.20	0.95	0.38	III-B	
SC 16	0.78	(0.70)	0.42	III-A	SC 17を切る
SC 17	1.43	1.08	0.28	III-A	
SC 18	1.45	0.72	0.70	IV-A	長軸方向傾斜に平行
SC 19	1.68	0.80	0.75	IV-A	長軸方向傾斜に平行



206.6m

SC1

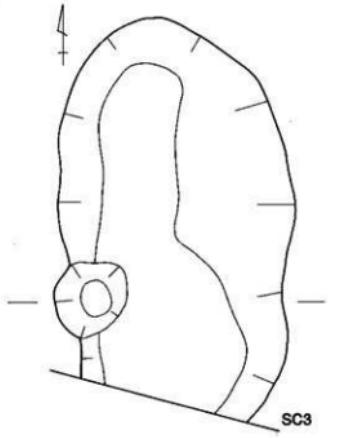


207.5m

SC2



0 1m

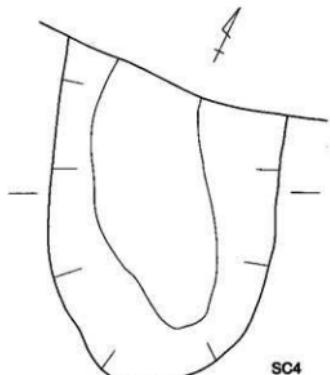


206.7m

SC3



0 1m

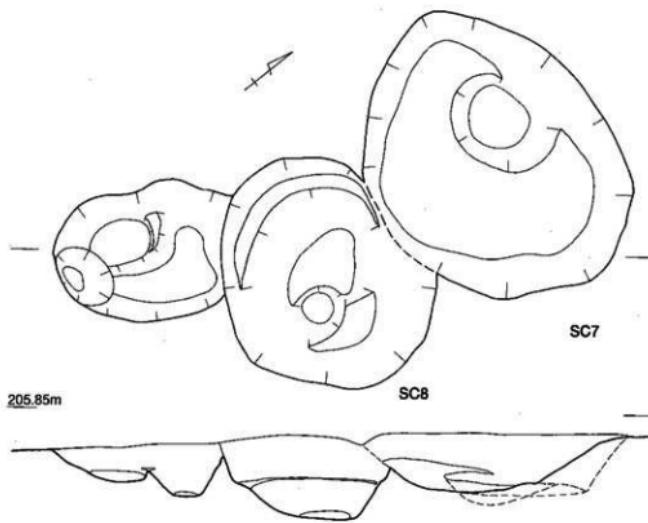
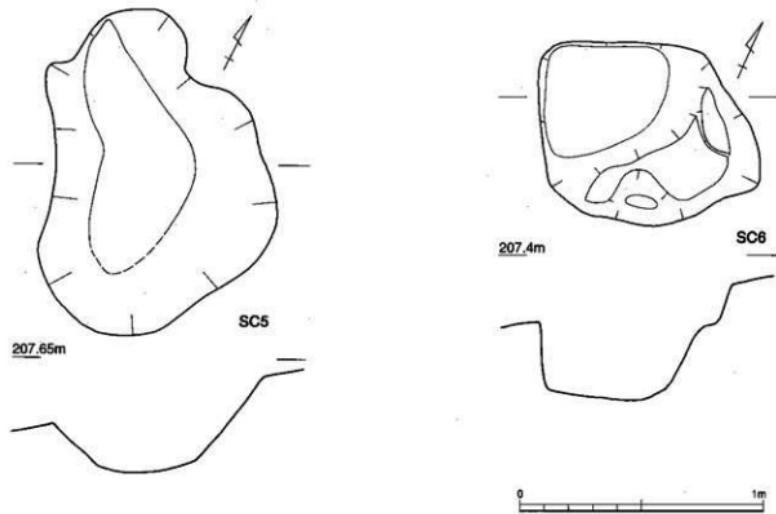


208.15m

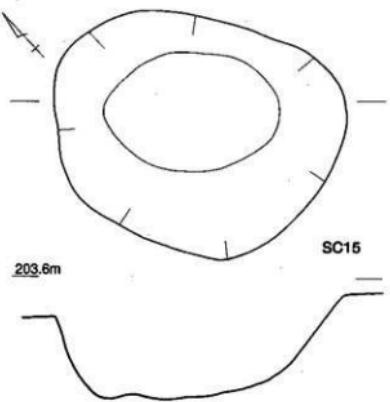
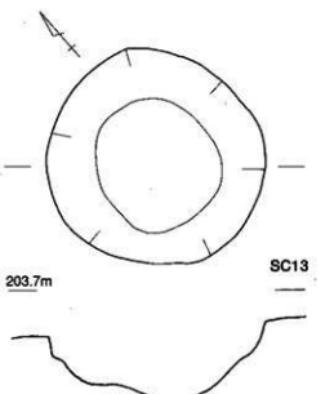
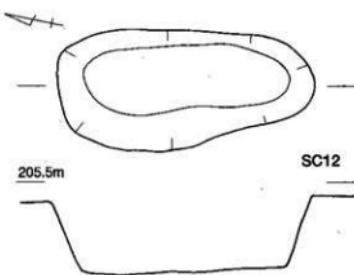
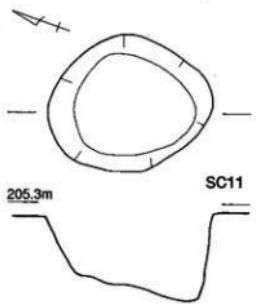
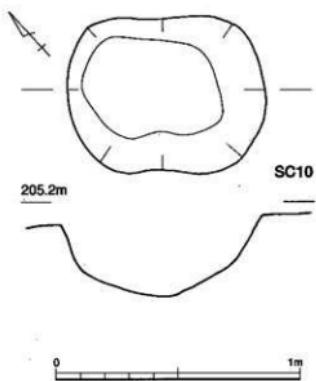
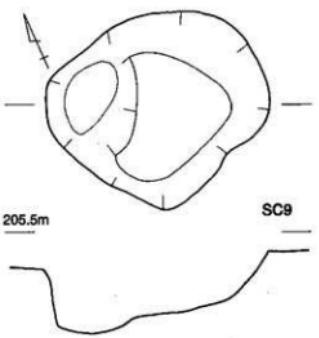
SC4



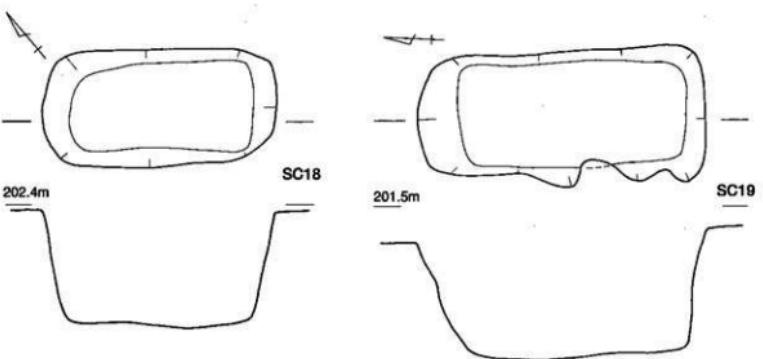
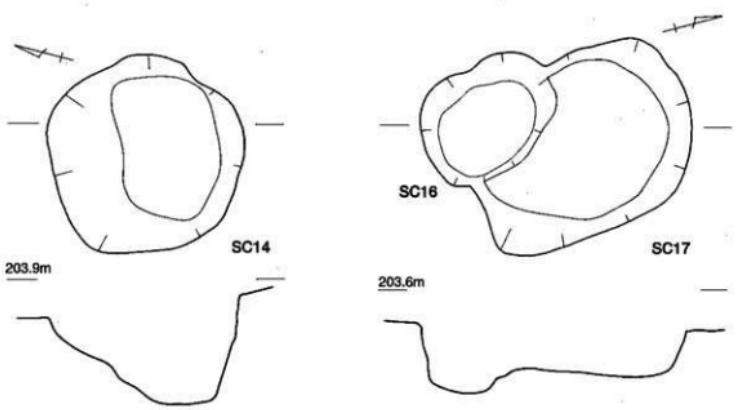
第12図 SC 1・2・4 実測図 (SC 1・2・4 … 1/20、SC 3 … 1/30)



第13図 SC 5・6・7・8 実測図 (1/20)



第14図 SC 9・10・11・12・13・15実測図 (1/20)



第15図 SC14・16・17・18・19実測図 (1/30)

各土坑出土遺物について以下説明を加える。

SC 7 (第16図 21~23)

21は深鉢の口縁部で、外面口縁部下位に突帯を貼り付ける。外面にはナデ、内面には横位の貝殻条痕を施す。22は深鉢の底部で、端部の張り出しが弱い。全面ナデにより器面調整を行っている。23も深鉢の底部で端部が大きく張り出し胴下半部が直線的に開く。器面調整は外面が底部付近に縦位の貝殻条痕、上位に横位の貝殻条痕、内面に斜位の貝殻条痕を施している。

SC 8 (第16図 24~26・第17図 27)

24は深鉢の底部で端部が張り出す。器面調整は外面胴下半部に斜位の貝殻条痕を施すほかは全てナデによる調整を行っている。25は肩が張り頸部で屈曲して口縁部が短く外反する深鉢で、屈曲部には内外面ともに明瞭な稜線を形成する。器面調整は、口縁部外面にナデ、胴部に斜位の貝殻条痕を施し、胴部内面には横位、斜位の貝殻条痕後ナデ調整を行っている。26は25と器形が類似するが、肩部の張りは弱い。器面調整は口縁部外面に縦位のナデ、胴部に斜位の貝殻条痕後粗いナデを施し、内面には貝殻条痕後ナデを施す。27は全面に丁寧なミガキを施した精製の浅鉢で、肩部が張り口縁部は屈曲して短く外反する。胴部は稜線を形成せず丸く屈曲するものと思われる。短い口縁部の中位には内外面に沈線を巡らせ、内面に蝶ネクタイ状突起を貼り付けている。

SC 9 (第17図 28)

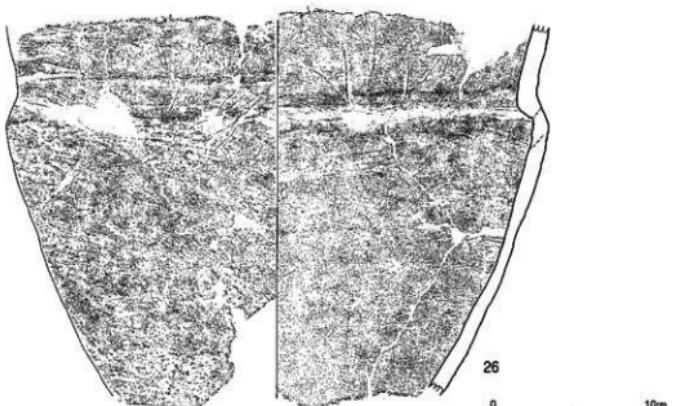
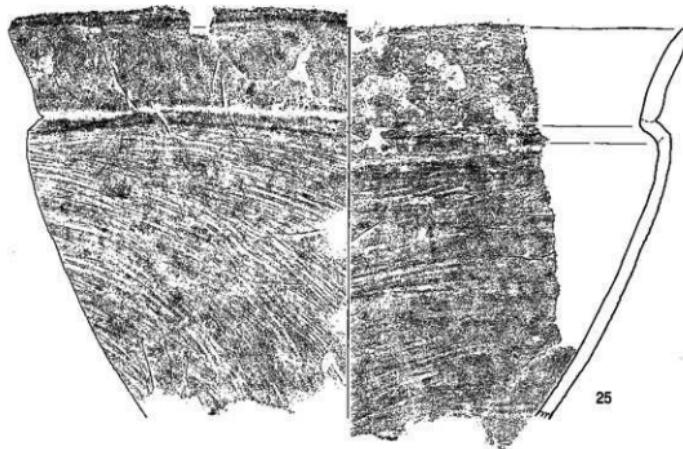
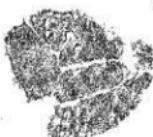
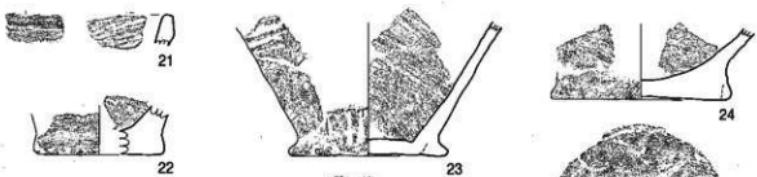
28は端部の張出しが弱い深鉢の底部で、外面には縦位の貝殻条痕、内面には縦位、横位の貝殻条痕を施し、底部にはアジロ彫み圧痕を残す。

SC 13 (第17図 32、33)

32は口縁部が緩やかに外反する深鉢で、凹線を口唇部に2条、外面口唇部直下に1条巡らせている。全面にミガキを施す。33は胴部が張り出す深鉢で、胴部屈曲部には3条の凹線を巡らせ、直下に凹点文を連続させている。器面調整は口縁部外面に丁寧なナデ、胴部にナデを施し一部縦位のミガキを施している。内面はナデにより調整を行っている。

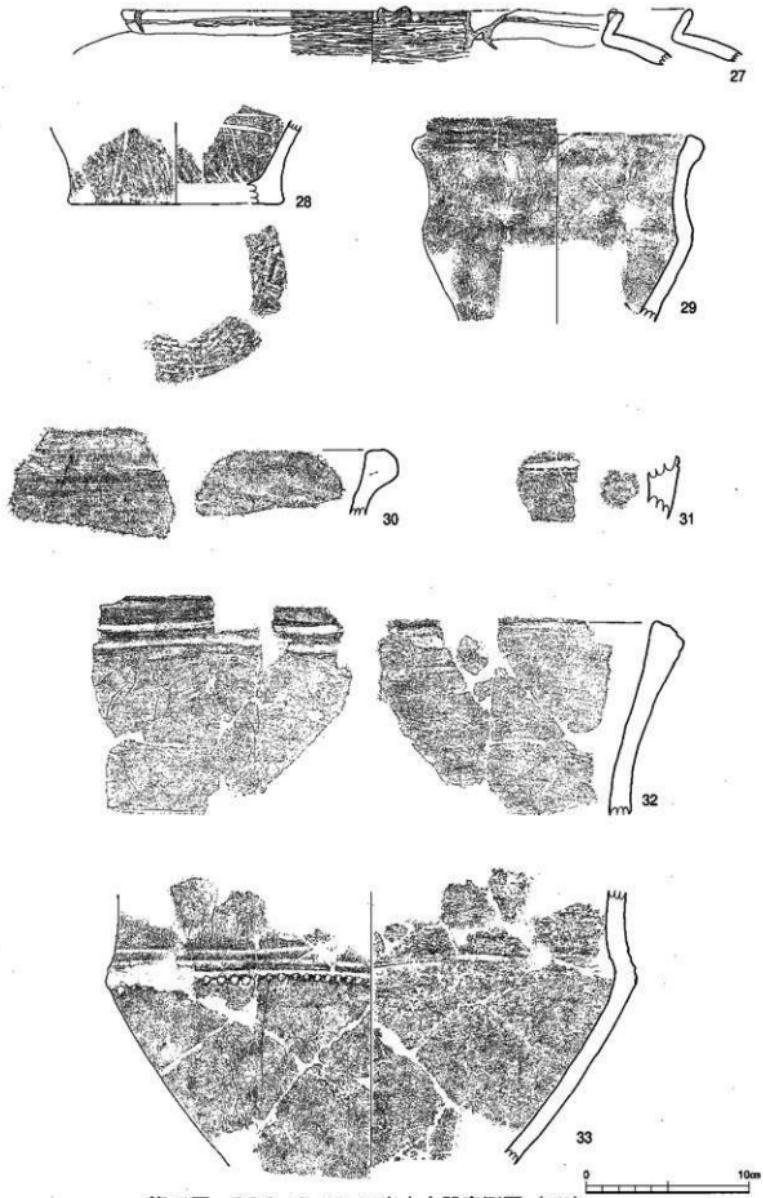
SC 14 (第17図 29~31)

29は胴部が張り口縁部が緩やかに外反する小型の深鉢で、口唇部は肥厚し面取りされている。口縁部内面には極めて浅い凹面が巡らされている。器面調整は外面に丁寧なナデ、内面にナデを施している。30は口唇部が肥厚する深鉢の口縁部で、口唇部はやや丸みを帯びる。口縁部内面には浅い凹面を巡らす。口唇部外面および内面にはナデを施し、口唇部直下と口唇部上面および内面凹面部にはミガキを施す。31は深鉢の胴部で、外面には2条の沈線を巡らせているものと思われる。外面ミガキ、内面ナデである。

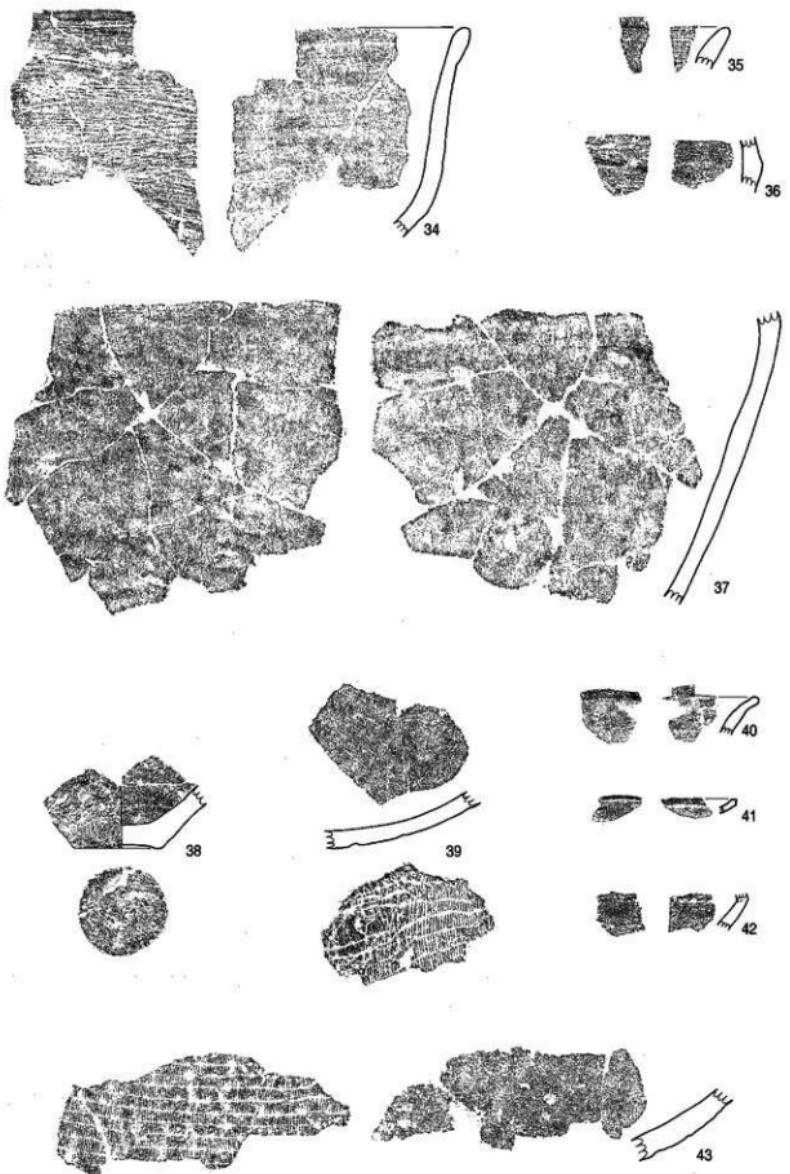


0 10cm

第16図 SC 7・8 出土土器実測図 (1/3)



第17図 SC 8・9・13・14出土土器実測図 (1/3)



第18図 SC15・16・17出土土器実測図 (1/3)

SC15 (第18図 34~39)

34は粗製の浅鉢で、胴下半部が腰をもたずに屈曲し、口縁部がわずかに外反しながら立ち上がる。器面調整は外面に横位の条痕、内面にミガキや丁寧なナデを施す。37は胴上半部が屈曲する深鉢で、外面にミガキ、内面にナデを施す。38は端部が張り出さず胴部が開く深鉢の底部で、上げ底を呈する。器面調整は全面ナデを施す。39は粗製浅鉢の底部で、外面には編布圧痕がみられる。編布は縫糸が太く目がやや粗い。経糸の間隔は1cmでやや広めである。内面にはミガキを施す。

SC16 (第18図 42、43)

42は胸部で屈曲する浅鉢で、器面調整は両面ナデを施す。43は編布圧痕をもつ粗製の浅鉢である。編布は縫糸が細く目も密である。経糸の間隔も7mmと密である。内面はナデにより調整を行っている。

SC17 (第18図 40、41)

40、41は精製の浅鉢で、41は口唇部直下に1条の沈線を巡らせている。

包含層出土土器

遺物包含層の調査は、御池降下軽石層上面の第V層を上位からa、b、cの3層に分け、層ごとに遺物の取り上げを行った。また、赤ホヤ層上面の第IX層でも遺物を検出している。ここでは出土土器を形態や文様によって13類に分類した。各分類ごとに下位層のものから説明を加えていく。

I類 (第19図 44~49)

口縁部が外傾しながら直口する深鉢で、微隆起突帯を貼り付けるものである。IX層およびX層上面から出土している。隆帯の形状、器面調整により2類に細分できる。

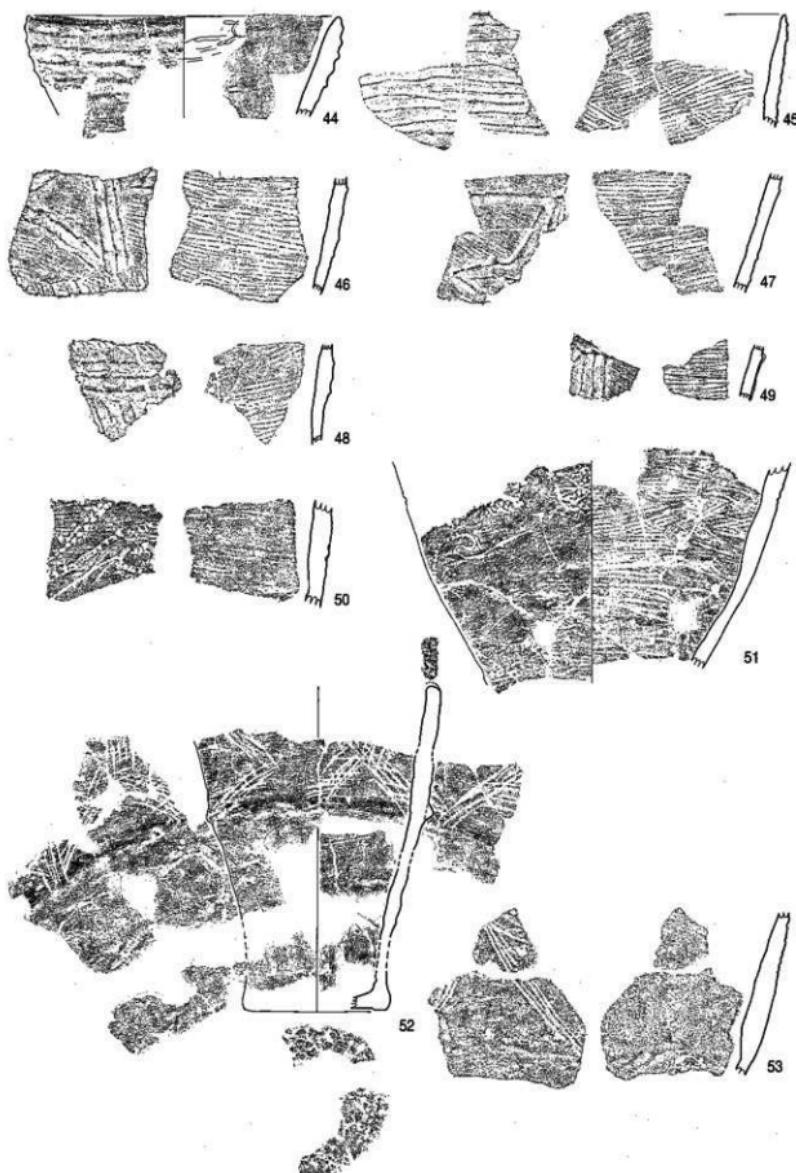
- A やや細めの隆帯を口縁部上位に横位に5条平行させるもので、外面にナデ、内面にミガキを施し丁寧に仕上げている。(44)
- B 低く細い隆帯を横位、縦位、斜位に施すもので、外面は貝殻条痕を施した後微隆起突帯を貼り付け、内面は貝殻条痕が顕著である。(45~49)

II類 (第19図 50、51)

沈線内刺突文を施す土器で、V-c層から2点のみ出土している。50は押し引き文と沈線内刺突文を斜位に平行させている。器面調整は両面貝殻条痕後ナデを施す。51は押引状刺突文を施し、一部刺突が途切れ沈線のみを施している。器面調整は外面に貝殻条痕後ナデ、内面に貝殻条痕を施す。

III類 (第19図 52、53)

口縁部に施文帯を設け沈線を施すもので、V-c層から2点出土している。52は胴下半部がわずかに外反しながら口縁が直口する。胴部上位に貼付突帯を巡らせ口縁部に施文帯を区画し、3~4条の鋭い平行沈線を相交させ鋸齒状文を連続させている。口唇部には貝殻腹縁による連続刺突を施す。器面調整は全面にナデを施し丁寧に仕上げている。底面には編み物圧痕がみられる。53は口縁部を肥厚させ施文帯



第19図 繩文土器実測図 (1) (1/3)

0 10cm

とし、4条の平行沈線を斜行させている。全面ナデを施す。

IV類（第20図 54～56）

口縁部上位に四線文を集約させるもので、器形は胴部が張らず口縁が直口するものである。V-c層から出土した。口縁部器形、文様形態、器面調整により2類に細分できる。

- A 口縁部が直口し、曲線文を施すもの。54は平口縁で口唇部に山形突起を貼り付けている。突起の波頂部は平坦に仕上げ貝殻条痕を施した後棒状工具により押圧刻みを加えている。平口縁の口唇部にも貝殻条痕を施した後、一部に連続する押圧刻みを加えている。文様は単線渦巻文と平行文の組み合わせが繰り返される。器面調整は両面とともに横位の貝殻条痕を明瞭に残す。
- B 口縁部がわずかに外反し、直線文を施すもの。55、56は波状口縁を呈し、55は波頂部に押圧刻み、56はヘラ状工具による刺突を施す。文様はともに複線による三角形文を施文し、56は複線三角形文を正位逆位に交互に連続させる。調整は口唇部にナデ、両面に横位の貝殻条痕後ナデを施している。

V類（第20図 57）

沈線で区画された中に貝殻腹縁による連続刺突文を充填する擬似縄文土器である。57および同一個体と思われる胴部片が2点のみV-b・c層から出土している。外面に貝殻条痕を残し、内面は貝殻条痕後丁寧なナデを施し仕上げている。

VI類（第21図 58～67）

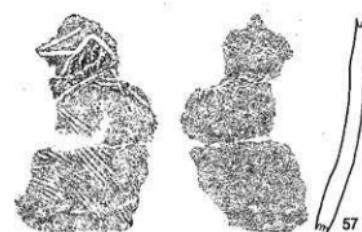
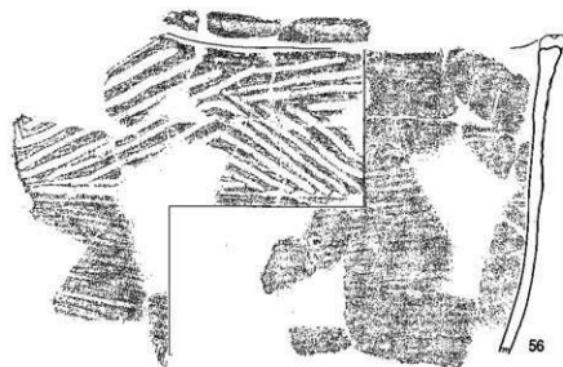
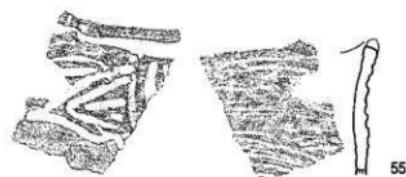
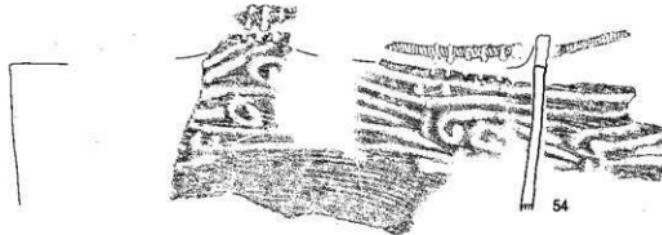
胴部が張り、口辺部が外反しながら立ち上がり口唇部が肥厚する深鉢の一群で、胴屈曲部、口唇部に四線文、四点文、逆U字四線文を施すものが多い。V-b層を中心出土している。器形により2分し、文様構成により4類に細分した。出土層を併記する。

- A 口辺部の外反が大きいもの。
 - 1 四線文、逆U字四線文および四点文を施文するもの。（63、66） V-c層
 - 2 四線文と四点文を組み合わせるもの。（59、64） V-a・b層
 - 3 四線文のみを施すもの。（58、62） V-a・b層
 - 4 無文のもの。（61） V-b層
- B 口辺部の外反が小さく胴部の張りが弱いもの。文様は施さない。（60、65、67） V-a・b層
器面調整は内面ナデ、外面丁寧なナデあるいはミガキを施すものがほとんどであるが、A-2類は内外面ともにミガキを施している。

VII類（第22図 68～第24図 81）

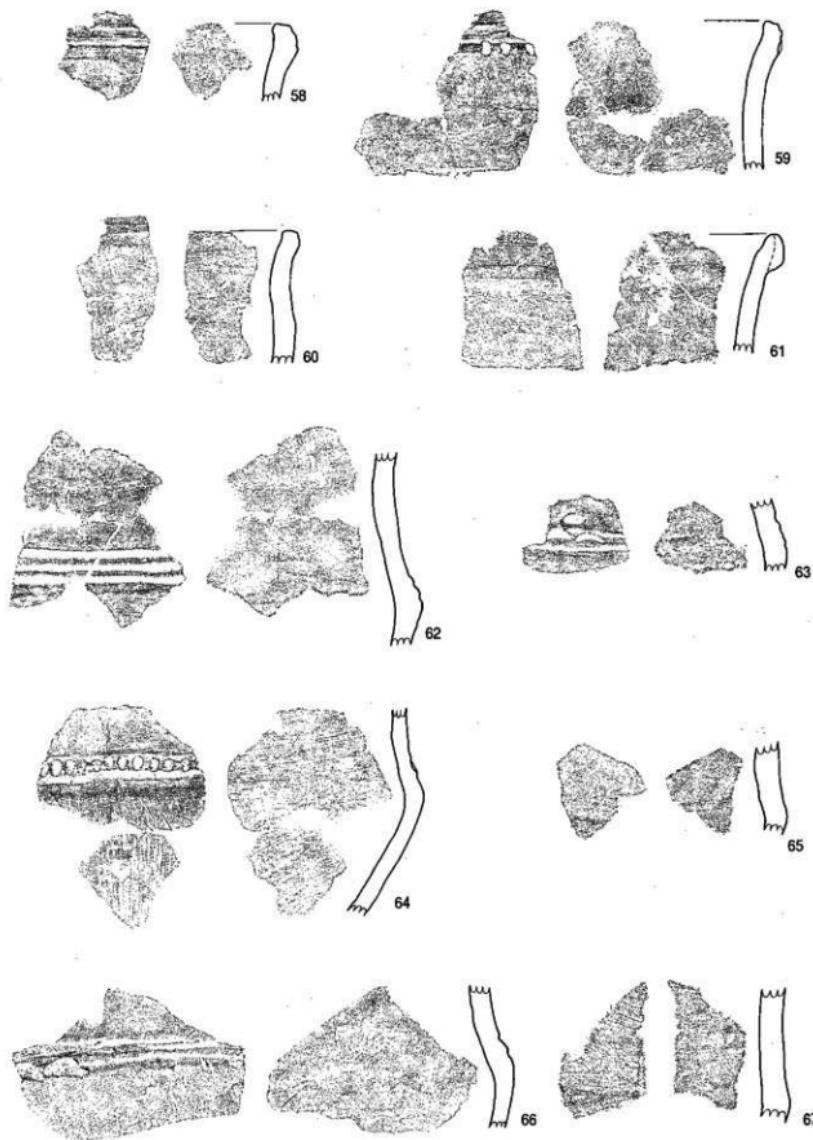
無文の深鉢を一括した。器形により4類に分類できる。

- A 口辺部が内傾し口縁部が短く外反するもの。最大径は胴上半部にある。（68～70）
68は外面に貝殻条痕を残し、内面は貝殻条痕後ナデを施している。V-c層出土である。70は全面にナデを施している。V-a層出土。

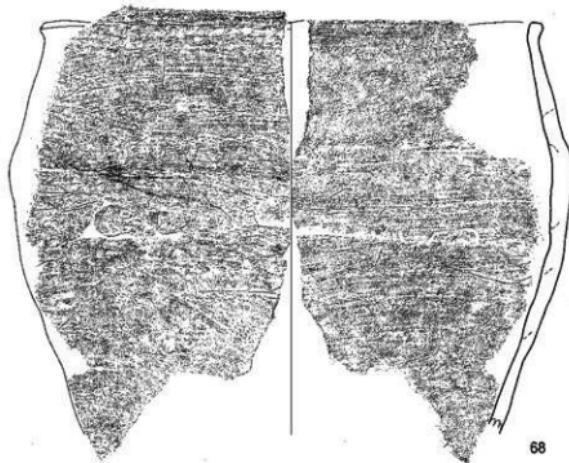


0 10cm

第20図 縄文土器実測図 (2) (1/3)



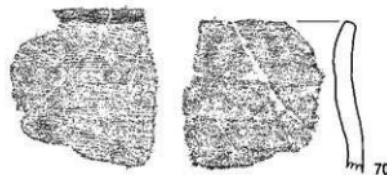
第21図 繩文土器実測図 (3) (1/3)



68



69



70



71



72

0 10cm

第22図 繩文土器実測図 (4) (1/3)

- B 口縁部が直口あるいはわずかに外反するもの。最大径は口縁部にある。(71~75)
71~73はV-a層出土で、72の内面にミガキを施すほかは全てナデによる器面調整を行っている。
74、75はV-b層から出土し、外面に貝殻条痕を残す。
- C 口辺部が緩やかに外反し口縁部が直口するもの。(76~78) 全てV-a層から出土している。
76、78は口唇部に山形突起を貼り付ける。器面調整は76の内面および77の両面にミガキを施すほかはナデを施している。
- D 口辺部が外傾するもので、最大径は口縁部にある。(79~81) V-b層から出土している。

VII類 (第24図 82~第27図 125)

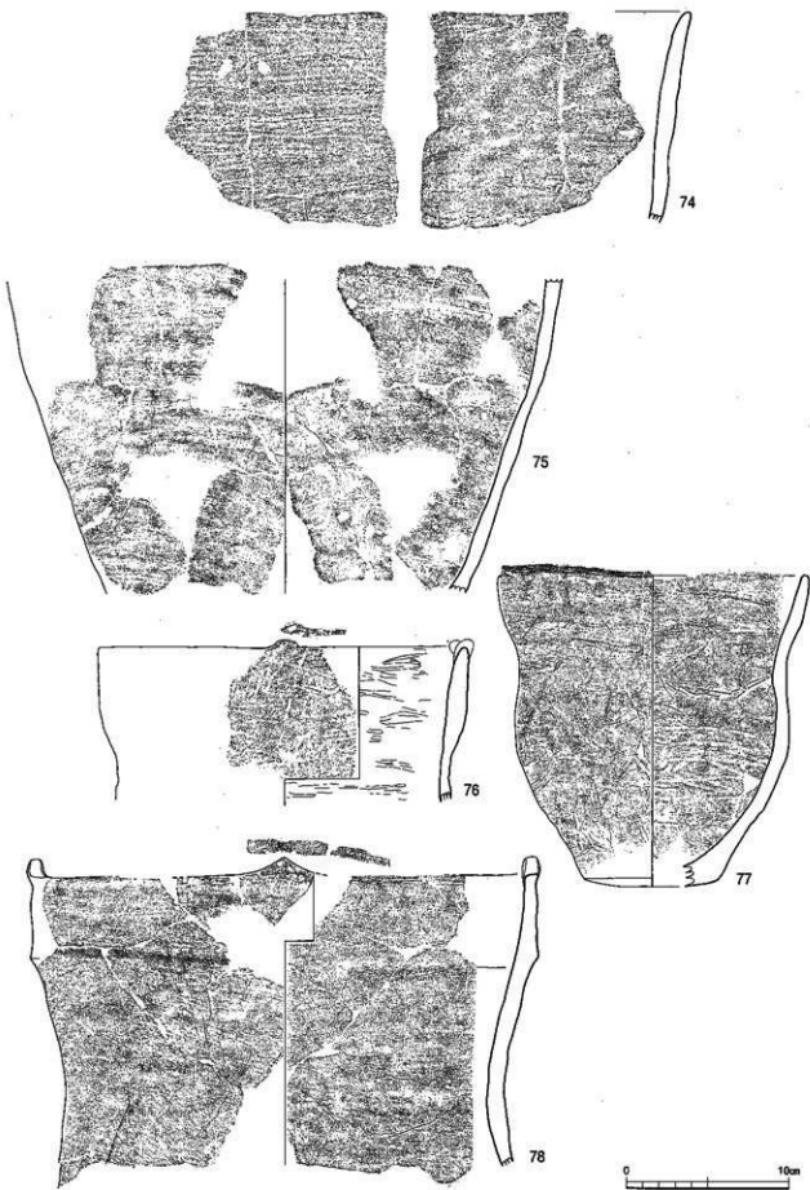
精製の浅鉢を一括した。器形により9類に分類できる。

- A 脇上部で屈曲し口縁部が短く外反するもので、脇屈曲部と口縁端部がほぼ同径で最大径となる。(82~86) V-b・c層から出土している。
- B 口縁部が外傾するもの。(87、88)
87は波状口縁を呈し、88はヒレ状突起をもち口唇部直下両面に沈線を巡らせている。
- C 脇上部で屈曲し口縁部がわずかに外反しながら開くもの。(89~92) V-b層出土。
- D 脇部で屈曲し、口縁部が内傾した後大きく外反し口縁端部が屈折して立ち上がるもので、口径が脇径を上回る。(93~99) V-a・b・c層から出土している。
- E 脇部で屈曲し、口縁部が短く内傾し屈折して極端に外傾するもの。(100) V-a層出土である。
- F 脇部で屈曲し口縁部が内傾するもので、脇径が口径を上回る。(101~108) 口縁部形態により2類に細分できる。出土層を併記する。
 - 1 口縁部が長く、内外面に沈線や段を施すもの。(101~104) V-b層
 - 2 口縁部が短く、内面の沈線は消滅し外面の沈線が形骸化又は消滅する。(105~108) V-a層
101、105はヒレ状突起をもつ。
- G 脇部が屈曲せず膨らみ口縁部が屈曲して短く外反するもの。(109~118) 口縁部の形態により3類に細分できる。
 - 1 脇部の張りが弱く最大径を口縁部にもつもの。(109) V-b・c層
 - 2 口縁端部内外面に沈線を巡らせ端部が玉環状を呈するもの。(110~114) V-a・b・c層
 - 3 口縁部中位内外面に段を形成するもの。(115~118) V-a・b・c層
- H 脇下半部がわずかに内湾、外湾し稜をもたずに口縁部が立ち上がるもの。(119~122)
119はV-c層出土。120~122はV-a層出土で、脇部上位に沈線を施す。
- I 口縁部が外傾しながら立ち上がるもの。(123~125) 全てV-a層から出土している。

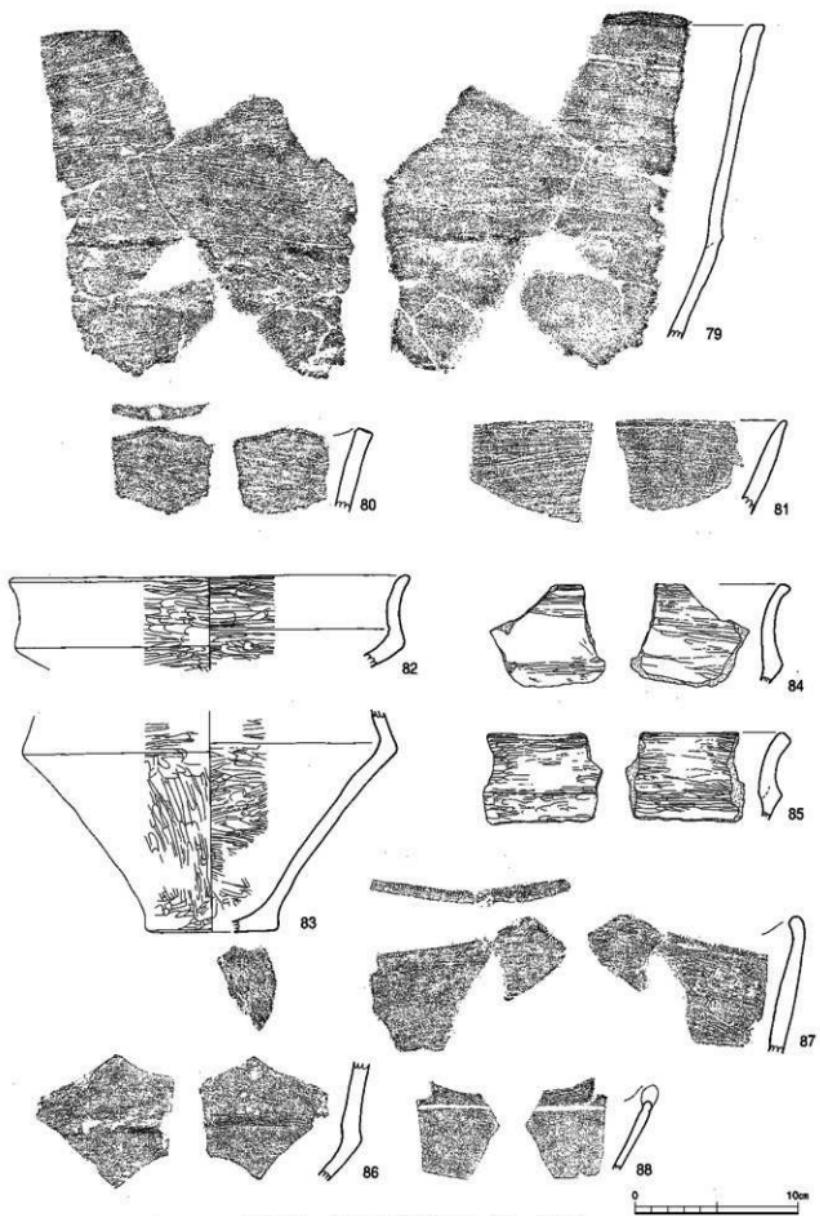
IX類 (第28図 126~第30図 147)

粗製の浅鉢を一括した。器形により5類に分類できる。

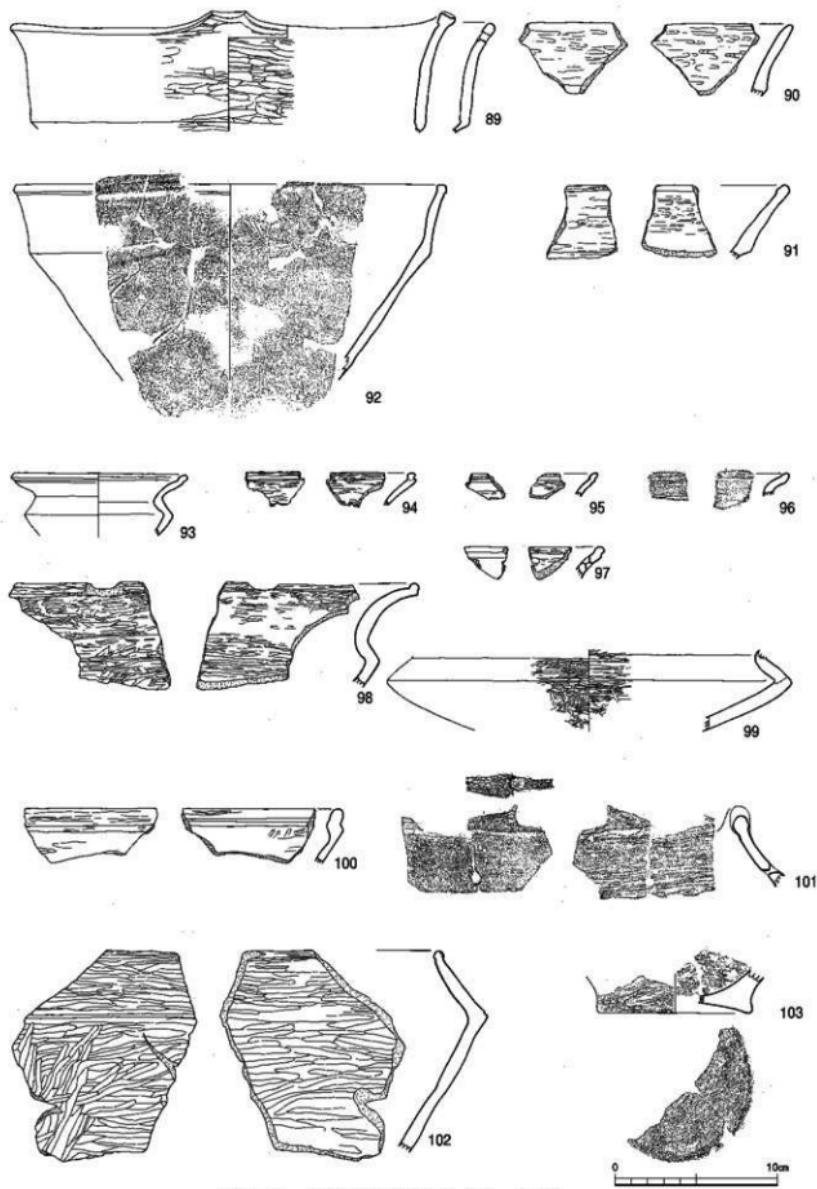
- A 脇部に棱線を形成せず口縁部が緩やかに内湾しながらボール状に立ち上がるもの。(126~132)
V-a・b層から出土している。器面調整は外面ナデ、内面丁寧なナデあるいはミガキが多いが、131は内面に貝殻条痕後ナデを施している。



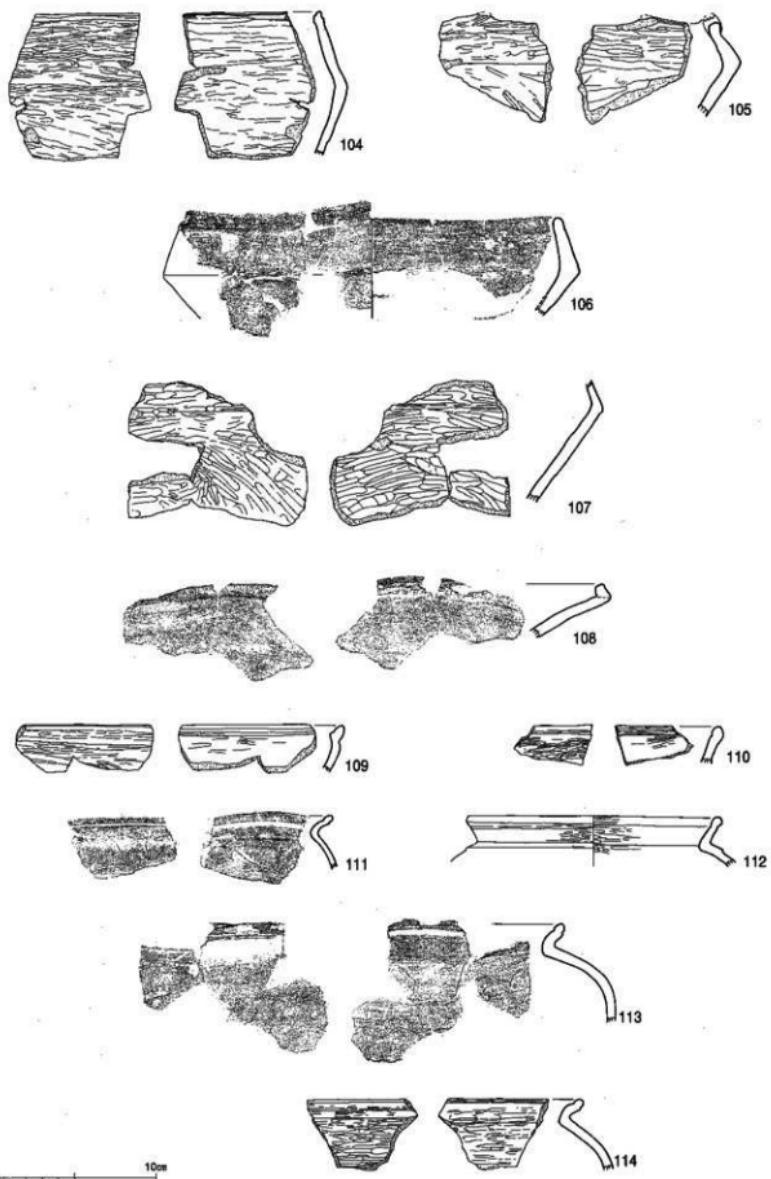
第23図 縄文土器実測図 (5) (1/3)



第24図 繩文土器実測図 (6) (1/3)



第25図 繩文土器実測図 (7) (1/3)



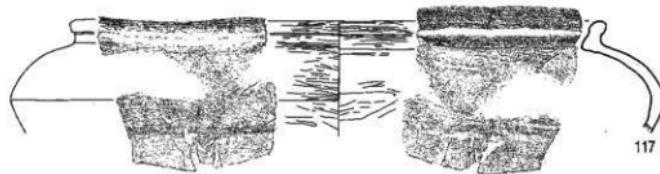
第26図 繩文土器実測図（8）（1/3）



115



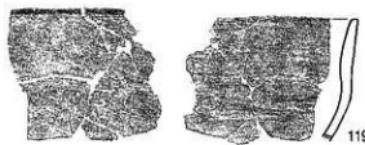
116



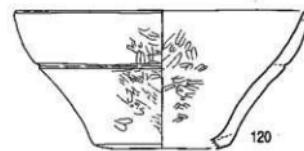
117



118



119



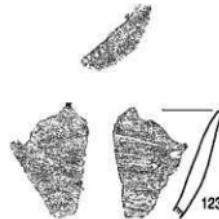
120



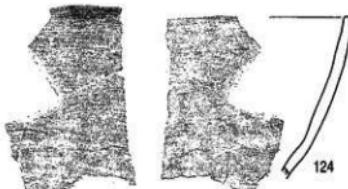
121



122



123



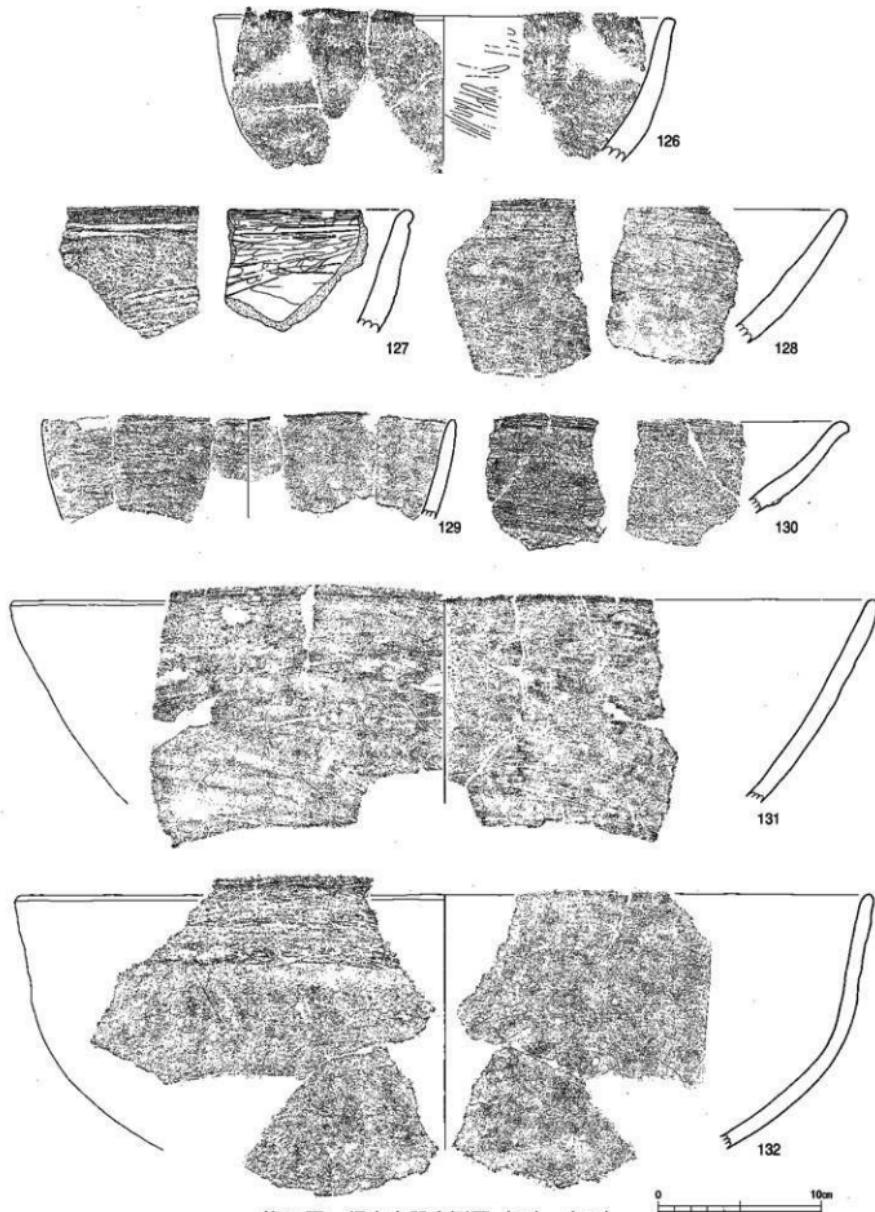
124



125

第27図 縄文土器実測図 (9) (1/3)





第28図 繩文土器実測図 (10) (1/3)

- B 脣上半部で屈曲し口縁部がわずかに外反しながら立ち上がるもので、口径が胴径を上回る。(133~140) V-a・b・c層から出土している。134、136、139はヒレ状突起をもつ。器面調整は外面に貝殻条痕、貝殻条痕後ナデ、あるいはナデを施し、内面に貝殻条痕、ナデ、貝殻条痕後ミガキ、ミガキを施している。
- C 脣部が内湾し口縁部が屈曲して外傾するもの。(141、142)
141はV-c層出土で、外面貝殻条痕後ナデ、内面ナデを施している。142はV-b層出土で、器面調整は内外面で141と逆転している。
- D 底部付近で屈曲し口辺部がわずかに外反しながら立ち上がるもの。(143~145) V-a層から出土している。器面調整は全面ミガキを施している。
- E 脣部が膨らむもの。(146、147) 小片で全体的な器形は不明である。V-b・c層出土。

X類 (第31図 148~第35図 172)

浅鉢形の組織痕土器を一括した。器形で4類に分け、底部片のみを集めた1類を加えた。

- A IX-A類の底部に組織痕が押圧されているもの。(148~153)
148~151は編布圧痕がみられる。148~150は縫糸が太く目も粗く、経糸の間隔は1.5cm~2cmと広い。148、149はV-c層を中心にV-a・b層からも破片が出土している。151は縫糸が細く、経糸の間隔は0.6cmで密である。152には目の細かい網目圧痕がみられる。
- B IX-B類の底部に組織痕が押圧されているもの。(154~158) V-a層を中心にV-b・c層からも破片が出土している。目の細かい編布圧痕が大半を占める。
- C 緩やかに内湾する底部から短い口縁部が稜線をもたずに屈曲し立ち上がる浅鉢の底部に組織痕が押圧されているもの。(159~162) V-a・b層から出土している。網目圧痕(159、161)、編布圧痕(162)、モジリ編み圧痕(160)がみられる。
- D IX-D類の底部に組織痕が押圧されているもの。(163~166) V-b層を中心にV-a層からも破片が出土している。目の比較的粗い編布圧痕が大半を占める。V-a層から出土した165は目の細かい編布圧痕がみられる。
- E 組織痕土器の底部を一括した。(167~172)

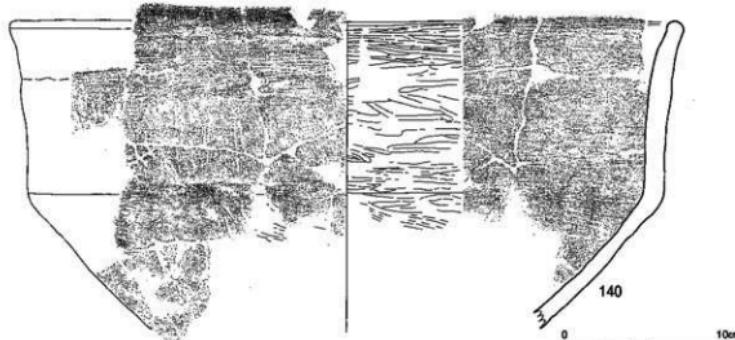
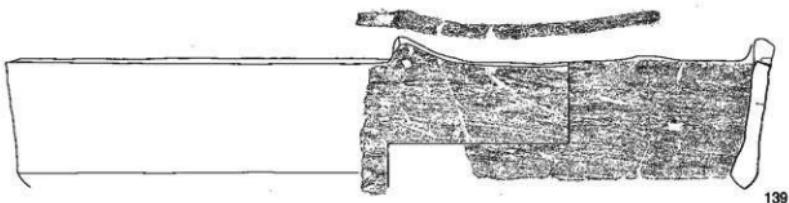
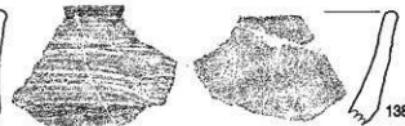
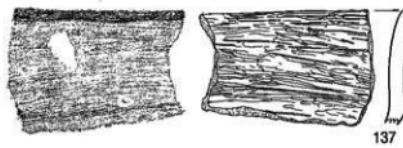
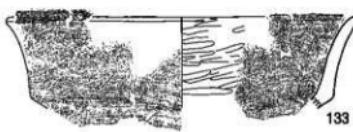
XI類 (第36図 173~第37図 191)

口縁部に突帯が巡るものと一括した。突帯の位置により2類に分類できる。

- A 口唇部直下に粘土帯を貼り付け、断面形が台形あるいは三角形を呈するもの。(173~180) V-a・b・c層から出土している。
- B 口縁部や下位に断面三角形の突帯を巡らせるもの。(181~191) V-a層出土のものが多い。

XII類 (第38図 192~195)

口縁部外面に貫通又は未完通の小孔を連続させる孔列文土器。(192~195) V-a・b層から出土している。



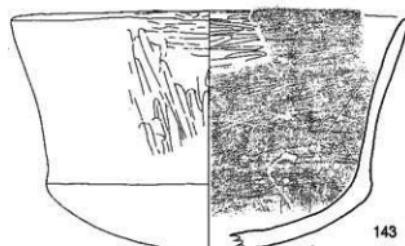
第29図 繩文土器実測図 (11) (1/3)



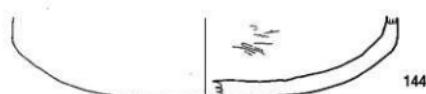
141



142



143



144



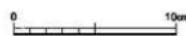
145



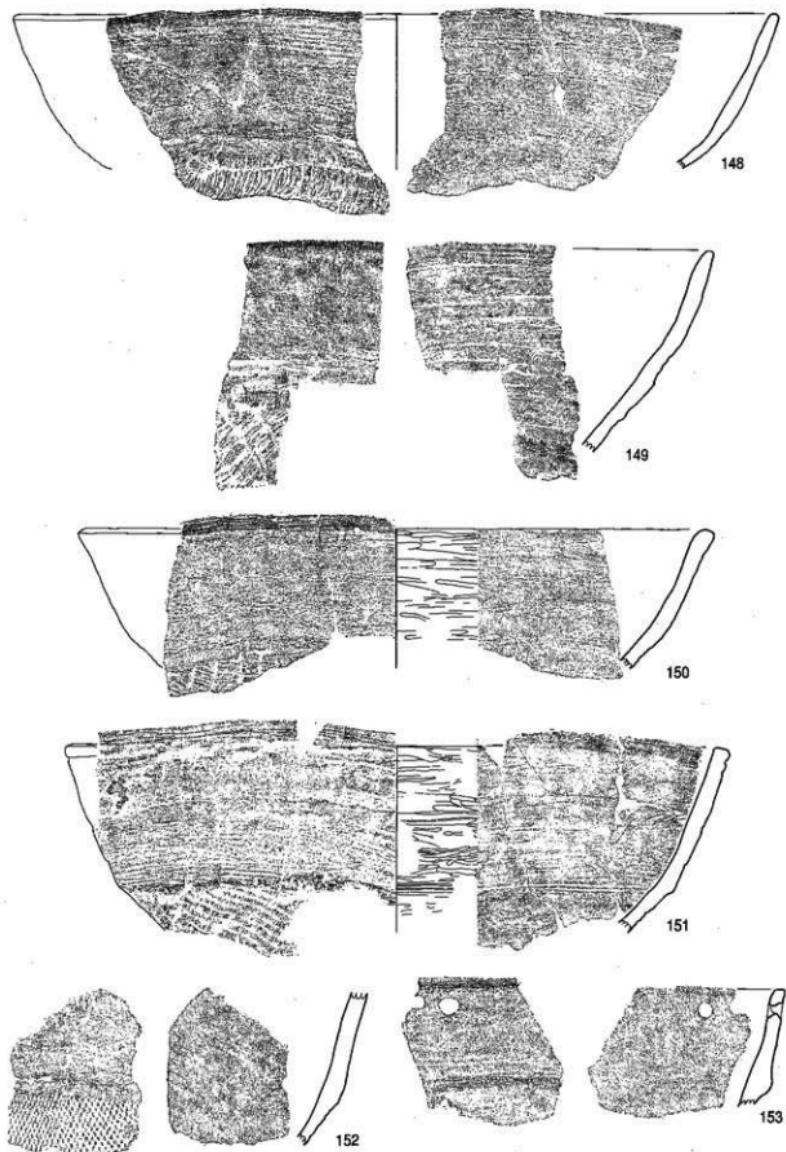
146



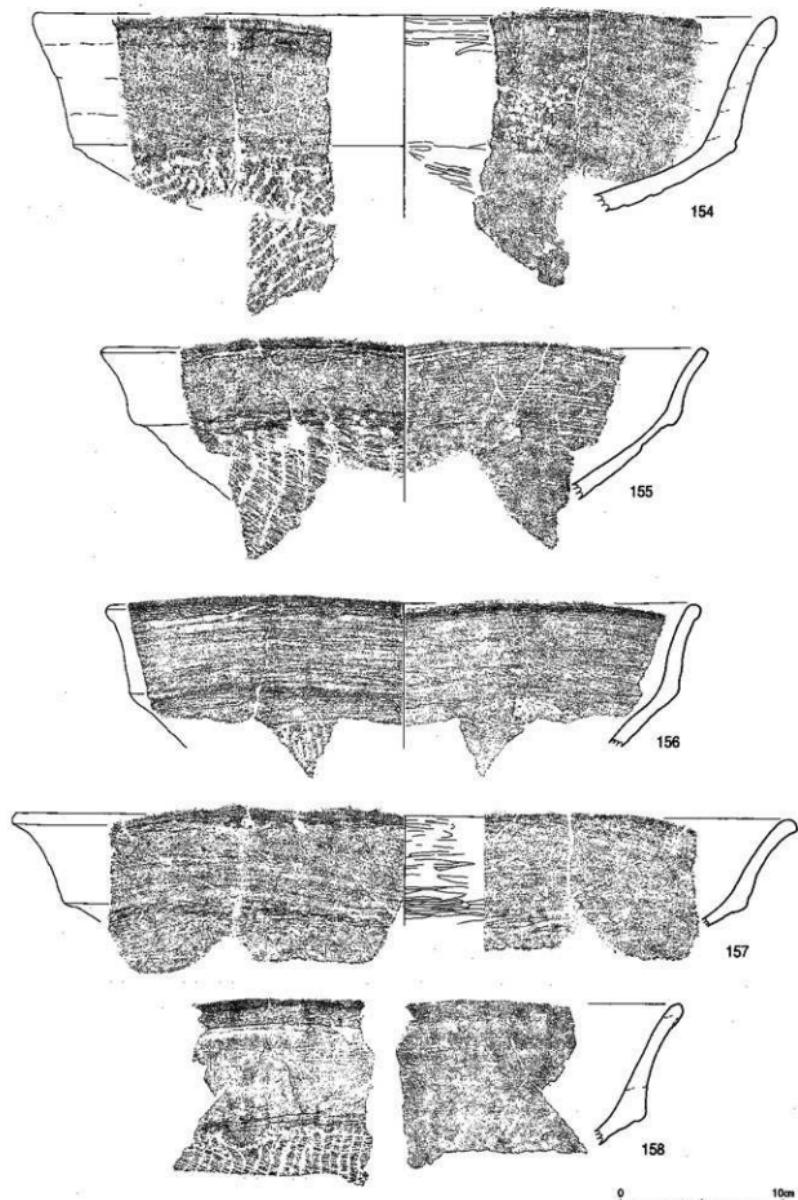
147



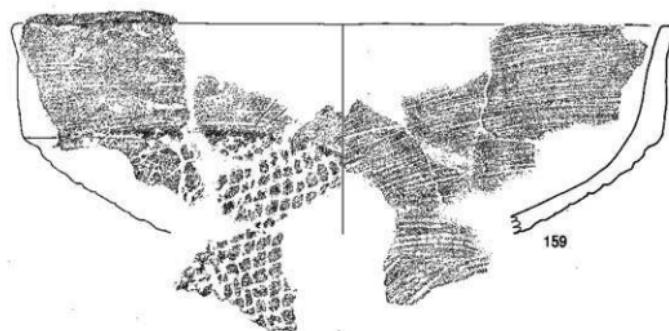
第30図 縄文土器実測図 (12) (1/3)



第31図 繩文土器実測図 (13) (1/3)



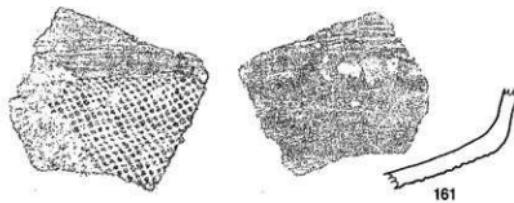
第32図 縄文土器実測図 (14) (1/3)



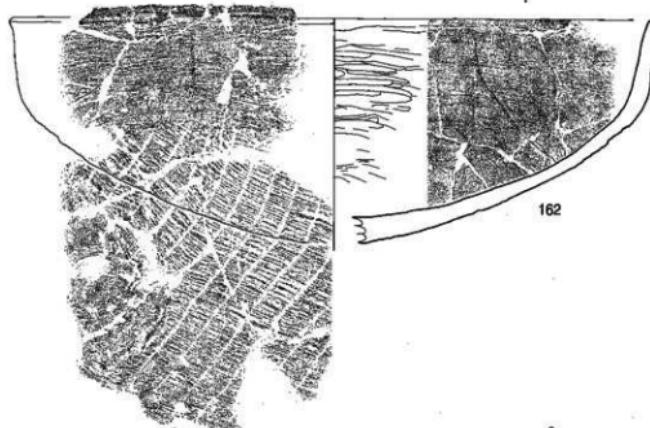
159



160

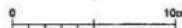


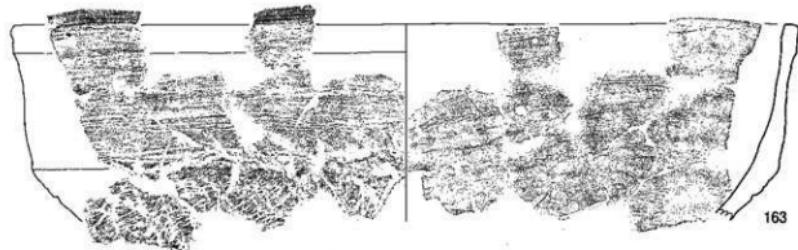
161



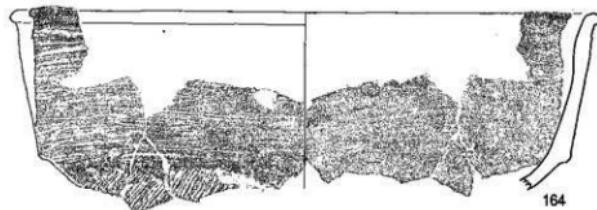
162

第33図 繩文土器実測図 (15) (1/3)





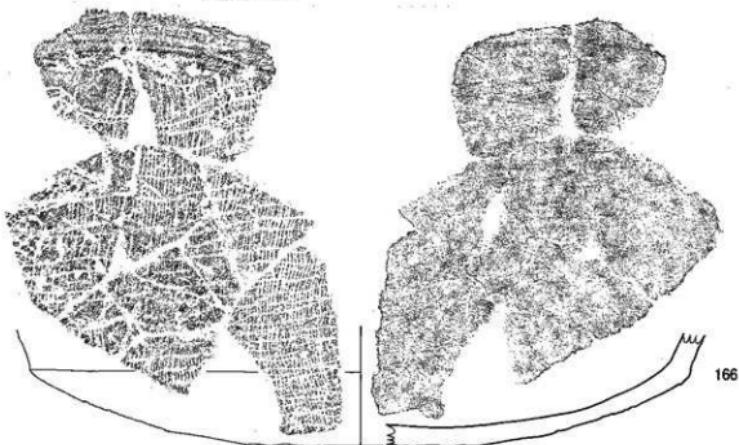
163



164



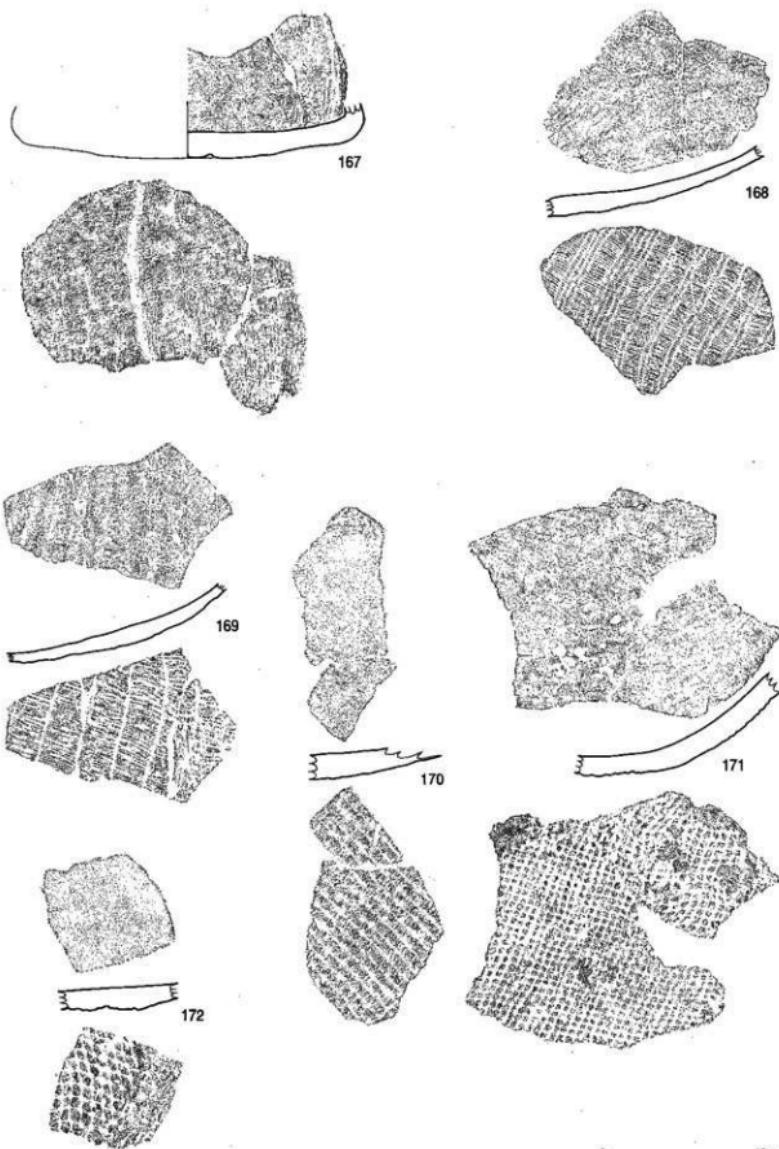
165



166

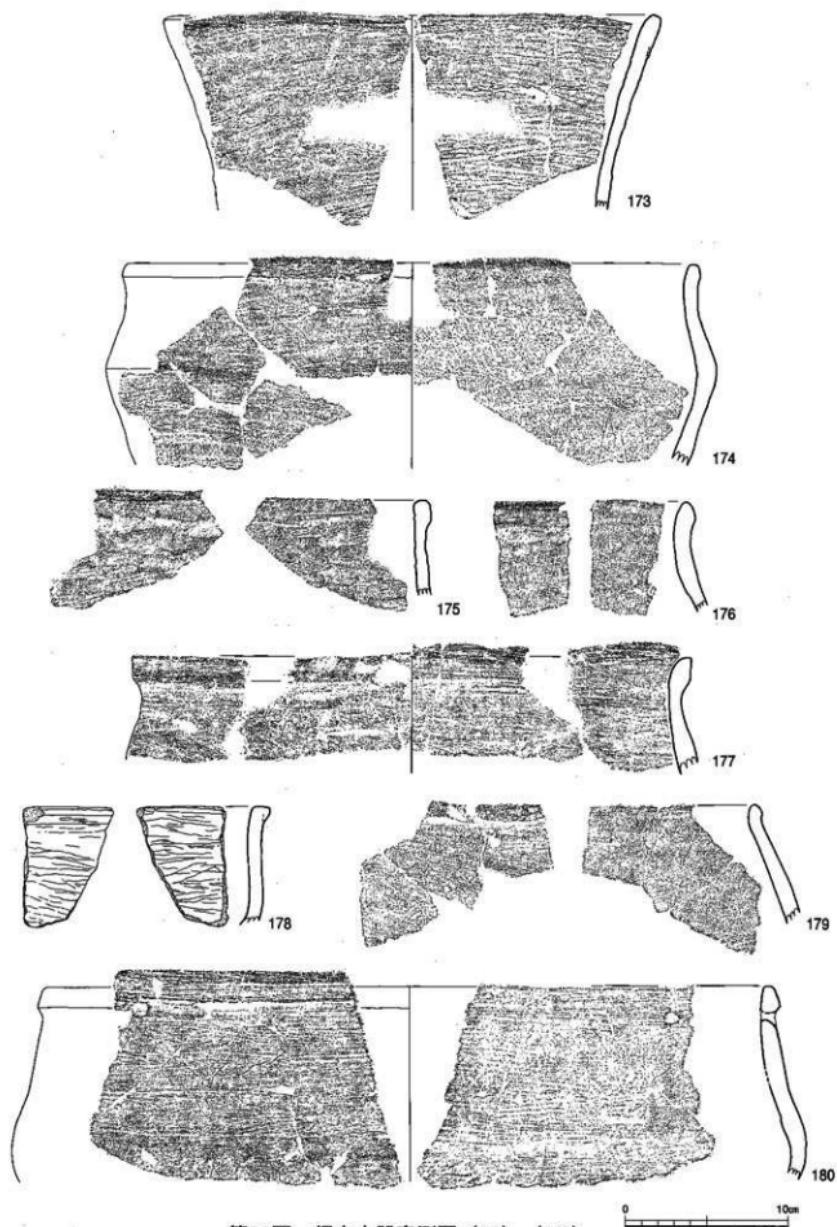
第34図 繩文土器実測図 (16) (1/3)



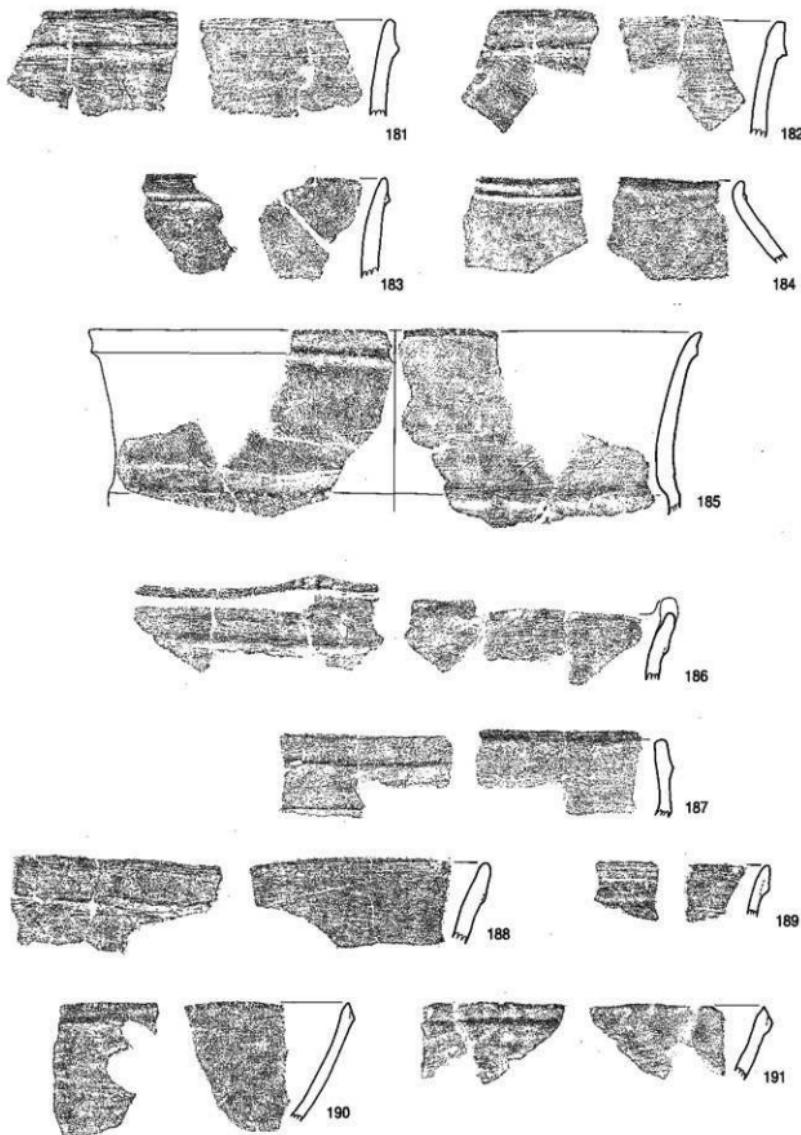


第35図 縄文土器実測図 (17) (1/3)

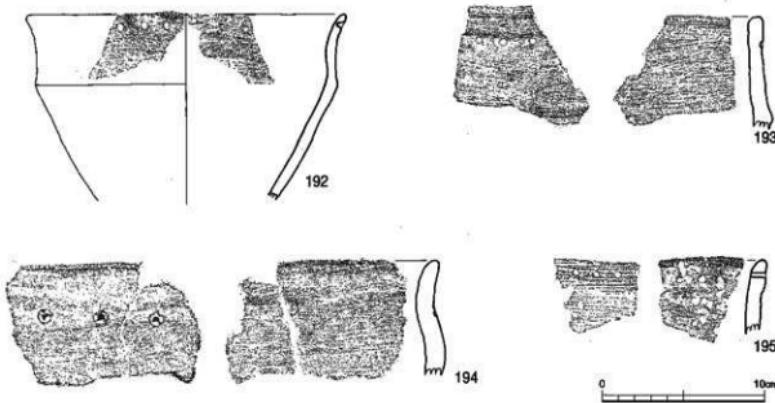
0 10mm



第36図 縄文土器実測図 (18) (1/3)



第37図 縄文土器実測図 (19) (1/3)



第38図 繩文土器実測図 (20) (1/3)

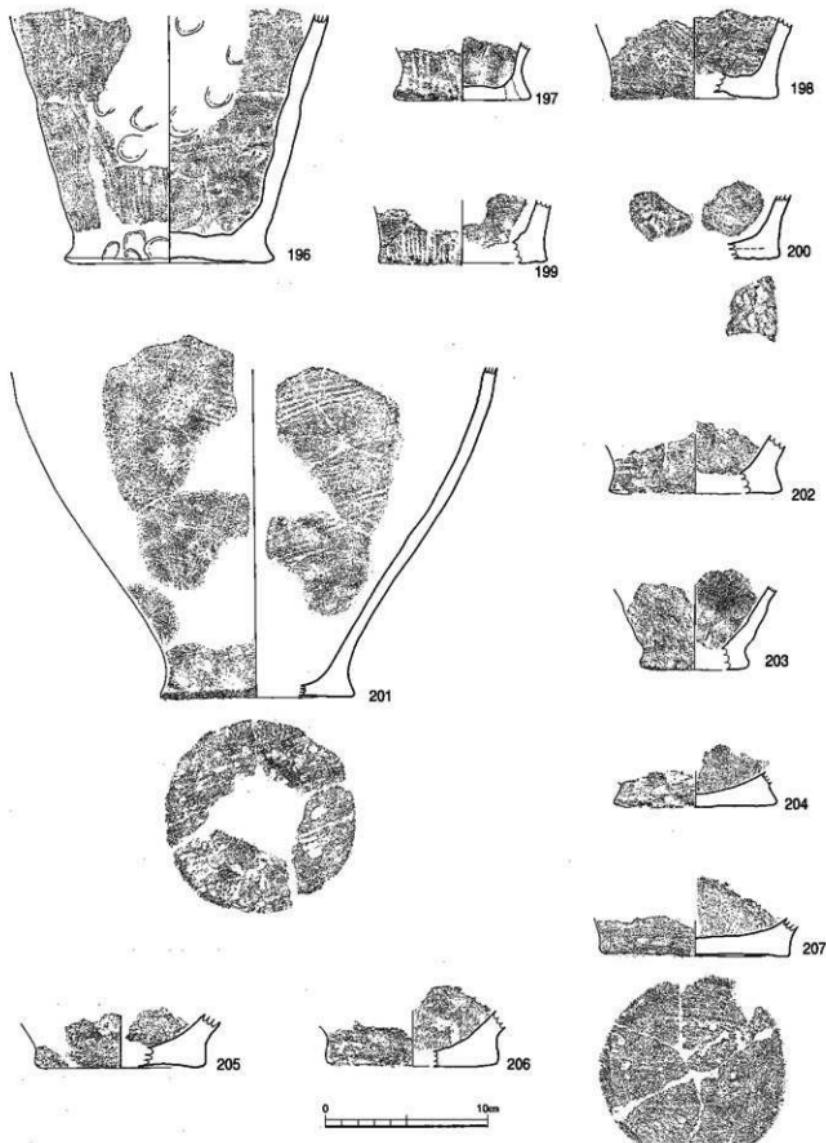
XII類 (第39図 196~第40図 218)

底部を一括した。

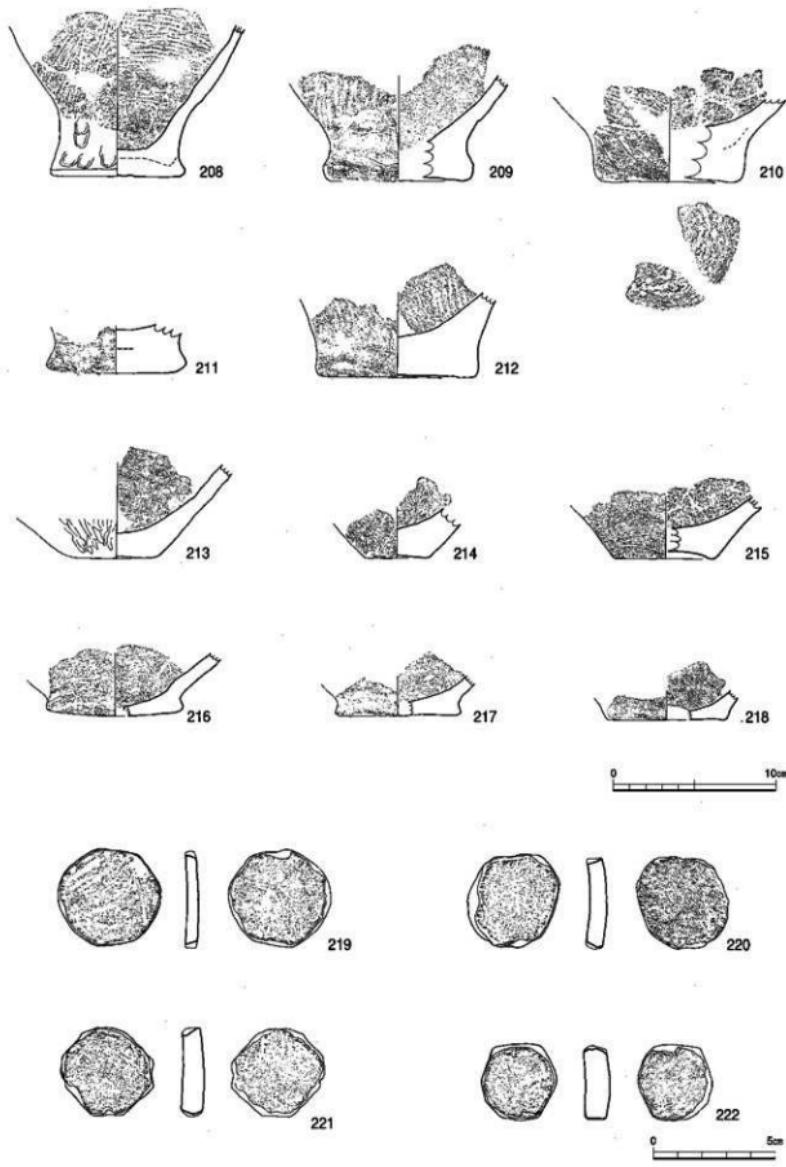
- A 端部が張り出し胴部がわずかに外傾しながら立ち上がる深鉢。 (196~200) V-c層から多く出土している。
- B 端部が張り出し胴部が開きながら立ち上がる深鉢。 (201~204) 201がV-c層から出土しているほかはV-b層出土である。
- C 端部が張り出さず胴部が開く深鉢。 (205~207) 205はV-c層、他はV-a層出土である。
- D 底部が厚底を呈する深鉢。 (208~212) V-a層から多く出土している。
- E 底部から外傾する胴部が直接立ち上がる深鉢。 (213~215) 213はV-b層、他はV-a層出。
- F 浅鉢と思われるもので、端部が張り出すもの (216, 217) と張り出さないもの (218) がある。

土器片加工品 (第40図 219~222)

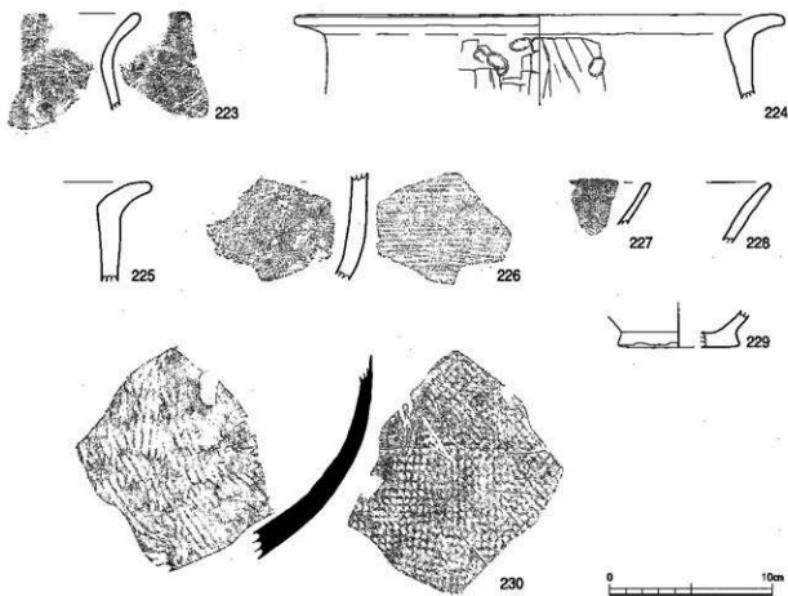
円盤が4点出土した。全て無文で、円形あるいは不整円形を呈する。219は円形を呈し、側面を研磨により丁寧に整形している。長径4.2cm、短径3.6cm、厚さ0.5cmを測る。220、221は不整円形を呈し、側面は打ち欠きにより整形している。220は長径4.0cm、短径3.5cm、厚さ0.75cm、221は長径3.7cm、短径3.5cm、厚さ0.85cmを測る。222は不整円形を呈し、側面を研磨と打ち欠きにより整形している。長径3.2cm、短径2.8cm、厚さ1.0cmを測る。重量は全て11gである。



第39図 繩文土器実測図 (21) (1/3)



第40図 繩文土器実測図 (22) (1/3) 及び土器片加工品実測図 (1/2)



第41図 古代の土器実測図 (1/3)

第2節 古代の遺物 (第41図 223~230)

土師器の壺、坏および須恵器の壺が出土している。223~226は土師器の壺である。223は口縁部が「く」字形に緩やかに外反し胴部が膨らむものである。器面調整は胴部がヨコハケ後ナデ、口縁部にナデ、内面は胴部にナデ、口縁部にヨコハケを施している。224は口縁部が外に強く屈曲し胴部に膨らみをもたない。口縁部外面にヨコハケ後ナデ内面に横ナデを施し、内面胴部には縦方向のケズリをおこなっている。225は224に器形が類似するが、屈曲部外面に稜線は形成しない。器面調整は胴部内面にナデを施すほかは224と同様である。226は胴部に膨らみをもたない壺の胴下半部で、外面ヨコハケ、内面縦方向のケズリを行っている。227~229は土師器の坏である。227は体部がわずかに内湾しながら開くもので、全面回転ナデにより整形を行った後外面にナデを施し仕上げている。228は体部から口縁部がわずかに外反しながら立ち上がるるもので、全面ナデにより器面調整を行っている。229は底部に粘土板を貼り付け円盤状高台を呈し、端部は張り出す。外面にナデを施し、内面に回転ナデを行っている。230は須恵器の壺の胴下半部で、丸底を呈する。外面に格子目タタキ、内面に平行タタキ状当具痕がみられる。

第3節 時期不明の遺構

遺構に伴う遺物がなく時期の不明確な遺構について以下に記す。

S A 5 (第42図)

調査区の北端で検出した。遺構の大半を擾乱により失っていたが、残存する壁面から長辺約2.7m、短辺約2.6mの方形を呈するものと思われる。主軸方位は真北を指す。床面は南北方向に水平を保つが、西壁沿いが浅く窪む。主柱穴は中央付近で東西向きに2基検出した。柱穴の並びは住居の主軸と直交せず、西側柱穴が南寄りにずれる。検出面からの深さは、東側の柱穴が0.2m、西側が0.3mを測る。

遺物は床面直上のものではなく、ほとんどが擾乱により元位置をとどめていない。そのため遺構に伴う遺物を確定することは困難である。

S Z 2 (第43図)

調査区北寄りの緩斜面で検出した。遺構の大部分を擾乱により失っているため全体の形状は不明であるが、残存する壁面から推定すると、長辺4m前後、短辺3.2mの長方形を呈するものと思われる。床面は検出面からの深さが約0.1mを測り、残存部はほぼ水平を保つ。

S Z 3 (第44図)

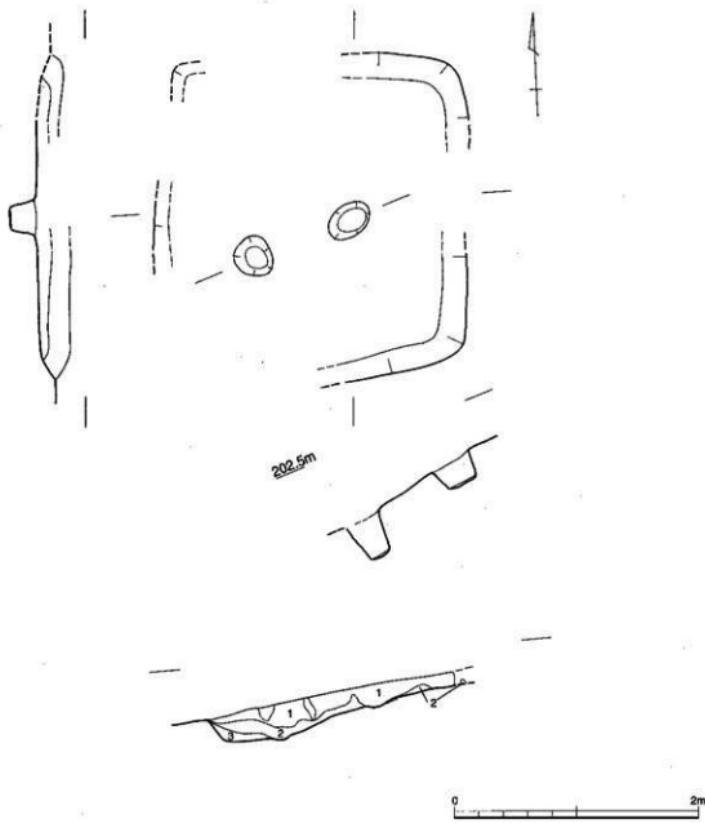
調査区北寄りの緩斜面で検出した。S Z 2と同様遺構の大部分を擾乱により失っているため全体の形状は不明である。3m前後の規模をもつものと思われる。床面は検出面からの深さが約0.2mを測り、残存部はほぼ水平を保つ。

S Z 4 (第44図)

調査区中央部の第X層上面で検出した。床面中央部を擾乱により失っている。平面形は北西隅が凹状に窪む隅丸方形を呈し、規模は長軸3m、短軸2.8mを測る。残存する床面の検出面からの深さは0.35mを測る。

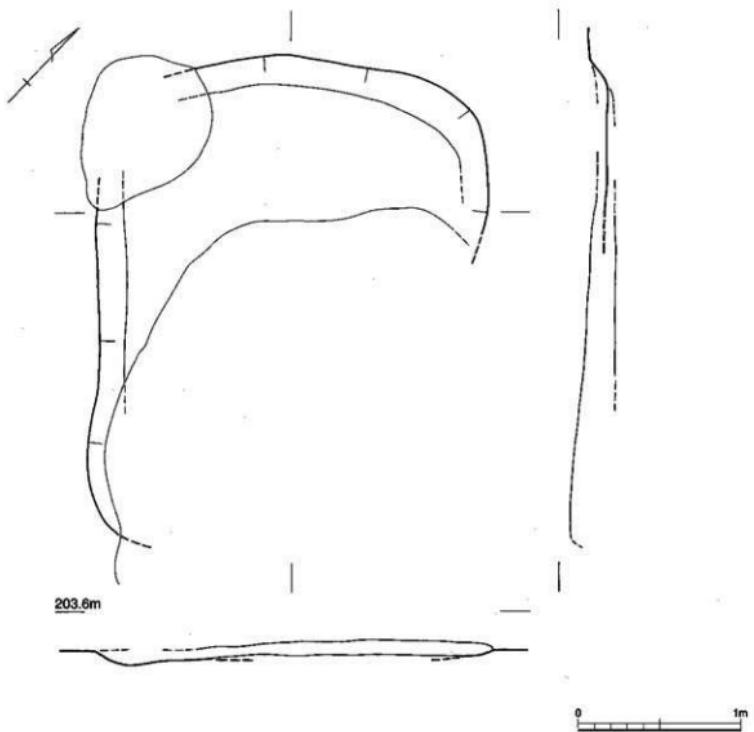
S B 1 (第45図)

調査区中央部で検出した。桁行3間以上梁行1間の長棟構造であるが、桁行柱列が平行を欠いている。また、西側桁行柱列の南から第4柱は検出できなかった。規模は桁行柱間が南から2.2m、2.2m、2mで、梁行柱間が南から2.2m、2.1m、2mを測る。棟方位はN40°Eを指す。

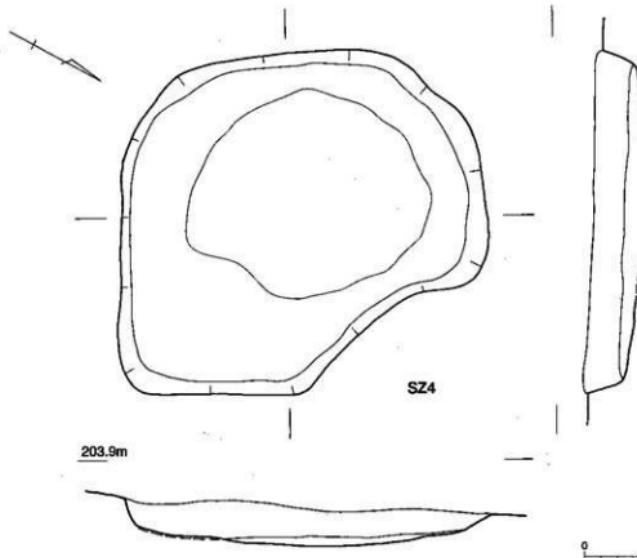
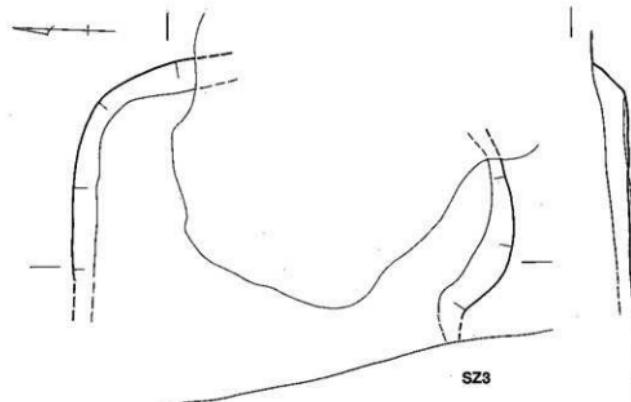


- 1 棕色(10YR4/4)弱粘質土～しまりあり。
1mm程の御池ボラ粒を多く含む。
- 2 黄褐色(10YR5/6)非粘質土～しまり弱い。
1mm以下のお池ボラ粒が密に混じる。
- 3 黄褐色(10YR5/6)非粘質土～しまり若干あり。
1mm以下のお池ボラ粒が濃密に混じる。

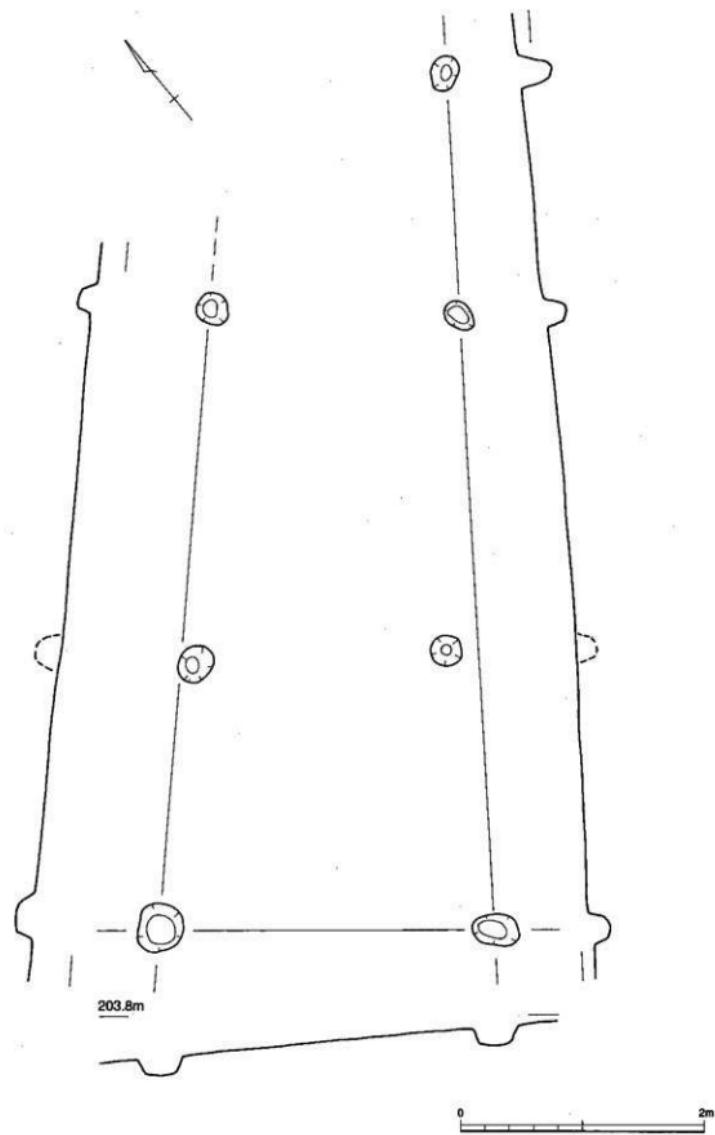
第42図 SA 5 実測図 (1/40)



第43図 SZ 2 実測図 (1/30)



第44図 SZ 3・4 実測図 (1/30)



第45図 SB 1 実測図 (1/40)

第4節 石器

石鎚、石錐、石匙、スクレイバー、剥片石器、石斧、石剣、敲石、磨石、砥石、台石、軽石製品などがV-b層を中心としたV層およびVI層、IX層から出土している。

打製石鎚（第46図 231～234）

打製石鎚は4点、IX、V-a・c層から出土した。平面形態は、二等辺三角形を呈し側縁部が直線的であるもの（231、232）、正三角形を呈し側縁部の片方がわずかに外湾し膨らみ片方がわずかに内湾するもの（233、234）に分類でき、基部形態は234が平基状を呈する以外は抉りを入れている。石材は231、233が黒曜石、232がチャート、234が輝石安山岩を使用している。

石錐（第46図 235）

石錐は1点、V-a層から出土した。錐部を両面からの丁寧な加工により作り出している。利用石材はチャートである。

石匙（第46図 236）

縦型の石匙がV-c層から1点出土した。つまみ部は右側が欠損しており調整は不明であるが、左側は両面から加工を施している。刃部は主に背面からの加工により作り出している。利用石材は黒曜石である。

スクレイバー（第46図 237～239）

スクレイバーは3点出土した。237はVI層出土で、左側縁は両面から、右側縁は腹面から加工を施し、また下側縁には背面から調整を加え、基部および弧状の刃部を作り出している。砂岩製である。238はV-b層出土である。横長の剥片を素材にし、側縁部の片方のみに両面から細かな調整を加え刃部を作り出している。利用石材はチャートである。239はV-c層出土で、縁周に両面から加工を施し刃部を全周させている。頁岩を利用したものである。

二次加工剥片（第47図 240、241）

2点ともチャート剥片を利用したもので、240はVI層、241はV-b層出土である。側縁部の一部を加工し、下縁には使用痕と思われる剥離痕がみられる。

使用痕剥片（第47図 242～244）

242はSC15の埋土から出土したチャート剥片で、他の2点はV-b層出土の輝石安山岩の剥片である。一边に使用痕と思われる剥離痕がみられる。

石核（第47図 245）

主に縦長の剥片を剥離した残核で、石材は黒曜石である。

打製石斧 (第47図 246~第48図 251)

砂岩性の打製石斧が6点出土した。超小型のもの(249 V-c層出土)、小型のもの(246 S Z 5出土、248 V-c層出土)、中型のもの(247 V-a層出土)、中型で両側縁部の基部近くに抉りを入れた有肩のもの(250 V-a層、251 V-b層出土)に分類できる。

磨製石斧 (第48図 252~255)

4点全てV-b層から出土した。253がシルト岩製であるほかは砂岩製である。253は本来の刃部が欠損した後、基部を研磨し片刀の刃を作り出して再利用したものと思われる。

磨製石剣 (第48図 256)

砂質シルト岩製の小型の石剣でV-c層から出土した。側縁から丁寧に研磨し表面に鎬を形成するが、裏面の鎬は明瞭でない。

敲石 (第49図 257)

砂岩ノジュルの敲石でV-c層から出土した。縁周全体に敲打痕がみられる。

磨石 (第49図 258~第51図 263)

V-a・b・c層から7点出土した。このうち6点圓化した。平面形態は全て梢円形を呈し、断面形により(A)扁平なもの(258~260)、(B)扁平で縁周に面を形成するもの(261、262)、(C)不整梢円形を呈するもの(263)に大別できる。263を除く全ての磨石で、側縁の一部に敲打痕がみられる。利用石材はB類の2点が凝灰岩で、ほかは砂岩である。圓化していない1点は溶結凝灰岩製でA類に属する。

砥石 (第50図 264~266)

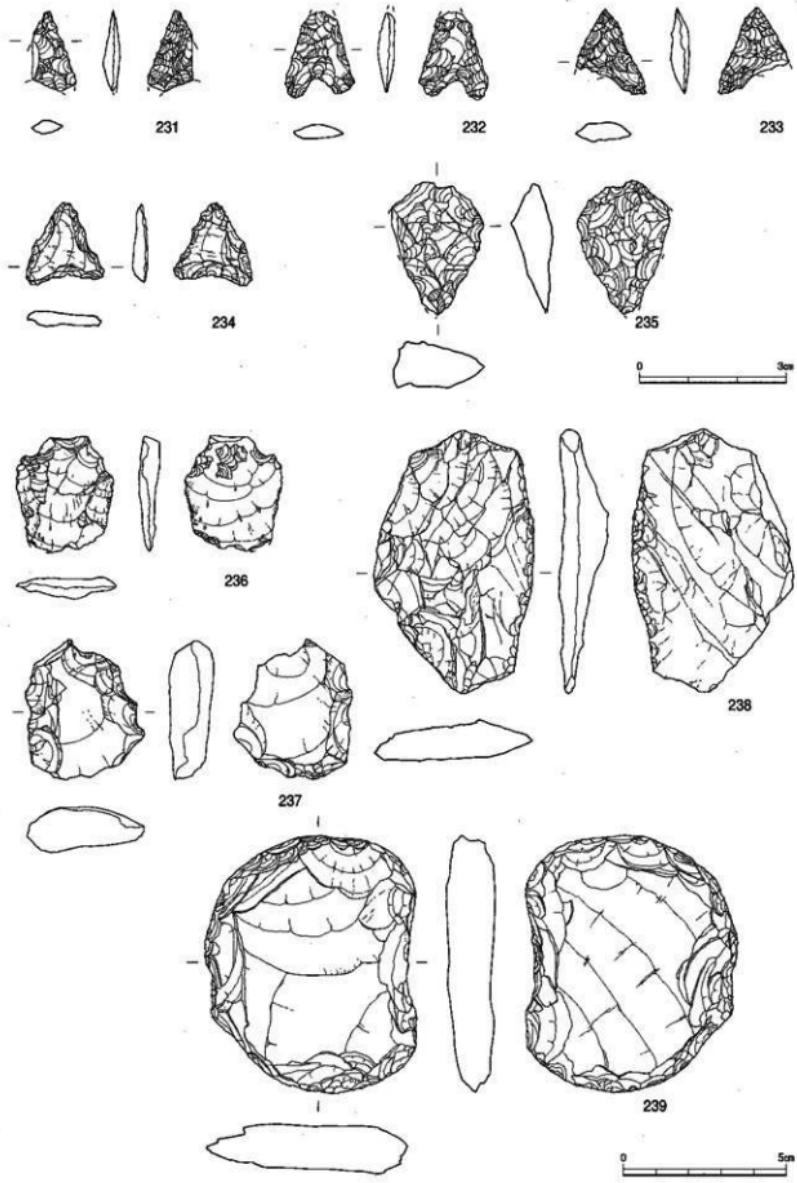
砥石はV-b層から3点出土した。全て砂岩製である。264、266は片面にのみ磨痕がみられ、265は裏面両面に砥面をもつ。

台石 (第51図 267)

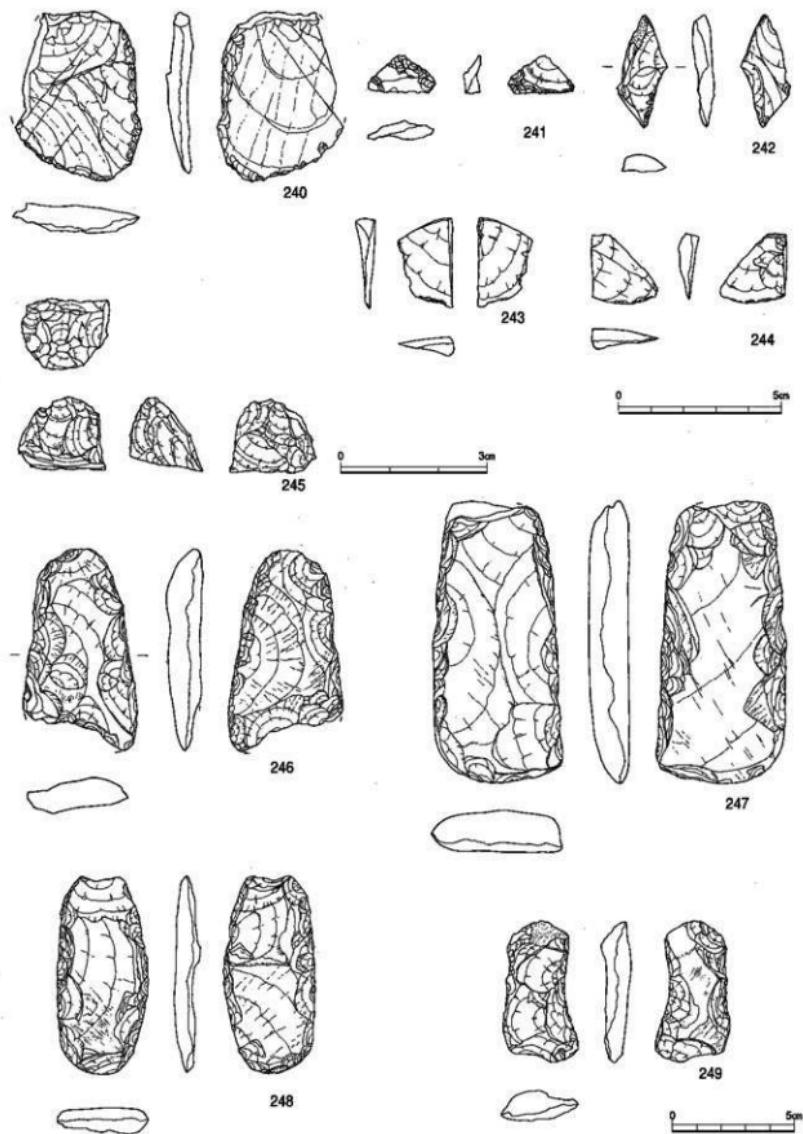
砂岩製の台石がS A 1の床面から1点出土した。表面に磨痕や敲打痕がみられる。

軽石製品 (第51図 268)

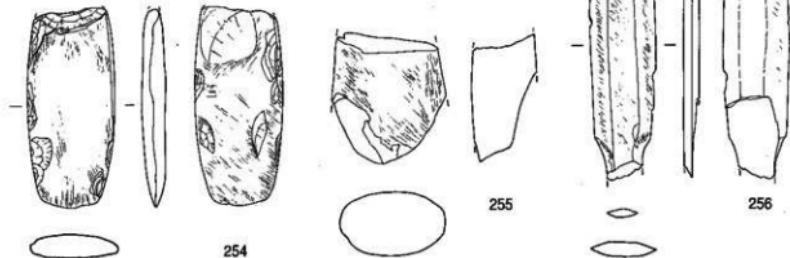
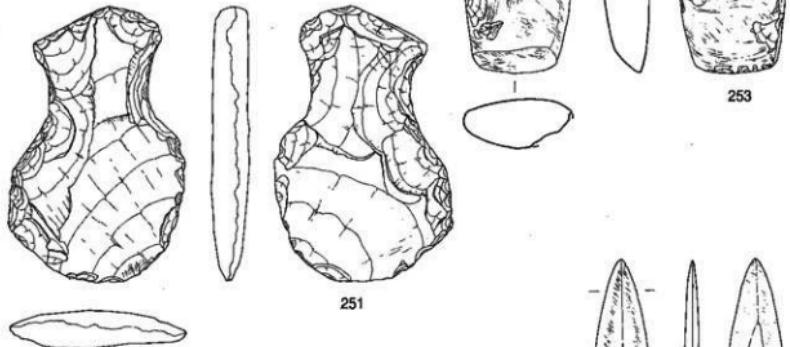
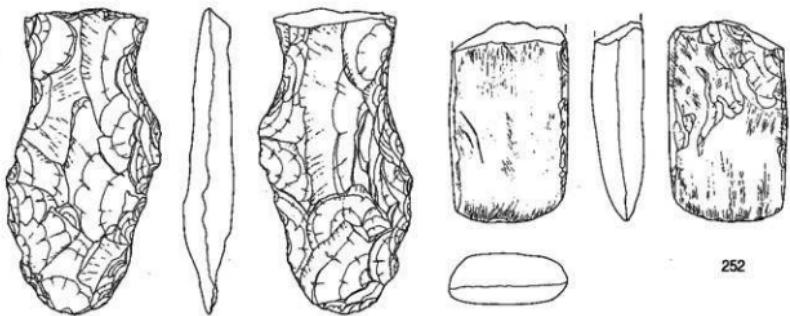
V-a層から1点のみ出土した。両端が欠損するが、側縁部に面取りを行っている。



第46図 石器実測図(1) (231~235…1/3、236~239…2/3)



第47図 石器実測図 (2) (240~244…2/3、245…1/1、246~249…1/2)

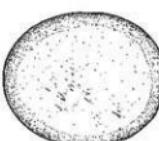


第48図 石器実測図 (3) (1/2)

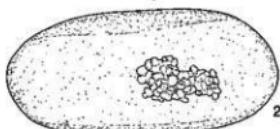
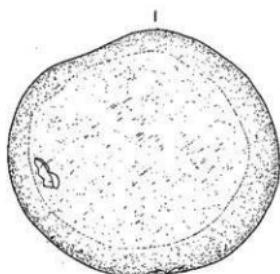
0 5m



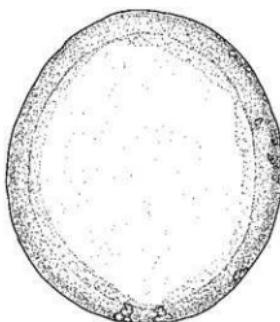
257



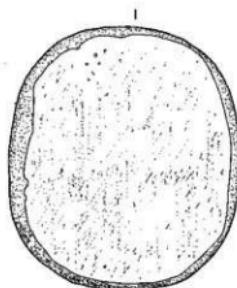
258



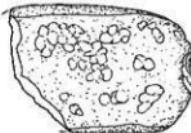
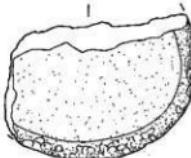
259



260



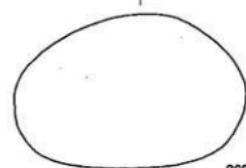
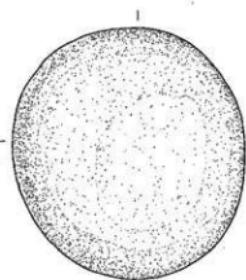
261



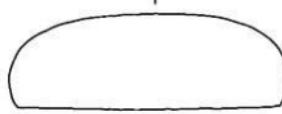
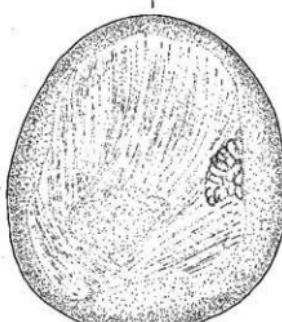
262



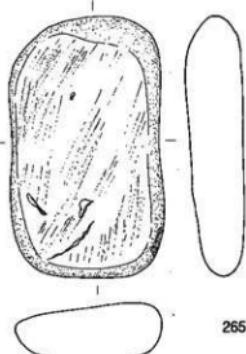
第49図 石器実測図 (4) (1/2)



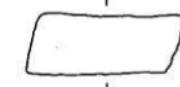
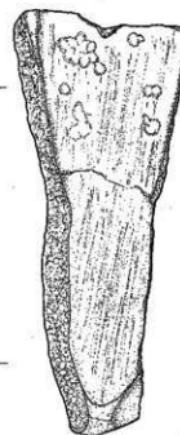
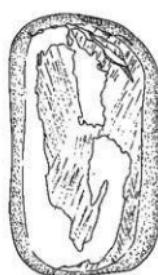
263



264



265

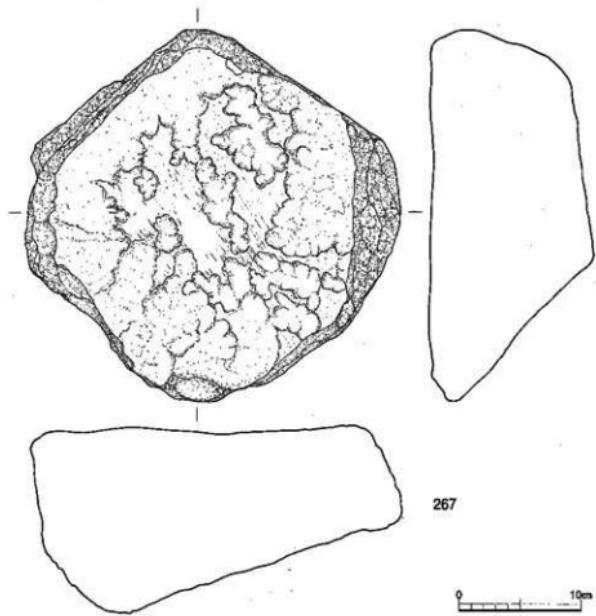


266

0 5cm

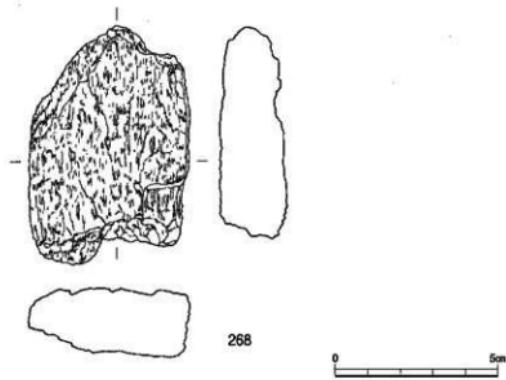
0 10cm

第50図 石器実測図 (5) (263~265···1/2、266···1/3)



267

0 10cm



268

0 5cm

第51図 石器実測図 (6) (267···1/4、268···2/3)

第2表 土器觀察表(1)

遺物 番号	出 土 地 点 ・ 層	分 類 (測定部) 器 部 (測定部) 部	文 様	調 整	色 調		胎土の特徴	備 考
					外 面	内 面		
1 SAI		深鉢 側部	神狀工具により深い沈縫	外縫は貝殻条痕の後ナデ 内縫は貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい黄褐	3.5mm以下の褐色	
2 SAI		深鉢 側部	浅い沈縫	外縫は横方向の貝殻条痕 内縫は横方向の貝殻条痕	にぶい白	白	2.5mm以下の褐色 1.5mm以下の黒・乳白色の粒、 黑色光沢粒	
3 SA2		深鉢 口縫	外縫は凹線により凸巻文	口縫部・内外縫ともにナ デ	褐	褐	1mm以下の乳白・褐色の粒	
4 SA2		深鉢 底部(9.0)		内外縫ともにナデ、表面 底縫部はナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	2mm以下の黄褐・黒褐・褐色 の粒	
5 C3-9- VA.Ve		深鉢 口縫(27.4) 側部	口縫部に山形突唇 底縫部に棒状・具による押切込み 外縫に平行沈縫と凸巻文を有す	口縫部はナデ 底縫部はナデ	灰黒 にぶい黄褐	にぶい黄褐 灰褐	3mm以下の灰褐・灰褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着 内面に黒斑
6 SM4		深鉢 口縫	口縫部に凹巻縫によると透抜押切込み 外縫に横位に平行沈縫	外縫は横方向のナデ 内縫は横方向の貝殻条痕	にぶい赤褐	暗灰褐	3~6mmの褐色の粒 1mm以下の黒色・透明光沢粒	
7 SM4 GAS		深鉢 側部	外縫に横位・斜位の沈縫	外縫は横方向の貝殻条痕 斜位の貝殻条痕の後ナ デ	にぶい白	にぶい褐 灰褐	2.5mm以下の紫褐色 1mm以下の乳白色の粒	外面にスス付着
8 SM4 WHT-B		深鉢 側部 底部(10.0)	底部にアジロ編み压痕	外縫は貝殻条痕、貝殻条 縫の後ナデ、底縫部 内縫は貝殻条痕の後ナデ 底縫部はナデ、指跡	にぶい白	にぶい白 暗灰褐	3mm以下の灰白・黒・赤褐色 の粒、黑色光沢粒	内面ともにス ス付着
9 SM4		深鉢 底部(9.6)		内外縫ともにナデ 底縫部はナデ	灰褐 灰褐	にぶい黄褐 暗灰	2.5mm以下の褐色の粒	外面にスス付着 内面に黒斑
10 E-4.5 I-3-Vb I-3-Vc S21		深鉢 口縫(35.0) 側部	口縫部に山形突唇、底縫部は神狀工具 より押切込み、突唇部に凹窓、口縫部 に深い凹窓で表手足、横縫の凹巻文	I口縫部はナデ 外縫はナデ、底縫部 内縫は横方向の貝殻条痕の後 の後ナデ	灰褐	にぶい白 暗灰褐	2.5mm以下の灰白・灰・褐 色の粒、透明光沢粒	外側はスス付着 内面は底斑 IIと同一個体
11 S21 I-3-Vc		深鉢 口縫 側部		I口縫部はナデ 外縫は横方向のナデ、底縫部 内縫は横方向の貝殻条痕の後 の後ナデ	灰褐	褐	2.5mm以下の灰白・灰・褐 色の粒、透明光沢粒	外側にスス付着 IIと同一個体
12 S21 I-3-Vc		深鉢 側部 底部(10.0)		外縫は横方向のナデ、 内縫は横方向のナデ、指 跡	にぶい白 暗灰	にぶい黄褐	5mm以下の灰白 2mm以下の乳白・褐色の粒	外面にスス付着 内面に黒斑
13 S21 I-3-Vc		深鉢 口縫	口縫部に平行する沈縫による巻曲文	外縫はナデ 内縫は横方向の貝殻条痕、 ナデ	白 にぶい白	暗灰 暗灰	5mm以下の乳白・灰・赤褐色 の粒 1mm以下の黑色光沢粒	外面に黒斑
14 S21		深鉢 口縫		外縫は貝殻条痕 内縫は横方向のナデ	灰	灰褐	2.5mm以下の黄褐・灰白・灰 色の粒、透明光沢粒	外面にスス付着
15 S21 I-3-Va I-3-Va		深鉢 口縫 側部		外縫は横方向の貝殻条痕、 ナデ 内縫はナデ	灰 灰	灰褐 にぶい白	3.5mm以下の灰褐色 2.5mm以下の赤褐色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着
16 S21		深鉢 口縫	外縫に口縫部に三角形突唇	外縫は横方向のナデ 内縫は横方向の貝殻条痕 の後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の灰白・灰・黑色の 粒、透明光沢粒	
17 S21 I-3-Vb		深鉢 口縫(40.8) 側部	外縫に突出突唇	口縫部はナデ 外縫は横方向のナデ、指 跡部に突唇	にぶい黄褐 黑褐	にぶい黄褐 黑褐	2mm以下の赤褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外側に黒斑、 スス付着 内面に黒斑
18 S11		浅鉢 口縫	口縫部にヒレ状突起 口縫部に突唇	口縫部はナデ 外縫は横方向のナデ、指 跡部はナデ	にぶい黄褐 灰褐	にぶい白 灰褐	1mm以下の灰白・灰白色の粒、 黑色光沢粒	
19 S11		深鉢 側部		外縫は横方向のナデ 内縫は横方向の貝殻条痕	にぶい黄褐	灰褐	3mm以下の乳白・灰褐色の粒、 透明光沢粒	

第3表 土器觀察表(2)

遺物番号	出土地点・層	分類	器部 (復元径cm)	文様	調査	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
20	SC1	深鉢 縁部			外側は貝殻生痕の後ナデ 内面は横方向の貝殻生痕	明褐	オリーブ褐	2~3mmの灰白色 1mm以下の灰白色の粒、黒色 透明光沢	内面に黒斑
21	SC7	深鉢 口縁		外側口縁部に斜材突起	外面はナデ 内面は横方向の貝殻生痕	明褐	にぶい黄褐	2mm以下の茶褐色の粒 1mm以下の黒褐・乳白色の粒	内外面ともに黒斑
22	SC7	深鉢 底部(7.9)			内外面・底部とともにナデ	にぶい黄	にぶい黄褐	2mm以下の灰白・褐斑・黄褐色の粒	
23	SC7 D3-Vc	深鉢 縁部 (9.8)			外側は横方向の貝殻生痕、 貝殻生痕の後ナデ 内面は貝殻生痕、ナデ 底内面は貝殻生痕の後ナデ 底外側はナデ、貝殻生痕	にぶい黄	にぶい褐	2mm以下の墨褐・乳白色の粒	
24	SC8	深鉢 底部11.2		外側は貝殻生痕、横方向 のナデ 内面・底面とともにナデ	にぶい黄褐 浅灰	暗灰黄 浅灰	4mmの淡黄色の粒 微細な透明白・黑色光沢粒	内面にスス付着	
25	SC8	深鉢 口縁(41.0) 縁部			口縁部はナデ 外側は貝殻生痕、ナデ 内面は横方向の貝殻生痕の 後ナデ、底面のナデ	明褐 にぶい黄	にぶい黄褐 穂	5mm以下の褐・灰色 3mm以下の褐色の粒 2mm以下の褐色・透明光沢 底ナデ	内外面ともにスス 付着
26	SC7.8	深鉢 縁部(33.2) 縁部		外側は貝殻生痕の後ナデ ナデ、底面 内面は横方向の貝殻生痕、 横方向のナデ、底面	にぶい黄褐 穂	にぶい褐	3mm以下の浅黄褐・灰白・黑 褐色の粒、透明・金色光沢 粒	外面上にスス付着 内面に黒斑	
27	SC7.8 D3-Vc	深鉢 口縁(35.0) 縁部		内面に横タキイチ突起	内外面とともにミガキ	黒褐	黒褐	1mm以下の白色の粒、透明光 沢粒	
28	SC9 D3-Vc	深鉢 底部(33.4)		底部にアシロ編み压痕	内外面とともに貝殻生痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	1mm以下の灰黄・灰褐色の粒、 透明光沢粒	
29	SC14	深鉢 口縁(35.1) 縁部		口縁部はナデ 内面は横方向のナデ、 底面	口縁部内面に浅い凹面 内面はハサウエ工具による丁 字ナデ、ナデ後ミガキ 内面はミガキ、ナデ、留痕 底	暗灰黄 明褐	暗灰 明褐	2.5mm以下の灰黄褐・灰白色 の粒、透明光沢粒	外面上にスス付着
30	SC14	深鉢 口縁		口縁部内面に浅い凹面	外側は丁字ナデ、ナデ 内面はミガキ	明赤褐	赤褐	5mmの黄褐・赤褐色 2mm以下の灰褐・黑・淡褐 底白色の粒、黑色光沢粒	外面上にスス付着
31	SC14	深鉢 縁部		外側に2条の凹痕	外側はミガキ 内面はナデ	黒褐	灰褐	4mm以下の浅黄・明赤褐・灰 白の粒、透明光沢粒	
32	SC13 N	深鉢 口縁		口縁部に2条の凹縫、 外側口縁部に1条の凹縫	口縁部・外側とともにミガキ 内面はミガキ、一部ナデ	暗褐 にぶい黄褐	暗褐 にぶい黄褐	2mm以下の灰白・灰褐色の 粒 1mm以下の透明光沢粒	外面上にスス付着
33	SC13	深鉢 縁部		外側縁部に3条の凹縫、 連続凹点	外側は丁字ナデ等、一部 ミガキ 内面はナデ	黒褐 にぶい黄褐	にぶい黄褐	2.5mm以下の乳白・灰褐色の 粒 黑色光沢粒	
34	SC15 D3-Vb D3-Vc E3-Vc	深鉢 口縁 縁部			外側は横方向の貝殻生痕 内面はミガキ、丁字ナデ ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	にぶい黄褐 にぶい褐	1~3mmの大粒・灰・淡黄色 1mm以下の灰黄・黑色の粒、 透明光沢粒	外面上にスス付着
35	SC15	深鉢 口縁			外側は丁字ナデ 内面は貝殻生痕	穂	穂	3mm以下の褐・灰白色の粒	
36	SC15	深鉢 縁部			外側は貝殻生痕の後ナデ 内面はナデ	暗灰黄	暗灰黄	5mm人の褐 2mm以下の褐灰色の粒、透明 黑色光沢粒	外面上に黒化
37	SC15	深鉢 縁部			外側はミガキ、横方向のナ デ後ミガキ、丁字ナデ 内面は丁字な横方向のナデ、 ミガキ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	にぶい黄褐 にぶい黄褐	微細な透明・黑色光沢 1mmの大粒・乳白色的粒	外面上に黒斑
38	SC15	深鉢 底部5.4			内外面とともにナデ 底部はナデ	にぶい黄褐 にぶい褐	淡黄褐	2mm以下の乳白色的粒 1.5mm以下の黑色光沢粒	外面上にスス付 着、風化結構

第4表 土器觀察表(3)

遺物 番号	出 土 地 点 分 類	器 部 (直徑或cm)	文 様	調 整	色 調		胎土の特徴	備 考
					外 面	内 面		
39	SC15 F-6-Vc	浅井 底部	外面に織目状痕	内面はミガキ	黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の薄・白色の粒、透 明光沢粒	
40	SC17	浅井 口縁		内外面ともにミガキ	黒	にぶい褐	1mm以下の灰白色の粒、黑色・ 透明光沢粒	
41	SC17	浅井 口縁	口唇部以下に1条の沈痕	内外面ともにミガキ	オリーブ黒	オリーブ黒	0.5mm以下の黒褐・黄褐色の 粒	
42	SC16	浅井 底部		内外面ともにナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	3mm以下の黒褐・黄褐色の粒、 黑色光沢粒	
43	SC16,17 F-6,T-Va	浅井 底部	外面に織目状痕	内面はナデ	にぶい褐	褐灰	2mm以下の茶褐・灰褐・褐褐・ 乳白色の粒	内面に墨斑
44	F-3-Vx	I A版 口縁(19.2)	II型部模位に撫摩起突等	外面はナデ 内面はミガキ、貝殻条痕、 指痕	にぶい黄	にぶい黄	4mm以下の黒褐・灰白色の粒、 微細な透明光沢粒	外面にスス付着
45	F-3-Vx	I B版 口縁	II型部模位に撫摩起突等	外側はナデ 内面は貝殻条痕	黄褐	にぶい黄	微細な褐・黄褐色の粒	外面にスス付着
46	F-3-Vx	I B版 底井 底部	斜位に織目状痕	外側は横方向の貝殻条痕 の後ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄褐	2.5mm以下の赤褐色の粒、 微細な透明光沢粒	外面はスス付着
47	F-3-Vx	I B版 底井 底部	横位、斜位に撫摩起突等	外側は貝殻条痕 内面は横方向の貝殻条痕	にぶい褐 灰褐	にぶい黄 灰褐	2mm以下の黒・淡黄・乳白、 茶褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着
48	F-3-Vx	I B版 底井 底部	横位、斜位に撫摩起突等	外側は貝殻条痕 内面は横方向の貝殻条痕	にぶい褐 灰褐	にぶい黄 灰褐	2mm以下の褐色の粒、黑色光 沢粒 微細な透明光沢粒	内面にスス付 着
49	F-3-Vx	I B版 底井 底部	縦位に撫摩起突等	外側は横方向の貝殻条痕 内面は横方向の貝殻条痕	にぶい褐 灰褐	にぶい黄 灰褐	2mm以下の黄褐・黑・灰白色 の粒 1mm以下の透明光沢粒	外面にスス付 着
50	I-D-Vx	I B版 底井 底部	外面に押印文、沈痕内側突文	外側とともに横方向の貝 殻条痕の弦に横方向のナ デ	暗褐	明黄褐	2mm以下の灰黄・灰白色の粒、 黑色・透明光沢粒	内面に墨斑
51	I-D-Vx I-D-Yc I-D-Vx	深井 底部	外面に押印沈痕文、沈痕	外側は貝殻条痕のナデ、 折痕 内面は横方向の貝殻条痕、 指痕	暗褐	にぶい褐	3mm以下の灰褐・灰白色の粒、 黑色・透明光沢粒	外面にスス付着
52	I-B-Vx I-B-Yc	深井 底部 (9.0)	3~4条の深い平行状痕を刻むさせた 織目状痕文	口唇部はナデ 内面とともに横方向のナ デ 内面に指痕	にぶい褐 灰褐	にぶい黄 にぶい黄褐	1~3mmの淡黄・灰・黑色、 微細な淡黄色の粒、透明光 沢粒	
53	I-B-Vx I-B-Yc	深井 底部	4条の平行沈痕	内外面ともにナデ、指痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	4mm以下の灰褐・乳白・褐色 の粒、透明光沢粒	
54	I-B-Vx I-B-Yc N A版 I-A版	深井 口縁(31.8) I 底部	口唇部に山形突起 沈痕部と手縫の口唇部に溝 縫合痕 基輪點字と平行文	口唇部はナデ 内面とともに貝殻条痕の 後ナデ	にぶい黄 灰褐	にぶい褐 にぶい黄	2mm以下の白・淡黄・茶褐色 の粒 1mm以下の透明光沢粒	内面ともに墨 斑
55	I-B-Yc I-B-Vx	深井 口縁 I 底部	波頭部に押印削み 波状文	口唇部はナデ 内面とともに横方向の貝 殻条痕の後ナデ、指痕	暗	暗	2.5mm以下の乳白色の粒 1mm以下の黑色・透明光沢粒	外面にスス付着
56	I-B-Yc I-B-Yc	深井 口縁 I 底部	外側にへら状工具による刺突、三角 形文 波状文	口唇部はナデ 内面とともに横方向の貝 殻条痕の後ナデ	にぶい褐 暗褐	暗 暗褐	4mm以下の暗褐・褐色 2mm以下の灰色の粒、金色・ 透明光沢粒	外面にスス付着
57	I-B-Yc I-B-Yc	深井 底部	沈痕、貝殻条痕兼連突文	外側は貝殻条痕、指痕 内面は貝殻条痕の後丁寧 なナデ、指痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の淡黄・灰白・灰褐 の粒、金色光沢粒	外面はスス付 着 内面は墨斑

第5表 土器観察表(4)

遺物 番号	出 土 地 点 ・層	分 類	器 部 (復元図a)	文 様	調 整	色 調		黏土の特徴	備 考
						外 面	内 面		
58	E-2-Va	VIA層	縦跡 口縁	四縞文	口唇部はナデ 外腹は横方向の丁寧なナ デ 内面はナデ	黒 黒褐	にぶい褐	緻密な透明白色光沢 1mmの優質の粒	内面は氯化気泡
59	E-2-Va E-1.5 F-5-Vb	VIA層	縦跡 口縁 底部	四縞文、凹点文	口唇部はナデ 外腹は横・ミガキ、ナデ 内面は貝殻条痕のミガ キ	オーリーブ褐 黒褐	暗灰青 黒	3mm~4mmの大粒白・灰褐色 2mm以下の中粒赤褐色の粒、黒色、 透明光沢粒	外面にスス付 内面は氯化気泡
60	E-5-Va	VIB層	縦跡 口縁		口唇部・内外面ともにナ デ	黒褐	黒褐	4mm以下の灰黄・乳白色の粒、 黑色光沢粒	
61	E-4.5 F-5-Vb	VIA層	縦跡 口縁	外面1種芯に貼付突起	外腹は横方向のナデ、丁 寧なナデ 内面はナデ	褐灰	灰黄褐	3mm以下の中粒灰・灰褐色の粒、 黑色光沢粒	外面に黒斑
62	D-5-Va	VIA層	縦跡 底部	四縞文	外腹はミガキ 内面ナデ	黒褐	暗灰青	2mm~4.5mmの大粒白・黄褐色、 黑色の粒、透明光沢粒	外面にスス付青 内面に黑斑
63	F-5-Vc	VIA層	縦跡 底部	四縞文、逆U字四縞文、凹点文	外腹は横方向の丁寧なナ デ 内面はナデ	黒褐	にぶい黒褐	緻密な透明白色の粒、透明光 沢粒 2mmの大粒灰褐色の粒、黑色光 沢粒	内面は氯化気泡
64	F-5-Va	VIA層	縦跡 底部 底部	四縞文、凹点文	外腹はミガキ 内腹にナデ、ミガキ、指 印痕	黒褐	褐灰 黒	3mm以下の灰白・褐色の粒、 透明光沢粒	内面ともに黒 斑
65	E-4.5 F-5-Vb	VIB層	縦跡 底部	外腹は丁寧なナデ 内面はナデ、指印痕	褐灰	灰黄褐	2mm以下の墨褐色の粒、黑色 光沢粒	外面に黒斑	
66	E-5-Vc	VIA層	縦跡 底部	四縞文、逆U字四縞文、凹点文	外腹はナデ 内腹は丁寧なナデ	にぶい褐	黄褐	2mm以下の白・乳白色の粒、 透明光沢粒	
67	C-3-Vb	VIB層	縦跡 底部		外腹は横方向のナデ 内腹は丁寧なナデ	褐灰	灰黄褐	3mm以下の黒褐・灰褐・灰 褐色の粒	外面にスス付青
68	E-3-Vc C-3-V	VIA層(30.3)	縦跡 口縁(30.3) 底部	口唇部はナデ 外腹は貝殻条痕の貝殻条痕、ナ デ 内腹はミガキ、横方向のナデ、 貝殻条痕の貝殻条痕	にぶい黄褐 灰黄褐	浅黄 にぶい灰褐	2.5mm以下の透明白色、2mm以 下の白色・赤褐色・褐・黑色 灰色の粒	外面に黒斑、大 穴付 内面に黒斑	
69	D-3-Vb	VIA層	縦跡 口縁		外腹はミガキ 内腹は指痕不明	にぶい赤褐	にぶい棕	2mm以下の褐・茶・灰褐色の粒、 透明光沢粒	
70	E-5-Va	VIA層	縦跡 口縁 底部		口唇部はナデ 外腹は横方向のナデ 内腹はナデ	黒	にぶい褐	3mm以下の褐・灰・乳白色の粒、 透明光沢粒	外面にスス付青 内面は氯化気泡
71	E-3-Va	VIB層	縦跡 口縁		口唇部はナデ 外腹は横方向のナデ 内腹は貝殻条痕の貝殻条 痕のナデ	褐灰	棕	1.5mm以下の乳白色、1mm以 下の茶・褐色の粒、透明光 沢粒	内面に黒斑
72	C-3-V Vb,Va	VIB層(33.0)	縦跡 底部		外腹は横方向のナデ 内腹はミガキ	褐灰	にぶい褐	2mm以下の茶褐・灰褐色の粒	外面にスス付青 補修孔(2孔)
73	E-5-Va	VIB層	縦跡 口縁(14.1)		口唇部はナデ 外腹と内腹とも横方向のナ デ	褐灰 にぶい赤褐	褐灰 にぶい赤褐	4mm以下の明褐色、2.5mm以 下の赤褐・乳白・黑色の粒、 1.5mm以下の透明白色	外面にスス付青 内面に黒斑
74	C-3-Vb	VIB層	縦跡 底部		外腹は横方向の貝殻条痕 内腹は横方向の貝殻条痕 の後ナデ、指印痕	褐青	浅黄	1~2mmの大粒灰・茶・淡黃 褐色の粒	外面にスス付 青、氯化気泡
75	F-5-Vb	VIB層	縦跡 底部		外腹は貝殻条痕の後ミガ キ風ナデ 内腹は貝殻条痕の後貝殻 条痕のナデ、指印痕	褐 にぶい黄褐	褐灰	2mm以下の白・茶褐・灰褐色 の粒、透明白色光沢粒	外面に黒斑 内面に黑斑
76	C-3-Vb	VIB層(22.5)	口唇部に山形突起	口唇部はナデ 外腹は貝殻条痕の後ナデ 内腹はナデ、ミガキ	にぶい赤褐	にぶい棕	2mm以下の白・乳白色の粒、 3.5mm以下の透明白色	外面にスス付青 内面に黒斑	

第6表 土器觀察表(5)

遺物 番号	出 土 地 点 分 類 ・ 層	器 部 (底面部)	文 様	調 整	色 調		胎土の特徴	備 考	
					外 面	内 面			
77	II-D-Va III-C類	底部 口縁(19.6) 底部(9.2) 唇部		外底はミガキ、指痕有 内面部はミガキ、工具によるナデ、側面底 底部はナデ	にぶい にぶい 灰黒	にぶい 灰黒	3mm以下の灰・暗褐色 2mm以下の黒色の粒、透明光沢粒 1.5mm以下の白色の粒	外側にスス付着	
78	CD-3- Va.Vb	底部 口縁(30.8) 唇部	口唇部に山形突起	口唇部はナデ 外底は横方向のナデ 内底は試方時のナデ、指 痕有	灰黒	にぶい 灰黒	3mm以下の茶褐・褐黒・灰白 2mm以下の白色の粒	外側にスス付着	
79	B-3-Vb III-D類	底部 口縁 唇部		口唇部はナデ 外底はハサツ工具によるナデ、 工具によるナデの底ナデ 内底は工具によるナデの後 ナデ、ナデ	灰黒	にぶい 灰黒	3mm以下の灰・黑色 2mm以下の明褐色の粒	外側にスス付着	
80	C-3-Vb III-D類	底部 口縁	外底口唇部に押注文 波状山縫	口唇部・外側ともにミ ガキ	にぶい にぶい 灰黒	にぶい 灰黒	3mm以下の淡黄色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	内面に墨度	
81	E-4.5 F-4-Vb	III-D類	底部 口縁		外底は横方向の貝殻条痕 後一帯ナデ 内底はナデ	にぶい にぶい 灰黒	2mm以下の黒・乳白・茶褐色 の粒 微細な透明光沢粒	外側に墨度	
82	F-4-Vb F-4-Vc	III-A類	底部 口縁(34.4)		口唇部・内外面ともにミ ガキ	褐 灰黒	暗灰 灰黒	3~4mm大的灰黒・黄褐色 1mm以下の灰・黑色の粒、 透明光沢粒	
83	H-4-Vb Vc	III-A類 唇部 底部(3.2)		内底ともにミガキ 底部はナデ	褐 灰黒	暗灰 灰黒	4mm大的黒・灰色 1mm以下の灰・灰白色的粒 黑色、透明光沢粒	外側に墨度 32.2同一個体か	
84	G-1	III-A類	底部 口縁		口唇部はミガキ 外底はミガキの後ナデ 内底はミガキ	褐	褐	3mm以下の茶色 2mm以下の明褐色の粒 微細な透明光沢粒	外側にスス付着 墨度
85	G-1	III-A類	底部 口縁		口唇部・内外面ともにミ ガキ	にぶい 灰黒	褐	2mm以下の乳白色の粒 1mm以下の透明、黑色光沢粒	外側に赤色付 墨度
86	B-3-Vc	III-A類	底部 唇部		内外面ともにミガキ	灰黒	淡黄	微細な透明光沢粒	外側に墨度 風化灰味
87	B-3-Va CD-3-Vb	III-B類	波状山縫	内底ともにミガキ	灰黒	暗灰	1.5mm以下の赤褐色の粒 微細な透明光沢粒	外側に墨度 内面風化灰味	
88	B-3-Vc	III-B類	底部 口縁	口唇部にヒレ状突起、内外面に沈積 ガキ	口唇部・内外面ともにミ ガキ	淡黄 灰黒	1mm以下の褐色の粒		
89	F-4-Vb	III-C類	底部 口縁(27.0)	口唇部はミガキ 内外面ともにミガキ、指 痕有	にぶい にぶい 灰黒	にぶい 灰黒	7mmの灰黒褐色 4mmの黃褐色 1mm以下の灰・黒色の粒、 透明光沢粒	外側にスス付着 修復孔	
90	F-4-Vb	III-C類	底部 口縁		内外面ともにミガキ	にぶい 褐	にぶい 灰黒	2mm以下の茶褐・灰褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外側にスス付着 内面に墨度
91	F-4-Vb	III-C類	底部 口縁		口唇部・内外面ともにミ ガキ	にぶい 灰黒	3mm以下の茶褐・灰黒・茶褐色 の粒、透明光沢粒	外側にスス付着 内面に墨度	
92	CD-3- Va.Vb B-3-Va	III-C類 唇部	口縁(36.2) 唇部	口唇部・内外面ともにミ ガキ	黑	黑	6mm以下の茶色 2mm以下の灰色 1.5mm以下の白色の粒	外側に、風化著 しい	
93	B-3-Vc	III-D類	小突起 口縁(10.5) 唇部	口唇部・内外面ともにミ ガキ	灰黒	灰黒	1mm以下の茶・白色の粒、透 明光沢粒	外側に、風化著 しい	
94	F-4-Vc	III-D類	底部 口縁		口唇部・内外面ともにミ ガキ	褐	褐	1mm以下の灰白色の粒	修復孔
95	E-4.5 F-4-Vb	III-D類	底部 口縁		内外面ともにミガキ	褐	褐	微細な淡黄色の粒、黑色光 沢粒	外側に墨度 内面は風化灰味

第7表 土器觀察表(6)

遺物番号	出土地点・層	分類	器部 (復元口徑cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
96	D-3-Vb	復D型	浅鉢 口縁		内外面ともにミガキ	にぶい黄	黄灰	1mm以下の淡黄色の粒、透明光沢粒	
97	D-3-Vb D-5-Va	復D型	浅鉢 口縁		口唇部・内外面ともにミガキ	黄灰	暗灰黒	1mm以下の淡黄色の粒	補修孔
98	D-3-Va	復D型	浅鉢 口縁 ↓ 脚部		口唇部・内外面ともにミガキ	黒	黄灰	1mm以下の淡黄色の粒 微細な透明光沢粒	外面にスス付着
99	F-4.5 F-4-Vb	復D型	浅鉢 脚部(24.8)		内外面ともにミガキ	黒	黒褐	1mm以下の淡黄色の粒、透明光沢粒	
100	D-3-Va	復D型	浅鉢 口縁		内外面ともにミガキ	にぶい黄	にぶい黄	1mmの黑色光沢粒 微細な淡黄色の粒、透明光沢粒	外面ともに墨斑、赤色物付着
101	F-4-Vb	復D型	浅鉢 口縁	口唇部にヒレ状突起	口唇部・内外面ともにミガキ	にぶい黄褐	暗	微細な淡黄色の粒、透明光沢粒	102,103と同 側体 補修孔
102	F-4-Vb	復D型	浅鉢 口縁 ↓ 脚部	内面に沈縫	口唇部・内外面ともにミガキ	黒褐	暗 明歩開	微細な淡黄色の粒、透明光沢粒	外側にスス付着 脚部 101,103と同 側
103	F-4.5-Vb	復D型	浅鉢 底部(9.4)		外面はミガキ 内面はナダ 底面はミガキ	にぶい黄褐 にぶい黄	暗	1mmの大・中・小の粒 微細な透明光沢粒	内外面・裏面が灰 外側にスス付着 101,103と同 側体
104	C,D-3- Va,Vb	復D型	浅鉢 口縁 脚部	内外面に沈縫	内外面ともにミガキ	浅黄	にぶい黄	1mm以下の黒・茶色の粒	内外面に赤色物 付着 墨斑 補修孔
105	C-3-Va	復D型	浅鉢 口縁 ↓ 脚部	口唇部にヒレ状突起	口唇部・内外面ともにミガキ	にぶい黄 暗灰	暗灰	5mm以下の褐色の粒 2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の墨色の粒	
106	D-3-Va	復D型	浅鉢 口縁(22.4)		外面はミガキ、指痕有 内面はミガキ	にぶい黄褐 暗灰	暗灰	2mm以下の墨・黄褐・灰白・ 黑色の粒、透明光沢粒	表面は墨化
107	C-3-Va	復D型	浅鉢 脚部		内外面ともにミガキ	暗 黄褐	暗灰黒 明歩開	2.5mm以下の墨・黄褐・灰白・ 黑色・赤褐色の粒	表面に墨斑、ス ス付着
108	C-3-Va	復D型	浅鉢 口縁		口唇部はミガキ 外面はミガキ 内面はミガキ、指痕有	明歩開 浅黄	にぶい黄褐 浅灰	2.5mmの大・中・小の粒 1mm以下の黑色の粒、透明光 沢粒	
109	F-4.5 F-4-Vb E-4-Vr	復D型	浅鉢 口縁	内面に沈縫	内外面ともにミガキ	にぶい黄褐 暗灰	にぶい黄褐 暗灰	1mm以下の灰白・墨褐色の粒	
110	D-3-Vc	復D型	浅鉢 口縁	口唇部内外面に沈縫	内外面ともにミガキ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	微細な透明光沢粒	外面にスス付着
111	F-3-Vc	復D型	浅鉢 口縁	口唇部内外面に沈縫	内外面ともにミガキ	暗灰黒	暗灰	2mm以下の乳白・灰白色の粒	
112	C-3-Vb	復D型	浅鉢 口縁(15.4)	口唇部内外面に沈縫	内外面はミガキ	にぶい黄褐	暗灰黒	1mm以下の黄褐・褐色の粒	口唇部は墨化
113	C,D-3- Va,Vb D-3-Vc	復D型	浅鉢 口縁 ↓ 脚部	口唇部内外面に沈縫	口唇部・内外面ともにミ ガキ	にぶい黄褐 にぶい黄	暗灰黒	1mm以下の墨・淡黄・灰白色 の粒 微細な透明光沢粒	外面に墨斑 内外面墨化
114	C,D-3-Vb	復D型	浅鉢 口縁 ↓ 脚部	口唇部内外面に沈縫	口唇部はミガキ 外面はミガキ、指痕有 内面はミガキ	にぶい黄褐 暗褐	暗褐	2mm以下の淡黄色の粒	

第8表 土器觀察表(7)

遺物 番号	出 土 地 点 ・層	分類	器 部 (厘米)	文 様	調 整	色 調		胎土の特徴	備 考
						外 面	内 面		
115	C-3-Va B-3-Vc	環G類	浅鉢 口縁		内外面ともにミガキ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	1mm以下の褐色の粒	
116	B-3-Vc	環G類	浅鉢 口縁(19.6) ノ 脚部		口唇部・内外面ともにミ ガキ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	2mm以下の茶・淡黄・灰白色 の粒 微細な透明光沢粒	外面に黒斑 風化気味
117	C-3-Vb N	環G類	浅鉢 口縁(32.2) ノ 脚部		口唇部はミガキ 外側はミガキ 内面はミガキ、ナデ	黒褐	暗灰黄	1mm以下の黒・乳白色の粒、 透明光沢粒	118と同一個体
118	B-3-Va C-3-Va	環G類	浅鉢 口縁(32.5)		口唇部はミガキ 外側はミガキ 内面はミガキ、横方向の 丁寧なナデ	黒褐 暗灰黄	暗灰黄 暗灰	微細な淡黄色の粒、透明光 沢粒	117と同一個体
119	B-3-Vc	環H類	浅鉢 口縁		口唇部・内外面ともにミ ガキ	淡黄	暗灰黄	2mm以下の灰白・灰褐・乳白 色の粒	外面風化寄り
120	B-4.5 B-5-Va	環H類	浅鉢 口縁(17.0) ノ 底部(8.1) 厚約6.4	外周側部に沈澱	内外面ともにミガキ	暗灰 にぶい黄	暗灰 暗灰	2mm以下の黄褐・灰褐色の粒	外周にスス付着 内面に風化
121	C-3-Va	環H類	浅鉢 脚部	外周側部に沈澱	内外面ともにミガキ	橙 にぶい黄	黑褐	2mm以下の赤褐色 1mm以下の灰白・黑色の粒	外周に赤色り、黒 内面に風化
122	C-3-Va	環H類	浅鉢 底部		内外面ともにミガキ	黑褐 明褐色	黑褐	2mm以下の赤褐色 1mm以下の灰白色の粒、透明 黑色光沢粒	外周に赤色り、黒 内面に風化 風化気味
123	C-3-Va	環I類	浅鉢 口縁		口唇部・内外面ともにミ ガキ	灰黒褐 灰	灰	2mm以下の赤褐・褐色 0.5mm以下の乳白色の粒、透 明光沢粒	
124	F-4-Va	環I類	浅鉢 口縁		口唇部はナデ 外側は横方向のナデ 内面はミガキ	淡黄 灰	黑	4mm以下の明褐色 2mm以下の赤褐・乳白・乳白色 の粒	外面に風化
125	B-3-Va	環I類	浅鉢 口縁		口唇部はナデ 内外面ともにミ ガキ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 暗灰黄	2mm以下の灰白色 1mm以下の陶灰色の粒、透明 光沢粒	外面にスス付着 内面に黒斑
126	F-4-Va	DA類	浅鉢 口縁(28.4)		口唇部はナデ 外側はナデ 内面はミガキ	にぶい黄 灰黒褐	にぶい黄 にぶい黄	5mm以下の灰褐・灰白・黑褐 褐色の粒	外面にスス付着
127	G-2	DA類	浅鉢 口縁		外周は横方向の良質条幅 の後包いナデ 内面はミガキ	黑褐	にぶい黄	5mm以下の褐色 3mm以下の灰白色の粒、透明 光沢粒 1mm以下の黑色光沢粒	外面にスス付着 内面に黒斑、ス ス付着
128	G-3	DA類	浅鉢 口縁		口唇部はミガキ 外周は良質条幅の後、横 方向のナデ、ミガキ 内面はミガキ	明褐色 灰	にぶい黄 灰	3mm以下の乳白・灰白・褐色 の粒	外面にスス付着
129	G-4 B-2-Va	DA類	浅鉢 口縁(25.0) ノ 脚部		内外面ともにミガキ	灰黒褐 明褐色	灰黒褐 明褐色	微細な黑褐・茶褐色の粒、 黑色光沢粒	外面にスス付着 内面に風化
130	C-3-Va	DA類	浅鉢 口縁	外周側部に點付突起	外周は横方向の粗いナデ 内面は横方向の丁寧なナ デ	黑褐	にぶい黄	2.5mm以下の橙・灰 1.5mm以下の灰褐色の粒、黑色、 透明光沢粒	外面にスス付着 内面に黒斑
131	C-3.5 Vb	DA類	浅鉢 口縁(52.8) ノ 脚部		外周は粗いナデ 内面は具致条幅の後横方 向のナデ	暗灰黃	にぶい黄	3mm以下の乳白・褐・黃褐色 の粒	外面にスス付着
132	C-3-Va	DA類	浅鉢 口縁(52.0) ノ 脚部		外周は横方向のナデ、ナデ 指標痕 内面はミガキ	にぶい黄	灰	3mm以下の灰白・淡 褐色の粒	外面にスス付着
133	F-4-Va Vc	DB類	浅鉢 口縁(20.9)		口唇部はナデ 外周は横方向の良質条幅 の後ナデ 内面はミガキ	にぶい黄 黑褐	にぶい黄 灰	微細な淡黄色の粒、透明光 沢粒	外面にスス付着

第9表 土器観察表(8)

遺物 番号	出土地点 ・層	分類	器部 (直徑口徑cm)	文 様	調 整	色 調		胎土の特徴	備 考
						外 面	内 面		
134	P-6-Vc	ⅡB型	浅鉢 口縁	口唇部にヒレ状突起	口唇部はナゲ 外縁は条痕の後ナゲ、被 方側の貝殻条痕 内部は横方向の貝殻条痕	黒褐	にぶい黄褐	5mm以下の褐色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	内外面とともにス ス付着
135	E-4.5 P-5-Vb	ⅡB型	浅鉢 口縁		外縁は横方向のヒレ状突起 による第1ナゲ、指腹底 内部は横方向の貝殻条痕 後のミガキ	黒褐	褐	3mm以下の褐色 2mm以下の褐色の粒、透明、 黑色光沢粒	外面にスス付着 内部にスス付着 風化状態
136	C-3-Vb	ⅡB型	浅鉢 口縁	口唇部にヒレ状突起	口唇部はナゲ 外縁はナゲ、被方側の貝 殻条痕、ミガキ 内部はナゲ	黒褐	にぶい黄	1mmの大茶、茶、灰茶 2~3mmの大茶、黄褐、茶色の粒 黒褐色な透明光沢粒、黑色光沢粒	外雨にスス付着
137	C-3-Vc	ⅡB型	浅鉢 口縁		口唇部はナゲ 外縁はミガキ、貝殻条痕 内部は横方向の貝殻条痕 後のミガキ	黒褐	にぶい褐	1.5mm以下の乳白色の粒、透 明光沢粒 0.5mm以下の乳白色光沢粒	外面にスス付着 内部にスス付着、風化
138	C-3-Vb	ⅡB型	浅鉢 口縁		口唇部はナゲ 外縁は横方向の貝殻条痕、 ナゲ 内部はナゲ、丁寧なナゲ	黒褐	明黃褐 灰褐	1mm以下の灰、茶、灰茶 透明光沢粒 2mmの大茶、灰色の粒	外面にスス付着
139	E-5-Va	ⅡB型	浅鉢 口縁(46.0) 穿孔(火食質)	口唇部にヒレ状突起 穿孔(火食質)	口唇部はミガキ 外縁は粗いナゲ、指腹底 ナゲ 内部は貝殻条痕の後ミガキ	深紫 にぶい黄褐	褐	3mm以下の灰白、灰、黑褐 色の粒 オーリーブ墨	外面にスス付着、風化
140	C-3-Vb	ⅡB型	浅鉢 口縁(40.0) 脇部		口唇部はナゲ 外縁は横方向の貝殻条痕、 ミガキ、ナゲ、指腹底 内部はミガキ	にぶい赤褐 褐	3.5mm以下の暗茶、乳白色の粒、 透明光沢粒	内外面とともにス ス付着、風化状 態	
141	B-3-Vc	ⅢC型	浅鉢 側部		外縁は横方向の貝殻条痕 の後ナゲ、貝殻条痕 内部は、ナゲ	浅黄褐	褐	3mm以下の赤褐、茶、黑色の粒、 黑色光沢粒	外面に風化
142	C-3-Vb	ⅢC型	浅鉢 側部		外縁はナゲ、指腹底 内部は横方向の貝殻条痕 の後ナゲ	浅黄褐	黄褐	3.5mm以下の明褐、茶褐色の 粒 1mm以下の黑色、透明光沢粒	外面に一部風化
143	C-3-Vb E-5-Va	ⅢD型 ⅢE型 ⅢF型	浅鉢 口縁(24.2) 底部付近		口唇部はミガキ 外縁は貝殻条痕の後ミガキ 内部はミガキ	黒褐	灰紫褐 明黄褐	1mm以下の灰白、褐色の粒、 透明光沢粒 3mmの大茶褐色の粒	内外面とともにス ス付着、風化
144	P-6-Vb Vc E-3-Vc	ⅢD型	浅鉢 底部(23.0)		内外面ともにミガキ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mm以下の乳白、黄褐、灰褐	外面とともに風 化
145	C-3-Vb	ⅢD型	浅鉢 底部(10.4)		内外面ともにミガキ	褐 にぶい黄	にぶい黄褐 にぶい赤褐	1.5mm以下の明褐、灰色の粒、 透明、黑色光沢粒	外面に風化
146	E-4.5 P-5-Vb	ⅢE型	浅鉢 脇部		外縁は貝殻条痕の後ナゲ、 ナゲ 内部は貝殻条痕の後ナゲ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の灰褐、灰、褐色 の粒	外面にスス付着
147	C-3-Vb E-3-Vc	ⅢE型	浅鉢 脇部		外縁はナゲ 内部は横方向の貝殻条痕 の後ナゲ 内部は横方向の貝殻条痕 の後ナゲ、丁寧なナゲ	明黄褐 にぶい黄褐	病黄褐 病褐	1.5mm以下の明褐、灰色の粒、 透明光沢粒	
148	B-3-Va	ⅢA型	浅鉢 脇部	外縁に織布压痕	口唇部はナゲ 外縁は横方向の貝殻条痕 の後ナゲ 内部は横方向の貝殻条痕 の後ナゲ、丁寧なナゲ	明黄褐 灰褐 灰褐	灰褐 3mm以下の赤褐 3mm以下の赤褐	4mm以下の暗褐 3mm以下の赤褐 1.5mm以下の褐色の粒	外面に薄いスス 付着
149	C-3-Va B-3-Vc	ⅢA型	浅鉢 脇部	外縁に織布压痕	口唇部はミガキ 外縁は貝殻条痕の後ミガ キ 内部は貝殻条痕の後丁寧 なナゲ	にぶい褐 褐 褐	にぶい褐 病褐 病褐	4mm以下の赤褐、褐色、 1.5mm以下の乳白色的粒	外面にスス付着
150	G-1.2	ⅢA型	浅鉢 口縁(20.0)	外縁に織布压痕	口唇部はナゲ 外縁は横方向のナゲ 内部はミガキ	にぶい黄 オーリーブ墨 灰褐	にぶい黄褐 病褐	1mm以下の乳白、灰白色の粒、 透明光沢粒	外面にスス付着
151	E-4.5 H-3-Vb	ⅢA型	浅鉢 脇部	外縁に織布压痕	口唇部はミガキ 外縁は横方向のナゲ 内部はミガキ	にぶい黄 黒褐	にぶい黄 病褐	5mm以下の褐色、4mm以下の 淡黄色の粒、 黒褐色な透明光沢粒	内外面とともに風 化、スス付着
152	B-3-Va	ⅢA型	浅鉢 脇部	外縁に織布压痕	外縁は横方向の貝殻条痕 の後ナゲ 内部はミガキ	病褐	にぶい褐 病褐	3.5mm以下の褐、深褐、灰色 の粒、1mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着

第10表 土器觀察表(9)

遺物 番号	出 土 地 点 分 類 ・層	器 部 (最大口徑cm)	文 様	調 整	色 調		黏土の特徴	備 考
					外 面	内 面		
153	C-N-V _a	XAB板	洗鉢 口縁	外面に織布圧痕の後、横方向のナデ 内面は丁寧なナデ	口唇部はナデ 外側は貝殻表面の後ナデ	暗灰黒 にぶい黒	2mm以下の黒・白・褐色の粒 透明光沢粒	外面にスス付着 内部に黒度、風化歴、 錆跡孔(2ヶ)
154	C-D-V _a , V _b	XBB板	洗鉢 口縁(45.0) 底部	外面に織布圧痕	外面は横方向のナデ、横 方向の貝殻表面の後ナデ 内面はミガキ、貝殻表面 の後ナデ	にぶい黒 にぶい黒	3mm以下の灰・淡褐色の粒 3mm以下の黒・白・褐色の粒 2mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着 内部に黒度、一 部風化
155	C-D-V _a , V _c	XBB板	洗鉢 口縁(36.4) 底部	外面に織布圧痕	口唇部はナデ 外側は横方向のナデ 内面は丁寧なナデ、横方 向のナデ	にぶい赤褐 にぶい赤褐	2mm以下の白色の粒 1mm以下の白色の粒	外面にスス付着 内部に黒度
156	C-D-V _a , V _b	XBB板	口縁(35.8) 底部	外面に織布圧痕	外側はナデ・端とミガキ 貝殻表面の後ナデ 内面はミガキ	にぶい黒 にぶい黒	1mm以下の乳白色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着 内部に黒度 底くスス付着
157	C-N-V _a	XBB板	洗鉢 口縁(47.4)	外面に織布圧痕	外面は横方向のナデ 内面はミガキ	灰褐 にぶい黒 褐灰	3mm以下の青褐色 2mm以下の黒・白・褐色の粒 1mm以下の褐色・透明光沢粒	外面にスス付着 内部に黒度
158	C-N-V _a	XBB板	洗鉢 口縁	外面に織布圧痕 口縁部押凹	外面はナデの後一部ミガ キ 内面はミガキ	にぶい黒 暗灰 黒褐	3mm以下の灰褐・3mm以下の 灰白・乳白・茶・黑色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着 内部に黒度
159	F-E-V _b	XCB板	洗鉢 口縁	外面に織布圧痕 底部附近	口唇部はナデ 外側は横方向の貝殻表面 の後ナデ 内面は横方向の貝殻表面	明黄 にぶい黒	1mmの大黒・茶・褐色の粒 透明光沢粒	外面にスス付着
160	C-N-V _a	XCB板	洗鉢 底部	外面にモジリ編み圧痕	外側は横方向の貝殻表面 一部貝殻表面の上をナデ 内面はミガキ	にぶい黒 褐灰	5mm以下の明褐色 3mm以下の黒・乳白色の粒	外面にスス付着
161	B-D-V _a	XCB板	洗鉢	外面に織布圧痕	外面は横方向のナデ 内面は横方向のナデ、丁 寧なナデ	暗灰 にぶい黒	3mm以下の乳白・灰褐・茶 色の粒	外面にスス付着
162	F-G-V _a	XCB板	口縁(39.7) 底部	外面に織布圧痕	口唇部はナデ 外側は横方向のナデ 内面はミガキ、指痕痕	暗 明褐 褐灰	3mm以下の黒色・2.5mm以下 の茶褐・灰・褐色の粒	内外面ともにス ス付着
163	F-G-V _b	XDB板	洗鉢 口縁(48.2) 底部	外面に織布圧痕	口唇部、外側ともに横方 向のナデ 内面は貝殻表面の後横方 向のミガキ、指痕痕	にぶい黒 にぶい黒	3mm以下の灰白・淡黄・橙 色の粒、黑色・透明光沢粒	外面にスス付着
164	F-E-V _b	XDB板	洗鉢 口縁(35.3) 底部	外面に織布圧痕	口唇部はミガキ 外側は貝殻表面の後ナデ、 一部ミガキ後ナデ	にぶい黒 黒	1.5mm以下の灰褐・褐・褐 灰色の粒、黑色・透明光沢粒	内外面ともに風 度
165	C-N-V _a	XDB板	洗鉢 口縁(28.8) 底部	外面に織布圧痕	外側は横方向の貝殻表面 の後ナデ、ナデ 内面は貝殻表面の後ミガ キ	にぶい黒 にぶい黒	3mm以下の黄褐・灰白・褐色 の粒	外面にスス付着
166	F-E-V _a	XDB板	洗鉢 底部(46.0)	外面に織布圧痕、一部織目圧痕	外側は貝殻表面 内面はミガキ	明黄 灰褐	4mmの大黒・灰褐・褐色の粒 緻密な透明光沢粒	外面にスス付着 内部に黒度
167	B-D-V _a	XEB板	洗鉢 底部(36.0)	外面に織布圧痕のナデ消し	外面は横方向のナデ 内面はミガキ	にぶい黒 にぶい黒	3mm以下の赤褐・2mm以下の 褐・灰・明褐色の粒	外面にスス付着
168	F-E-V _a	XEB板	洗鉢 底部	外面に織布圧痕	内面はミガキ	にぶい黒 にぶい黒	緻密な凹凸・褐色の粒 透明光沢粒	
169	F-E-V _b	XEB板	洗鉢 底部	外面に織布圧痕	内面はミガキ	明黄 にぶい黒	5.5mm以下の明褐色・1mm以下 の褐色の粒	内部に風度
170	C-N-V _a V _b	XEB板	洗鉢 底部	外面に織布圧痕	内面は丁寧なナデ	にぶい黒 灰褐	1~2mmの大黒・灰・黑色 の粒、微細な透明・黑色光 沢粒	内部に黒度
171	F-G-V _b	XEB板	洗鉢 底部	外面に織目圧痕	内面は丁寧なナデ	にぶい黒 にぶい黒	3mm以下の灰褐・褐・黃褐色 の粒	外面に一部スス 付着

第11表 土器觀察表(10)

遺物番号	出土点 ・層	分類	器部 (後文口底cm)	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
172	CH-V1	XIB層	深鉢 口縁	外縁に網目状模	内外面ともにナデ	にぶい黒	にぶい黒	1mm以下の褐・灰白・黒灰色の粒	
F-E-V1	V1	XIA層	深鉢 口縁(29.0) 底部	口縁部底面に突起	外縁は貝殻条痕の後ナデ 内面は貝殻条痕の後ミガキ、貝殻条痕	黒褐 オリーブ黒 オリーブ青	にぶい黒	2mm以下の褐灰・褐・灰白色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外縁にスス村 層、黒度 内面に黒度
C-D-V1	V1-V2	XIA層	深鉢 口縁(34.8) 底部	口縁部底面に突起	口縁部ナデ 外縁は横方向の貝殻条痕の後ナデ 内面は横方向のナデ、貝殻条痕	黒灰褐 指	にぶい黒	5mm以下の褐色の粒 2mm以下の黒色、透明光沢粒	外縁にスス村層
175	F-E-V1	XIA層	深鉢 口縁	口縁部底面に突起	口縁部はナデ 内外面ともに横方向のナデ	にぶい黒	にぶい黒	3.5mm以下の褐色の粒 1mm以下の白色の粒、透明光沢粒	
176	F-E-V2	XIA層	深鉢 口縁	口縁部底面に突起	内外面ともに横方向のナデ	にぶい黒	にぶい黒	1.5mm以上の乳白色の粒 1mm以下の透明光沢粒	内面は氯化水素
177	F-E-V3	XIA層	深鉢 口縁(34.4)	口縁部底面に突起	内外面ともにナデ	にぶい黒	にぶい黒	4mm以下の褐色・2mm以下の乳白・灰白色の粒	外縁に一部スス 付着
178	F-T-V3	XIA層	深鉢 口縁	口縁部底面に突起	口縁部はミガキ 外縁はミガキ 内面はミガキ、ミガキの後ナデ	にぶい黒	にぶい黒	2mm以下の白色の粒、透明光沢粒	外縁にスス村 層
179	C-D-V1	XIA層	深鉢 口縁	口縁部底面に突起	内外面ともに横方向のナデ、ミガキ	にぶい黒	にぶい黒	2mm以下の黄・褐・褐褐色の粒、 透明光沢粒	外縁に黒度
180	CH-I-V1	XIB層	深鉢 口縁(44.2) 底部	口縁部底面に突起	口縁部ナデ 外縁は工具によるナデ、 内面は工具によるナデ、貝殻条痕の後ナデ	黒灰 にぶい黒	にぶい黒	3mm以下の乳白色の粒 1mmの透明光沢粒	外縁にスス村 層、内面に黒度 補修孔
181	H-T-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	内外面ともにナデ	灰黄	暗黒灰	3mm以下の褐・灰褐・灰白・ 黃褐色の粒	外縁に部分的に スス付着
182	CH-L-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	外縁はナデ 内面は横方向の貝殻条痕 の後ナデ	にぶい黒	にぶい黒	2mm以下の灰褐・灰白色の粒	
183	CH-I-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	外縁はナデ 内面は「草なな」ナデ、ナデ	にぶい黒	にぶい黒	3mm以下の茶褐・灰白・黒 褐色の粒	外縁にスス村 層
184	CH-I-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	外縁は貝殻条痕の後ナデ、 ナデ 内面は貝殻条痕の後ナデ、 ナデ	にぶい黒 黒褐	にぶい黒 黒褐	3~6mmの灰白色の粒 2mm以下の茶・灰・灰白色の粒 3mm以下の褐色、透明光沢粒	外縁に一部スス 付着、温度 内面に黒度
185	CH-I-V1	XIB層	深鉢 口縁(37.4)	口縁部下位に突起	外縁はナデ 内面は横方向の貝殻条痕 の後ナデ	にぶい黒	にぶい黒	3mm以下の黒褐・褐・黃褐・ 灰白色の粒、透明光沢粒	
186	D-T-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起 口縁部ヒレ状突起	口縁部はナデ 内外面ともにナデ	にぶい黒	にぶい黒	3mm以下の褐・3mm以下の赤褐・ 褐・2mm以下の灰・1mm 以下の黒色の粒	外縁に黒度 内面に黒度
187	H-S-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	口縁部ナデ 外縁は横方向のナデ 内面は横方向のナデ、指 彫刻	黒褐 暗黒灰	暗黒灰	3mm以下の淡褐色の粒 1.5mm以下の透明光沢粒	外縁にスス村 層
188	H-S-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	外縁はナデ、表面凹 内面はミガキ、 彫刻	暗黒灰	にぶい黒	2mm以下の黄褐・灰白・黑色 の粒、透明光沢粒	外縁にスス村 層
189	H-S-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	外縁はナデ 内面はナデ、指彫刻	にぶい黒	暗黒灰	1.5mm以下の灰白・褐・黑色 の粒、透明光沢粒	外縁にスス村 層
190	CH-V1	XIB層	深鉢 口縁	口縁部下位に突起	口縁部はナデ 外縁はナデ、指彫刻	にぶい黒 暗黒灰	にぶい黒 暗黒灰	4mm以下の茶・乳白・黑色の 粒、1mm以下の透明光沢粒 内面は黒度	外縁にスス村 層

第12表 土器觀察表(11)

遺物 番号	出 土 地 点 分 類	器 部 (底径cm)	文 様	調 整	色 調		胎土の特徴	備 考
					外 面	内 面		
191 D-3-V1 C-3-V3	W-B 原鉢	洗林 口縁	口縁面下位に突起	口唇部はナデ 内外面ともにナデ、指痕 にぶい黄緑			3mm以下の茶・黄緑・灰白の 粒 にぶい黄緑	外面に一部黒度 微細な透明光沢粒
192 F-4-V1 V1	W-B 原鉢	口縁 口縁 底部(19.2) 底部	孔列文(未貫通)	外縁は横方向のナデ、ナ デ 内面はナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	1.5mm以下の墨・白色・1mm 以下の乳白色の粒 微細な透明光沢粒	外面にスス付着 内面に黒度
193 F-4-V3	X-B 原鉢	口縁	孔列文(未貫通)	内外面ともに横方向のナ デ	黒褐	灰黄褐	3mm以下の乳白色・2.5mm以 下の褐色の粒、透明光沢粒	外面にスス付着 内面に黒度
194 G-2	X-B 原鉢	口縁 11.5	孔列文(未貫通)	内外面ともに横方向のナ デ	にぶい黄緑	褐	0mm以下の褐色の粒 2mm以下の透明光沢粒 1mm以下の乳白色の粒、黑色 光沢粒	内面にスス付着 内面に黒度
195 C-3-V3	X-B 原鉢	口縁	孔列文(貫通)	外縁は横方向の貫通条紋 内面はナデ	明赤褐	明赤褐	2mm以下の乳白色の粒、透明 光沢粒 1mm以下の黒色の粒	内面に黒度、風 化色 外面上にスス付着
196 B-3-V3	X-B 原鉢 脚部 底部(13.8)			内外面ともにナデ、指痕 有 底部はナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑 灰黄	6mm以下の茶褐・黄褐・灰白 色の粒	
197 L-3-V3	X-B 原鉢	底部(8.4)		外縁は貝殻条痕の後ナデ 内面はナデ、指痕有 底部はナデ	にぶい赤褐	黑褐	2mm以下の灰白・乳白・褐色 の粒	
198 L-3-V3	X-B 原鉢	底部(10.2)		外縁は貝殻条痕の後ナデ 内面・底部ともにナデ	にぶい赤褐 にぶい黄褐	褐灰	2mm以下の黄褐・白色の粒 透明・金色光沢粒	
199 C-3-V3	X-B 原鉢	底部(10.4)		外縁はナデ、貝殻条痕 内面はナデ 底部はナデ	にぶい黄 灰黃	褐灰 にぶい黄緑	3mm以下の茶褐・褐褐・灰白・ 黄灰色の粒、黑色光沢粒	
200 B-3-V3	X-B 原鉢	底部	底部にアジロ編み压痕	外縁はナデ、指痕有 内面・横方向のナデ、ナ デ	にぶい褐	褐灰 にぶい黄	5.5mmの黄褐・1mm以下の 褐黄・灰白色の粒 透明光沢粒	
201 D-3-V3 V3	X-B 原鉢	脚部 底部(11.9)		内・外側ともに貝殻条痕 の後ナデ、ナデ、指痕有 底部はナデ	にぶい褐 にぶい褐 にぶい黄	にぶい褐 にぶい黄	2mm以下の墨・褐黄・乳白・ 茶褐色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外面に黒度 内面に一部黒度
202 L-3-V3	X-B 原鉢	底部(10.6)		外縁はナデ、指痕有 内面・底面ともにナデ	にぶい黄	灰黄 灰黄	3mm以下下の白・墨・茶色の粒 微細な透明光沢粒	
203 F-6-V3	X-B 原鉢	底部(6.6)		内・外側・底部とともにナ デ	にぶい黄緑	褐黄	1mm以下の黄褐・灰褐・褐色 の粒	
204 L-3-V3	X-B 原鉢	底部(10.0)		内・外側・底部とともにナ デ	浅黄	浅黄	4.5mm以下の茶・墨・2.5mm 以下の乳白色の粒 1mm以下の透明光沢粒	外面・底部にス ス付着
205 B-3-V3	X-C 原鉢	底部(10.4)		内・外側・底部とともにナ デ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2mm以下の茶・墨・乳白色の 粒 1mm以下の透明光沢粒	
206 E-6-V3	X-C 原鉢	底部(10.4)		外縁は横方向のナデ 内面・底面ともにナデ	浅黄 明灰黄	浅黄 にぶい黄緑	3mm以下の墨褐・2mm以 下の乳白色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
207 L-3-V3	X-C 原鉢	底部11.7		内・外側・底部ともにナ デ	にぶい黄	褐黄	4.5mm以下の褐・灰・黑色の 粒 2mm以下の透明光沢粒	外面にスス付着 底部に黒度
208 D-3-V3 V3	X-B 原鉢	脚部 底部2.2		外縁は貝殻条痕の後ナデ、 指痕有 内面は横方向の貝殻条痕、 ナデ、底部はナデ	にぶい黄	灰黄 褐	2mm以下の茶褐・灰白・灰褐 色の粒、黑色光沢粒	内面に黒度
209 C-3-V3	X-B 原鉢	底部(8.5)		外縁は貝殻条痕の後ナデ、 ナデ 内面・底面ともにナデ	にぶい黄	にぶい黄	3mm以下の茶褐・乳白・黑色 の粒 微細な透明光沢粒	内面に一部黒度

第13表 土器観察表(12)

遺物番号	出土地点・層	分類	器部 (直径mm)	文様	調査	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
210	E-4	NEO層	深鉢 底部(8.8)		外側は工具によるナデ、 ナゲ 内面・底部ともにナゲ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	4mm以下の茶・黄・淡黄色の 粒	内面にスス付着
211	E-5-Va	NEO層	深鉢 底部8.6		外側は貝殻多段の後ナデ、 表面粗 内面・底部ともにナゲ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	3mm以下の灰白・灰・黒褐・ 赤褐色の粒、黑色・透明光沢 粒	
212	E-5-Vb	NEO層	深鉢 底部(9.5)		外側は貝殻多段の後ナデ、 貝殻多段の後模方向にナ デ消し 内面は工具によるナデ 底部はナゲ	にぶい黄 黄灰	にぶい黄 黄灰	3mm以下の黒・白・淡黄色の 粒 1mm以下の透明光沢粒	
213	C-3-Vb	NEO層	深鉢 底部5.4		外側はミガキ 内面・底部ともにナゲ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	3mm以下の明褐色・2mm以下 の灰褐色の粒、黑色光沢粒	外側は黒化なし い
214	D-5-Va	NEO層	深鉢 底部(4.0)		内・外面・底部ともにナ デ	にぶい黄 灰灰	にぶい黄 灰灰	4.5mm以下の暗褐色・3mm以 下の灰色の粒 1.5mm以下の黑色光沢粒	
215	D-5-Va	NEO層	深鉢 底部(5.4)		外側は丁寧なナデ、ナゲ 内面・底部はナゲ	にぶい黄 灰灰	にぶい黄 灰灰	3~4mmの茶色・2mm以下の茶・ 灰白・褐色の粒、透明・黑 色光沢粒	外側に黒度 内面に炭化物
216	D-3-Vc	NEP層	浅鉢 底部8.3		内・外面・底部ともにナ デ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	1mm以下の乳白・青・淡黄色 の粒	内面にスス付着
217	C-3-Va	NEP層	深鉢 底部(7.7)		内・外面・底部ともにナ デ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	4mm以下の茶褐・淡黄・褐色 の粒	
218	F-6-Va	NEP層	深鉢 底部(7.2)		内・外面ともにミガキ 底部はナゲ	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	2mm以下の褐・墨褐・黄灰・ 灰褐色の粒	
219	F-6-Vb		円盤 3.95		外側は貝殻多段の後ナデ 内面は貝殻多段	にぶい黄 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	3mm以下の赤褐・褐・灰色の 粒	
220	F-6-Vb		円盤 3.70		外側は丁寧なナデ 内面はナゲ	褐 にぶい黄	にぶい黄 にぶい黄	3mm以下の墨褐色・2mm以下 の茶・灰色の粒 黒褐色透明光沢粒	
221	D-3-Vc		円盤 3.70		外側は丁寧なナデ 内面はナゲ	明黄褐 灰黄褐	灰黄褐 灰黄褐	2.5mm以下の褐色・1mm以下 の明褐・黑色の粒	
222	F-6-Vc		円盤 3.00		外側は丁寧なナデ 内面はナゲ	にぶい黄 灰灰	にぶい黄 灰灰	3mm以下の褐・赤褐色・1mm 以下の黒・灰色の粒、透明 光沢粒	

第14表 土器觀察表(13)

遺物 番号	種 別	器 種 ・ 部 位	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備 考
				口径	底径	器高	外 面	外 面	外 面	内 面		
223	環 口縁	G-1					ナデ ヨコハケの後ナデ 工具ナデ	ヨコハケ 工具ナデ	橙 明褐色	淡黃褐色	4.5mm以下の赤褐色・1.5mm 以下の中・褐色の粒	内面は風化斑跡
224	環 口縁	E-5-Va (22.1)					工具ナデ ヨコハケの後ナデ 指標痕	ヨコナデ ケズリ、指標痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	7mmのぶい褐色・5mm以下の にぶい褐・黒・灰褐色 の粒、黒色・透明光沢粒	
225	環 口縁	Va					ナデ ヨコハケの後ナデ ナデ、指標痕	ヨコナデ ナデ、指標痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3.5mm以下の赤褐色・褐色・橙 灰白色の粒、透明光沢粒	外面にスス付着
226	環 肩部	Va					ヨコハケ	ケズリ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の赤褐色・2mm以下 の茶・赤褐色・黑色の粒 1mm以下の透明光沢粒	
227	环 口縁	-					四軒ナデの後ナデ	四軒ナデ	橙	橙	1mm以下の明褐色の粒	内外面とともにス ス付着
228	环 口縁	C.3-3-Va					ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mm以下の赤褐色・黑色の粒	
229	环 底部	E-5-Va (7.4)					ナデ	ナデ	橙	橙	3mm以下の灰色・1.5mm以下 の乳白色の粒、0.5mm以下の 黑色光沢粒	
230	環 肩部	E-3-Vc					格子目タタキ	平行タタキ状凸 凹 指標痕	灰 灰褐色	灰褐色	1mm以下の灰褐色・褐色の粒	内面に風化

第15表 石器計測表(1)

番号	出土地点	器種	分類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
231	B-3-IX	石鏟		1.65	0.95	0.35	6.3	黒曜石	
232	E-F4-Vc	石鏟		1.73	1.42	0.32	6.7	チャート	
233	C-D-2.3	石鏟		1.75	1.45	0.42	6.6	黒曜石	
234	B-3-Va	石鏟		1.70	1.60	0.33	6.7	輝石安山岩	
235	C-3-Va	石錐		2.70	1.90	1.05	4.0	チャート	
236	B-3-Vc	石匙		3.55	3.00	0.65	6.1	黒曜石	
237	VII	スクレイバー		4.30	3.60	1.40	23.6	砂岩	
238	C,D-2-Vb	スクレイバー		8.20	4.95	1.50	47.9	チャート	
239	Vc	スクレイバー		6.50	7.95	1.50	121.4	頁岩	
240	D-3-VI	二次加工刷片		5.25	3.90	0.80	17.3	チャート	
241	E-4.5 F-5-Vb	二次加工刷片		1.15	2.05	0.55	6.7	チャート	
242	SC15	使用痕剥片		3.45	1.50	0.55	2.5	チャート	
243	E-4.5 F-5-Vb	使用痕剥片		2.80	1.70	0.60	1.9	輝石安山岩	
244	F-6-Vb	使用痕剥片		2.10	2.05	0.60	1.8	輝石安山岩	
245	B-3	石核		1.50	1.80	1.45	3.6	黒曜石	
246	S45	打製石斧		8.30	4.70	1.50	59.1	砂岩	
247	E-6-Va	打製石斧		11.60	5.35	1.60	162.0	砂岩	
248	F-7-Vc	打製石斧		8.05	3.75	1.00	36.5	砂岩	
249	F-6-Vc	打製石斧		5.80	3.10	1.25	20.5	砂岩	
250	Va	打製石斧		12.50	6.35	2.05	148.0	砂岩	
251	E-4.5 F-5-Vb	打製石斧		11.30	7.30	1.60	142.0	砂岩	
252	E-4.5 F-5-Vb	磨製石斧		(8.20)	4.90	2.10	133.0	砂岩	
253	C,D-3-Vb	磨製石斧		5.50	4.50	2.00	82.0	シルト岩	
254	E-4.5 F-5-Vb	磨製石斧		8.20	3.60	0.90	43.3	砂岩	
255	A-2-Vb	磨製石斧		(5.40)	4.70	2.55	80.7	砂岩	
256	F-6-Vc	磨製石劍		(14.05)	2.70	0.65	32.6	砂質シルト岩	
257	E-4.5 F-5-Vb	敲石		5.30	5.35	4.20	155.0	砂岩ノジュル	
258	C,D-3-Va	磨石	A	5.50	6.60	2.60	139.0	砂岩	
259	C,D-2-Vc	磨石	A	10.20	11.10	5.15	960.0	砂岩	
260	E-5-Va	磨石	A	12.90	11.30	4.20	930.0	砂岩	
261	E-4.5 F-5-Vb	磨石	B	10.90	9.50	4.15	764.0	凝灰岩	
262	B-3-Vc	磨石	B	(6.00)	(7.90)	5.25	348.0	凝灰岩	
263		磨石	C	9.50	10.30	6.40	870.0	砂岩	
264	F-6-Vb	砥石		13.05	11.50	3.90	895.0	砂岩	
265	C,D-3-Vb	砥石		10.80	6.30	2.30	275.0	砂岩	
266	E-4.5 F-5-Vb	砥石		(26.35)	10.75	5.85	1740.0	砂岩	
267	S41	舌石		30.60	30.70	15.20	14000.0	砂岩	
268	B-3-Va	軸石		(7.90)	4.90	2.10	13.6		

第IV章　まとめ

王子原遺跡では竪穴住居跡5軒、竪穴状遺構4基、集石遺構1基、溝状遺構1条、土坑19基、掘立柱建物跡1棟が確認された。また、遺物は土器では繩文後期～晚期を中心に前期、中期の土器や古代の土器のほか土製円盤が出土している。石器では石鎚、石錐、石匙、スクレイバー、剥片石器、石斧、石剣、敲石、磨石、砥石、台石、軽石製品などが出土しており、多様な生業の痕跡が窺える。本遺跡周辺では発掘調査例が少ないながらも繩文早期や後期、晚期の遺跡が確認されており、当地域一帯が繩文時代後期～晚期を中心に繩文時代の長きにわたる生活の場として利用されていたものと思われる。以下、今回の調査の成果を総括してみたい。

竪穴住居跡は5軒全てをVI層上面で検出した。平面形は隅丸方形あるいは不整形形を呈し、主柱穴は円形配置のもの（SA1～3）と床面中央寄りに2本配置するもの（SA5）がある。SA1～3についてはSA3→2→1の順に新しくなる切り合い関係を確認したが、共伴遺物から時期が特定できるものはSA2のみである。SA2床面上出土の5は阿高Ⅲ式土器の影響を受けた中期末～後期前葉の土器と思われる。本遺構の特徴として、平面プランが方形であるのに対し主柱穴配置が楕円形を呈するという形態上の特異性があげられる。SA1は平面プランが隅丸方形を呈し、主柱穴配置も正円形に近くSA2よりもより円形を意識した住居といえる。丸野第2遺跡（田野町）では指宿式土器から市来式土器の段階にかけて住居の平面プランが方形から円形へと推移することが確認されており、本遺跡のSA2は円形への過渡期的な遺構と想定できる。長方形を呈するSA4出土の6は岩崎上層式土器の口縁部と思われるが、床面から浮いた状態で出土しており遺構の明確な時期決定の手がかりとはなり得ない。竪穴状遺構については、SZ1以外は擾乱が著しく及び遺構の形状を明確にできなかったが、残存部の形態及び規模から竪穴住居である可能性も考えられる。遺物を伴うものはSZ1のみで、床面直上から阿高Ⅲ式土器が出土している。溝状遺構は、両肩に柱穴が対をなすように並ぶという特殊なものである。溝状遺構に柱穴が付随する遺構は都城盆地の遺跡では数多くみられる。前畠遺跡では硬化面を伴う溝状遺構内から7対のピットを検出しており、門状遺構を想定している。並木添遺跡では硬化面を伴う道路状遺構を検出しており、国府間をつなぐ官道の可能性を示唆している。ピット状遺構や楕円形の堀込みを伴う溝状遺構（道路状遺構）を検出した遺跡はそのほか、大岩田村ノ前遺跡、大岩田上村遺跡、天神原遺跡、取添遺跡、松原地区第II遺跡、大島畠島遺跡、嫁坂遺跡などがあり、域外では小林市の水落遺跡、えびの市の前畠遺跡、六部市遺跡、宮崎市の熊野原C地区遺跡などがあげられる。ただし、これらの遺構はほとんどが中世に比定されており、ピット状遺構や楕円形の堀込みを溝状遺構の内部にもつ点や硬化面がみられることなど、本遺跡検出のものとは性格が異なるものである。性格を特定するには他の遺構との位置関係や地形などを総合的に判断する必要があるが、今回は遺構の一部しか検出できず判断材料に乏しい。類例の増加を待ちたい。集石遺構は深い堀込みと底石をもつ形態のもので、八木澤一郎氏の分類による集石4類にあたる。ほとんど全ての礫が著しく赤化しており、使用頻度の高さが窺える。遺構内出土土器から晚期に比定できる。類似した配石状況は天神河内第1遺跡（田野町）でみられるが、堀込みが本遺跡のものほど深くはない。

繩文土器は13類に分類した。赤ホヤ火山灰直上から出土した1類は、繩文時代前期前半の壽B式土器

である。隆蒂の形状、器面調整によりA、Bの2類に細分したが、層位的な違いは認められず時期差によるものか否かの判別は困難である。ただし、低く細い隆蒂文をもつものを新しい様相とする柴畠光博氏の指摘があり、B類がA類に後出する可能性がある。II類は沈線内刺突文という施文手法が東和幸氏のいう前谷段階の春日式土器（中期後半）に共通するが、施文部位に相違がみられる。50の押引文や51にみられる沈線内刺突の中断などは沈線内刺突文の省略化とみることもできる。本遺跡のII類土器は御池降下軽石の上位からの出土であり、前谷段階より新しく位置づけられている南宮島段階の春日式土器が御池降下軽石の下から出土していることを併せて考えると、本類は春日式土器の影響を受けて成立した可能性がある。III類は器形が若干異なるものの口縁部に文様帶を設け沈線で複雑な文様を施文する点は大平式土器の範疇で捉えることができよう。大平式土器は下弓田遺跡（串間市）、尾立遺跡（綾町）、上田代遺跡（えびの市）、梅木原遺跡（小林市）など数十例が報告されているのみで細かな縦年の位置づけについては明確にされていないが、火山起源降下物との層位関係から中末期前後の時期に比定されている。IV類は阿高III式土器で、文様の直線化および口唇部器面調整の簡略化からA類からB類への型式変化が考えられる。B類の56は凹線が沈線化しており、文様構成からも岩崎上層式土器の範疇で捉えられるかもしれない。口縁部形態は異なるが類似する文様が宮之迫遺跡（鹿児島県）で報告されている。V類は資料が断片的で位置づけを明確にすることは困難であるが、貝殻腹縁による沈線間刺突という施文手法は岩崎上層式土器にみられる。尾立遺跡（綾町）、門川南町遺跡（門川町）、中原遺跡（鹿児島県）などで出土している。VI類は後期後葉～晚期前葉に位置づけられている中岳II式土器で、層位からA-1類が他に先行するものと思われる。VII類は断片的な資料が多いが、個体数が比較的豊富であるため一部は型式変化の分析が可能である。以下、分類ごとに記述すると、D類は口縁端部の屈曲が不明瞭となる傾向が窺える。F類は口縁部が長く沈線を巡らす1類から口縁部が短く沈線が消滅する2類へと変化するようである。G-2類、G-3類もF類と同様に口縁部の短形化、沈線の不明瞭化がみられる。X類の編目圧痕は時期が新しくなるほど縫糸が細く目が密になり、経糸の間隔も密になる傾向が窺える。網目圧痕については個体数が少なく分析を行うには至らなかった。

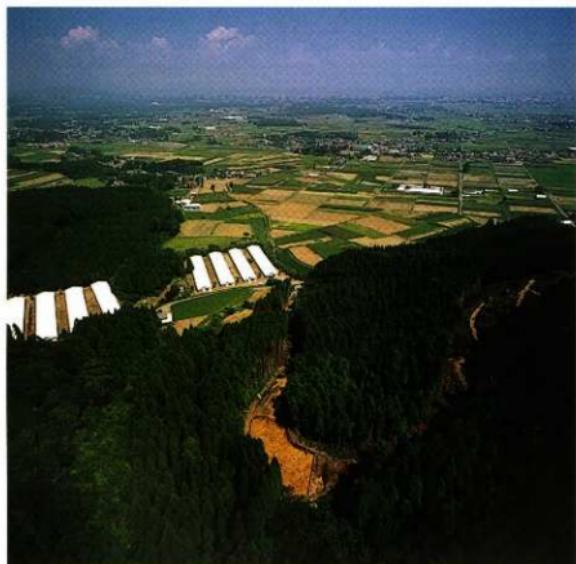
土器片加工品については円盤が4点出土した。器壁の薄い土器を利用しているものは径が大きく、器壁の厚いものについては径を小さく整形しており、重量が均一であることは円盤の使用法を考える上で注目される。また、器壁の薄いものは研磨のみにより整形されており、類例が右葛ヶ迫遺跡でも確認されている。打ち欠き整形による破損を防ぐためであろうか。

古代の土器は土師器の壺、坏及び須恵器の壺が計8点出土した。坏は端部が張り出す円盤高台の形態から9世紀～10世紀を前後する時期のものと思われる。

参考・引用文献（敬称略）

- 「丸野第2遺跡」「田野町文化財調査報告書」第11集 田野町教育委員会 1990
前追亮一「繩文時代の竪穴住居」「南九州繩文通信」No5 南九州繩文研究会 1991
「前畠遺跡」「都城市文化財調査報告書」第34集 都城市教育委員会 1996
「並木添遺跡」「都城市文化財調査報告書」第24集 都城市教育委員会 1993
「大岩田村ノ前遺跡発掘調査報告書」「都城市文化財調査報告書」第14集 都城市教育委員会 1991

- 「天神原遺跡」『都城市文化財調査報告書』第23集 都城市教育委員会 1993
- 「都之城取添遺跡発掘調査概要報告書」『都城市文化財調査報告書』第15集 都城市教育委員会 1991
- 「松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡」『都城市文化財調査報告書』第7集 都城市教育委員会 1989
- 「水落遺跡」『小林市文化財調査報告書』第5集 小林市教育委員会 1992
- 「前畠遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告(3)』 宮崎県教育委員会 1980
- 「原田・上江遺跡群 六部市遺跡」『えびの市文化財調査報告書』第9集 えびの市教育委員会 1991
- 「熊野原遺跡C地区」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 宮崎県教育委員会 1985
- 八木澤一郎「南九州の集石遺構」『南九州 繩文通信』No.8 南九州縩文研究会 1994
- 桑畑光博「宮崎県内出土の轟B式土器」『宮崎考古第14号』 宮崎考古学会 1995
- 東和幸「九州地方 中期(春日式)」「縩文時代10」 縩文時代文化研究会 1999
- 「下弓田遺物包含地」『宮崎県文化財調査報告書』第二輯 宮崎県教育委員会 1957
- 「田代地区遺跡群」『えびの市埋蔵文化財調査報告書』第20集 えびの市教育委員会 1997
- 「梅木原遺跡発掘調査報告書」『小林市文化財調査報告書』第22集 小林市教育委員会 2000
- 東和幸「春日式土器と並木式土器・阿高式土器」『南九州縩文通信』No.8 南九州縩文研究会 1994
- 「宮之迫遺跡」『末吉町文化財調査報告書』2 末吉町教育委員会 1981
- 「中原遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書』(9) 志布志町教育委員会 1985
- 「門川南町遺跡」 宮崎県教育委員会 1996
- 「右葛ヶ迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第21集 宮崎県埋蔵文化財センター
2000
- 岡本武憲「日向における古代末の土器」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会 1991



王子原遺跡遠景



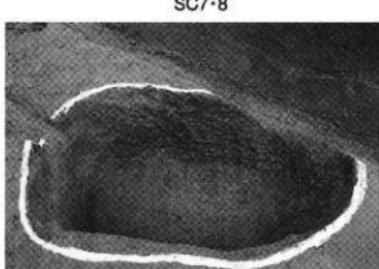
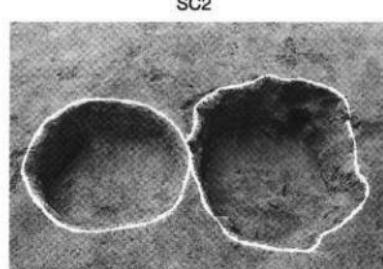
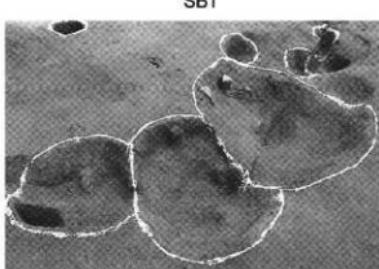
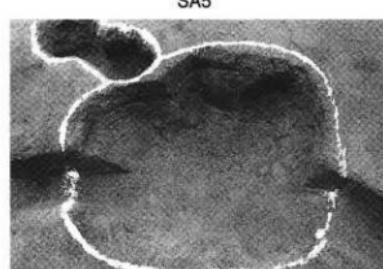
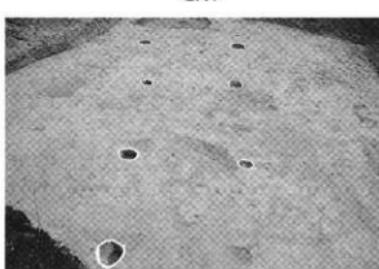
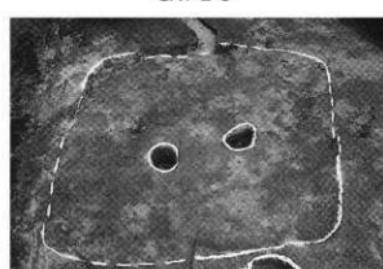
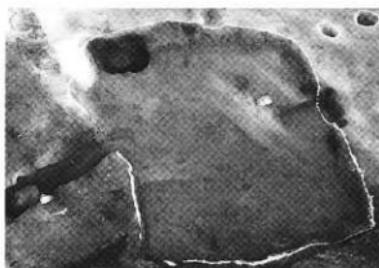
全 景（北部）

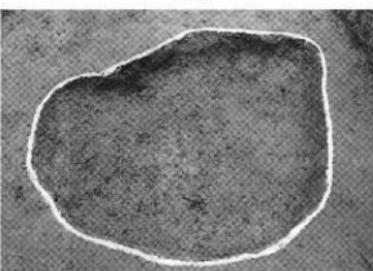
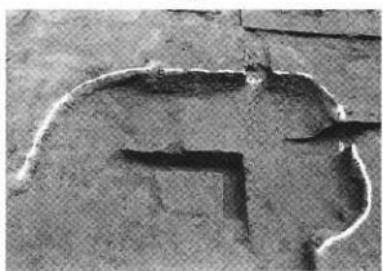
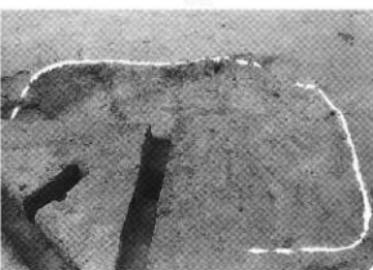
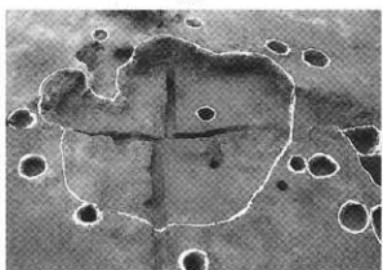
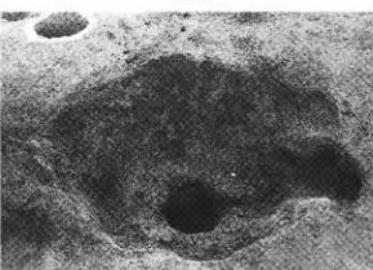
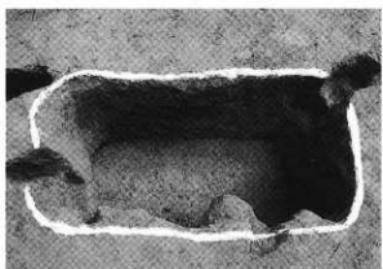


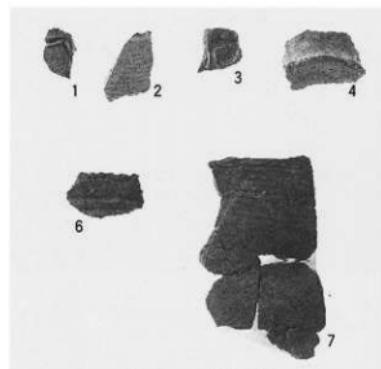
全 景（南部）



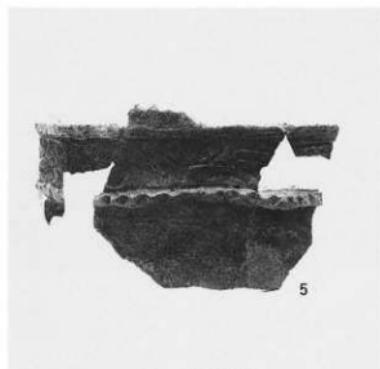
土 層



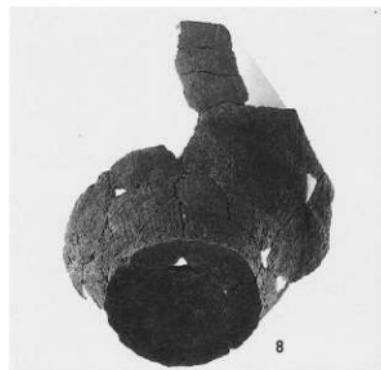




SA1·2·4 出土土器



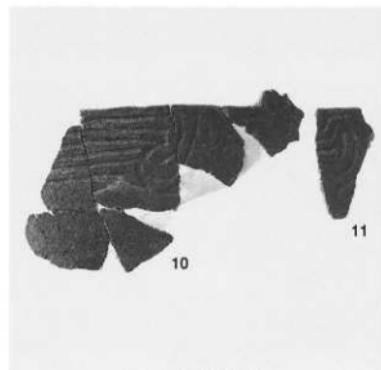
SA2 出土土器



SA4 出土土器 (1)



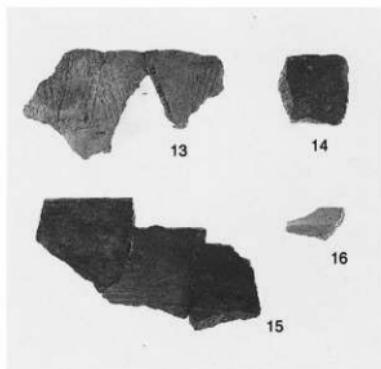
SA4 出土土器 (2)



SZ1 出土土器 (1)



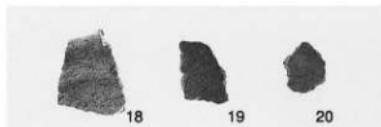
SZ1 出土土器 (2)



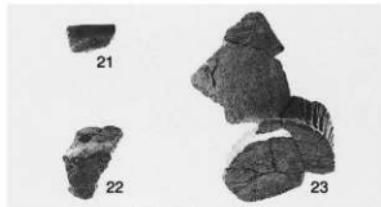
SZ1 出土土器 (3)



SZ1 出土土器 (4)



SI1・SE1 出土土器



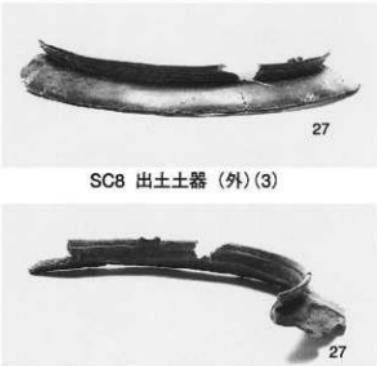
SC7 出土土器



SC8 出土土器 (1)



SC8 出土土器 (2)

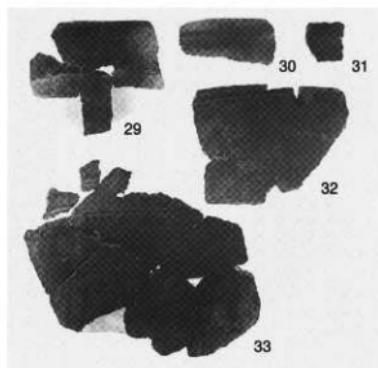


SC8 出土土器 (外) (3)

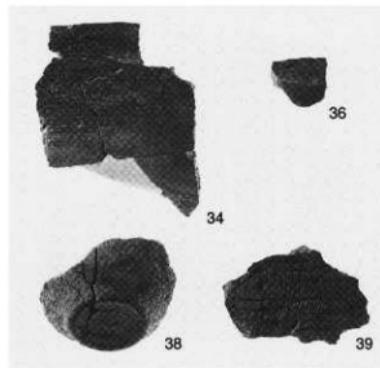
SC8 出土土器 (内) (3)



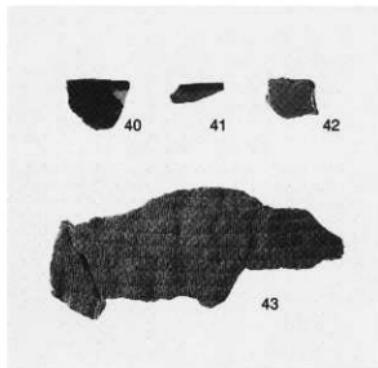
SC9 出土土器



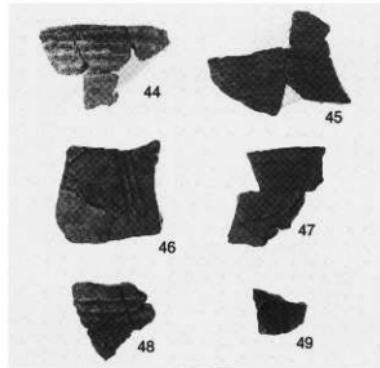
SC13·14 出土土器



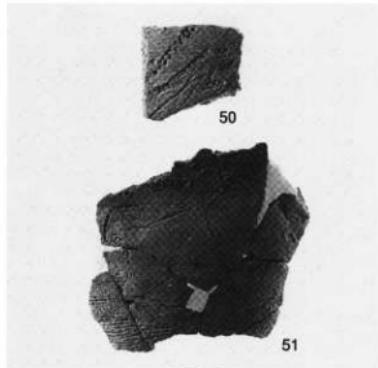
SC15 出土土器



SC16·17 出土土器



I 類土器



II 類土器



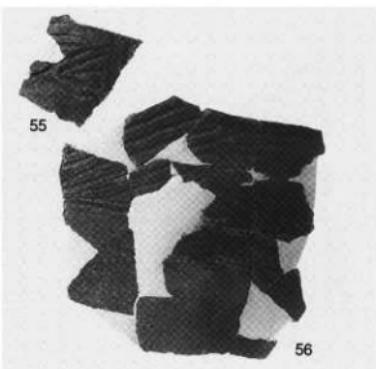
III類土器 (1)



III類土器 (2)



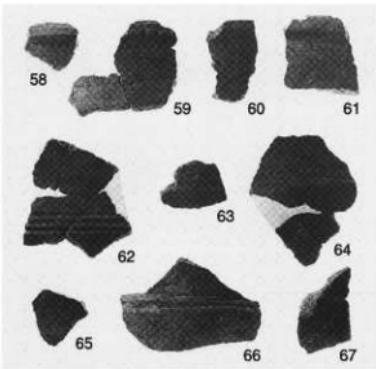
IV/A類土器



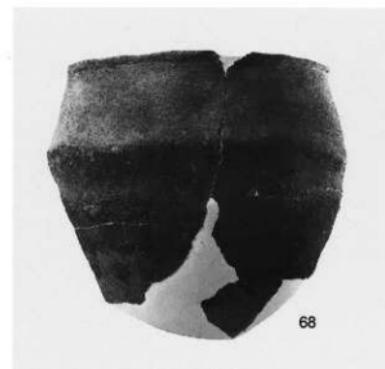
IV/B類土器



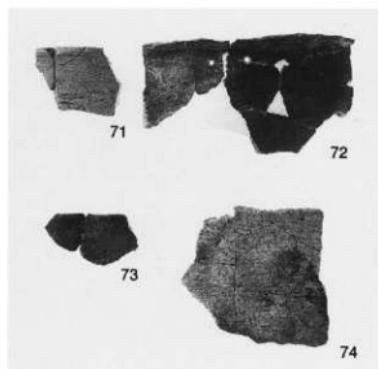
V類土器



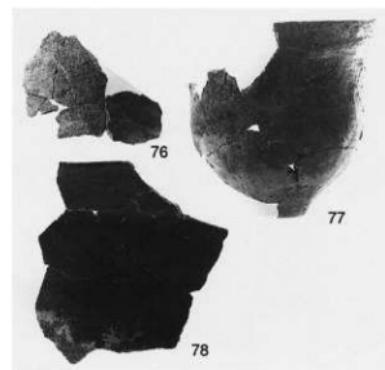
VI類土器



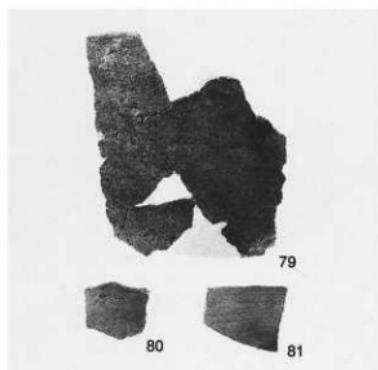
VIIA類土器



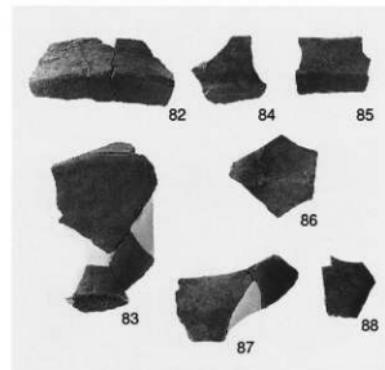
VIB類土器



VIC類土器



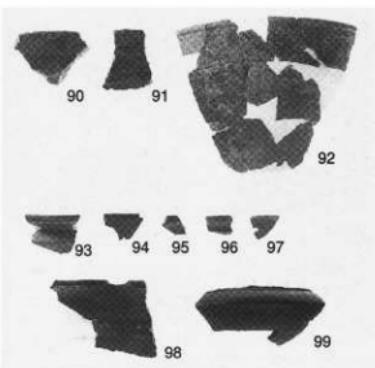
VID類土器



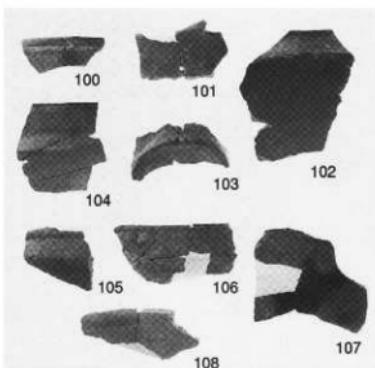
VIIA・B類土器



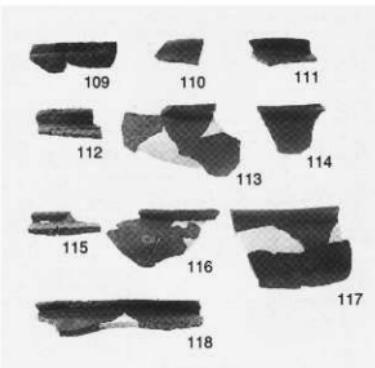
VIII C類土器



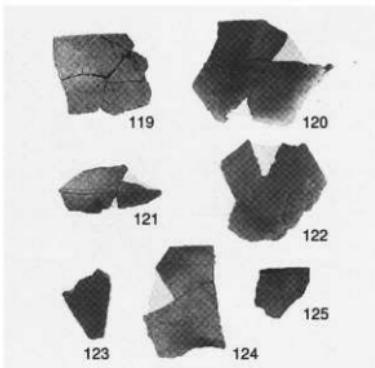
VIII C・D類土器



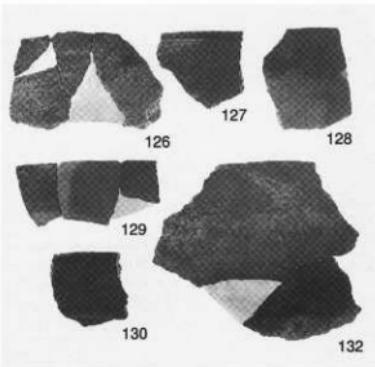
VIII E・F類土器



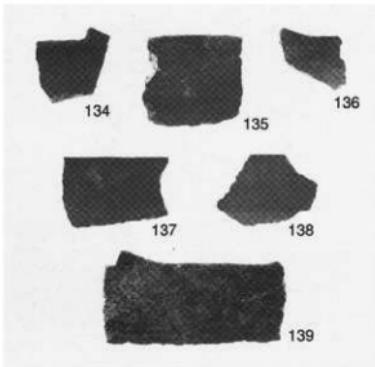
VIII G類土器



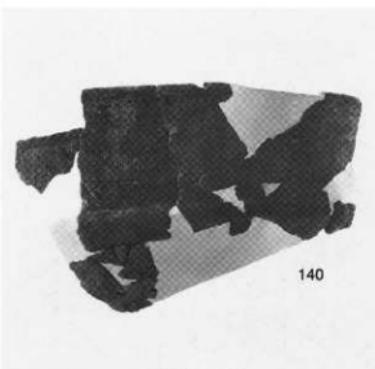
VIII H・I類土器



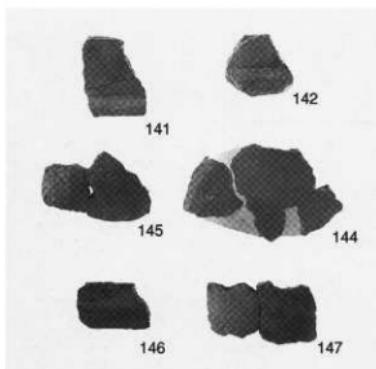
IX A類土器



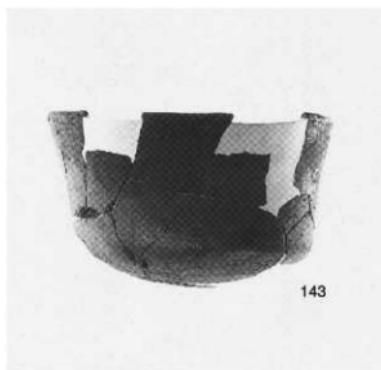
IX B類土器 (1)



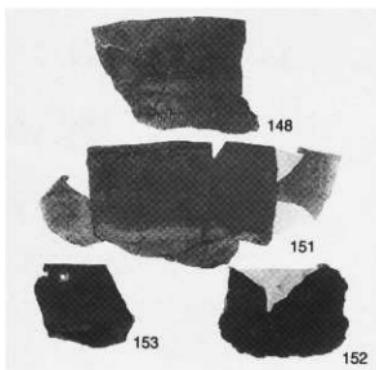
XKB類土器 (2)



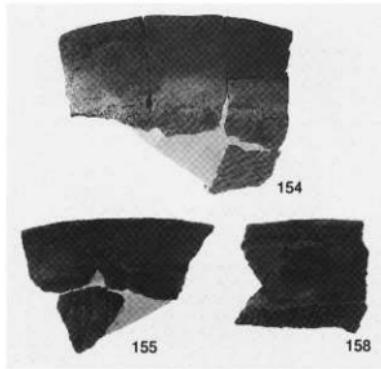
XC·D·E類土器



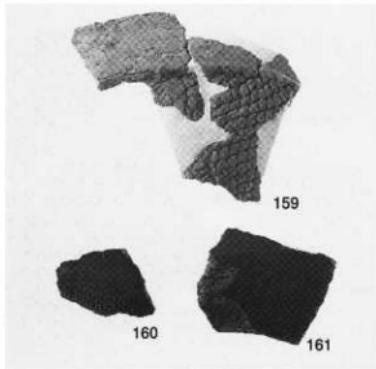
XD類土器



XA類土器



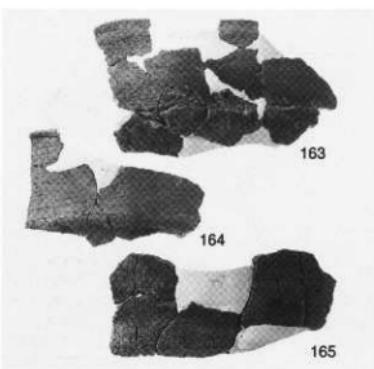
XB類土器



XC類土器 (1)



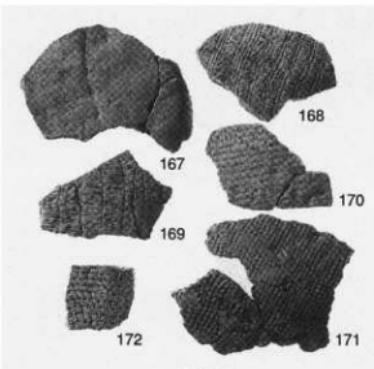
XC類土器 (2)



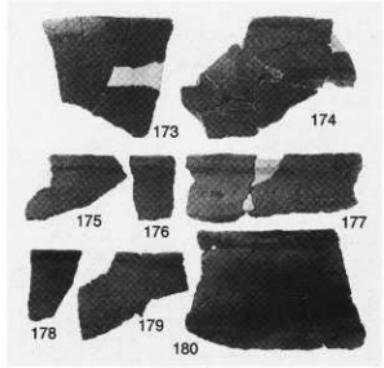
XD類土器 (1)



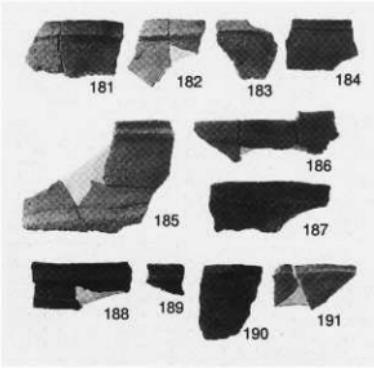
XD類土器 (2)



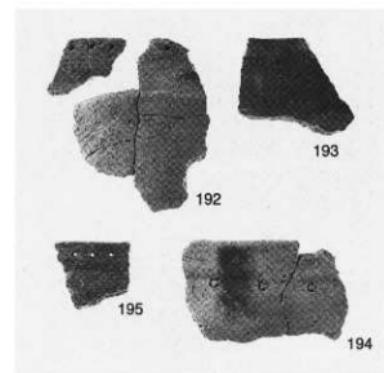
XE類土器



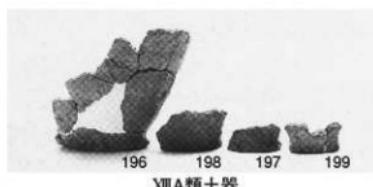
XI類土器



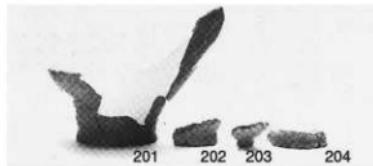
XIB類土器



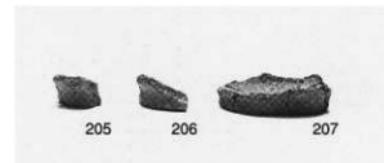
XII類土器



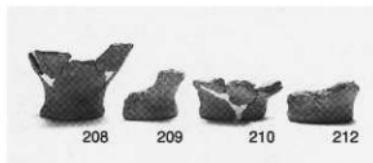
XIII A類土器



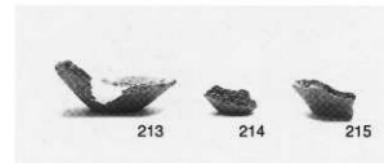
XIII B類土器



XIII C類土器



XIII D類土器 (1)



XIII E類土器



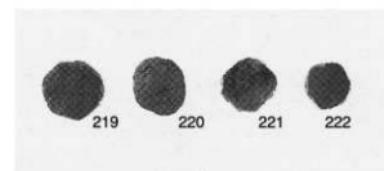
XIII D類土器 (2)



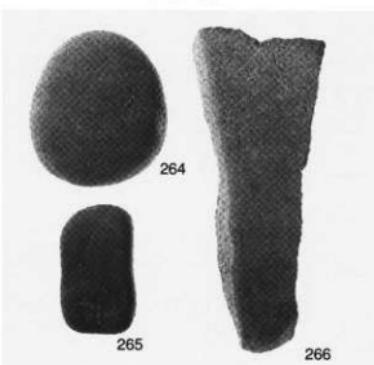
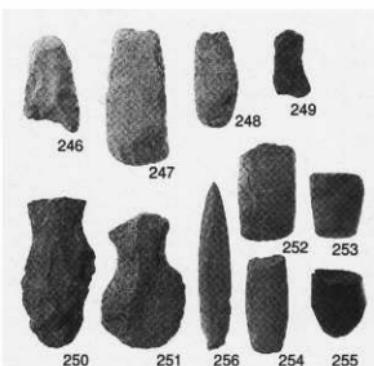
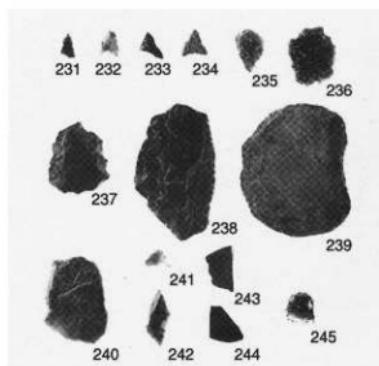
XIII F類土器



古代の土器



土器片加工品



報告書抄録

フリガナ	オウジバル					
書名	王子原遺跡					
副書名	国営都城盆地農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次	第2集					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第45集					
編集者名	高橋 誠					
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地					
発行年月日	2001年3月31日					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
オウジバル 王子原遺跡	ミヤザキケンミヤコノゾウク 宮崎県都城市 ヤスヒサチヨウ 安久町 アザ オウジバル 字王子原	31° 40' 24"	131° 04' 58"	1998.5.18 1998.9.29	1.500m ²	国営ファームボンド用 管理道路敷設工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
集落 散布地	縄文時代 古代	竪穴住居跡 5 竪穴状遺構 4 集石遺構 1 溝状遺構 1 土坑 19 掘立柱建物跡 1 柱穴群	縄文土器 石器 土師器 須恵器 貨錢	方形プランに 円形配置の主 柱穴をもつ竪 穴住居跡 肩に柱穴をも つ溝状遺構		

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第45集

王子原遺跡

国管都城盆地農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）

2001年3月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212 宮崎市佐土原町大字下那珂4019番地
TEL 0985-36-1171 FAX 0985-72-0660

印刷 (株) 長崎印刷
〒889-4413 西諸県郡高原町大字後川内18-2
TEL 0984-42-1069 FAX 0984-42-1330
